

Sophos Enterprise Console 5.x

インストール手順書

(※導入手順書として納品しないこと！)

目次

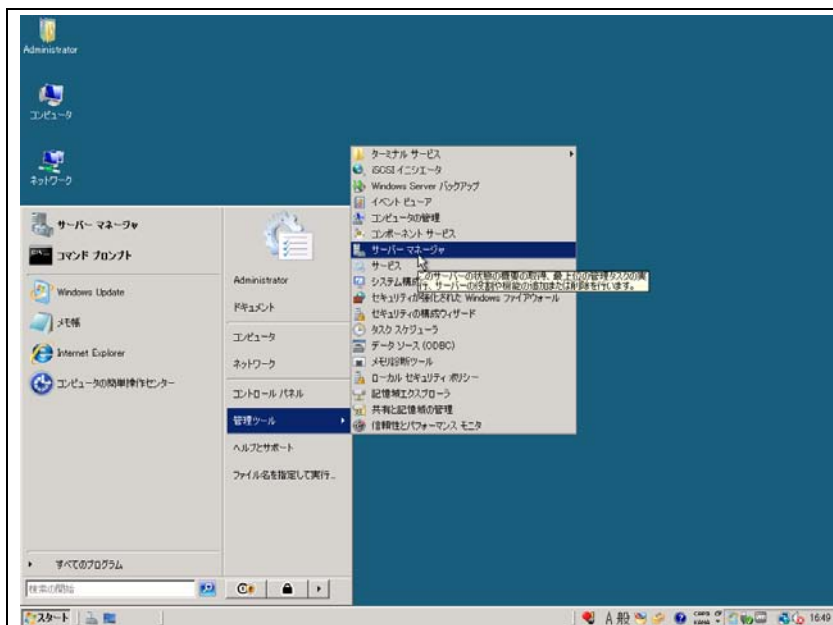
1. Sophos Enterprise Console をインストールする前に.....	3
1.1. サーバ側の準備.....	3
1.1.1. .NET Frameworkのインストール.....	3
1.1.2. Windows Installer 4.5 のインストール.....	4
1.2. Sophos用システムユーザの作成.....	6
1.3. Web CID 環境を構築する場合の準備.....	9
1.3.1. Internet Information Service (IIS) のインストール.....	9
1.3.2. IIS 7.0 Administration Pack のインストール (オプション)	13
2. Sophos Enterprise Console のインストール.....	15
2.1. インストーラの実行.....	15
3. Sophos Enterprise Console の設定.....	22
3.1. Sophos Enterprise Console インストール後 初回起動時設定.....	22
3.2. Sophos Update Manager の設定.....	23
3.3. Sophos Enterprise Console グループ設定.....	28
3.3.1. 新規ポリシーの作成 (デフォルトポリシーの複製)	28
3.3.2. グループの作成.....	31
3.3.3. グループへのポリシーの割り当て	32
4. Web CID環境 (HTTP経由の更新) の設定.....	34
4.1. Internet Information Manager の詳細設定.....	34
4.1.1. Windows 2003R2/2008/2008R2 共通作業.....	34
4.1.2. Windows 2008/2008R2 のみの作業	37
4.2. 仮想ディレクトリの設定	39
4.3. アップデートポリシーへのWeb CID	42
5. クライアント導入・管理化手順.....	45
5.1. インストーラの生成場所を確認する	45
5.2. クライアントのインストール (Windows)	46
5.2.1. Sophos Endpoint Security and Control (Windows版アンチウイルス) のインストール.....	46
5.2.2. Sophos Endpoint Security and Control (Windows版アンチウイルス) の管理登録.....	51
5.3. クライアントのインストール (Linux)	56
5.3.1. Sophos Anti-Virus 7.x (Linux版) のインストール.....	56
5.3.2. Sophos Anti-Virus (Linux版アンチウイルス) の管理登録.....	62

1. Sophos Enterprise Console をインストールする前に

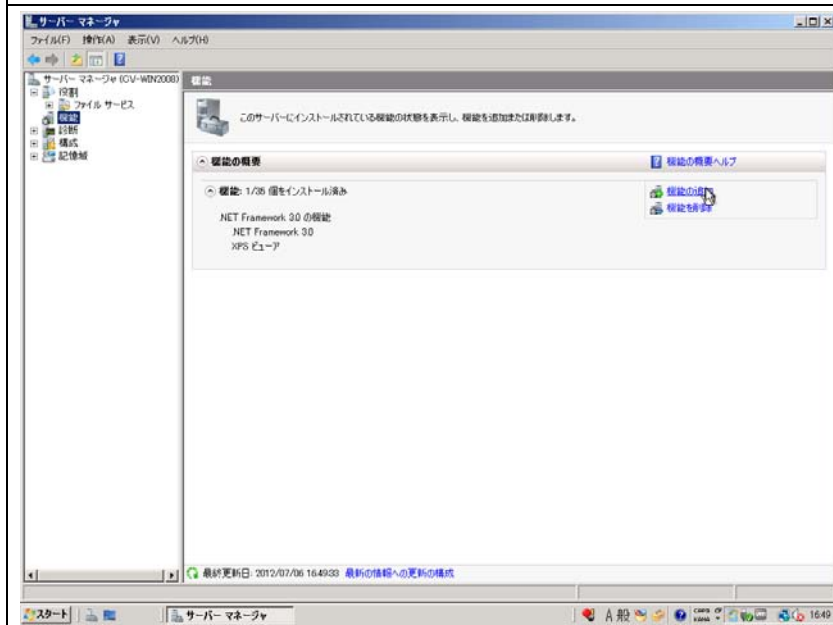
1.1. サーバ側の準備

1.1.1. .NET Frameworkのインストール

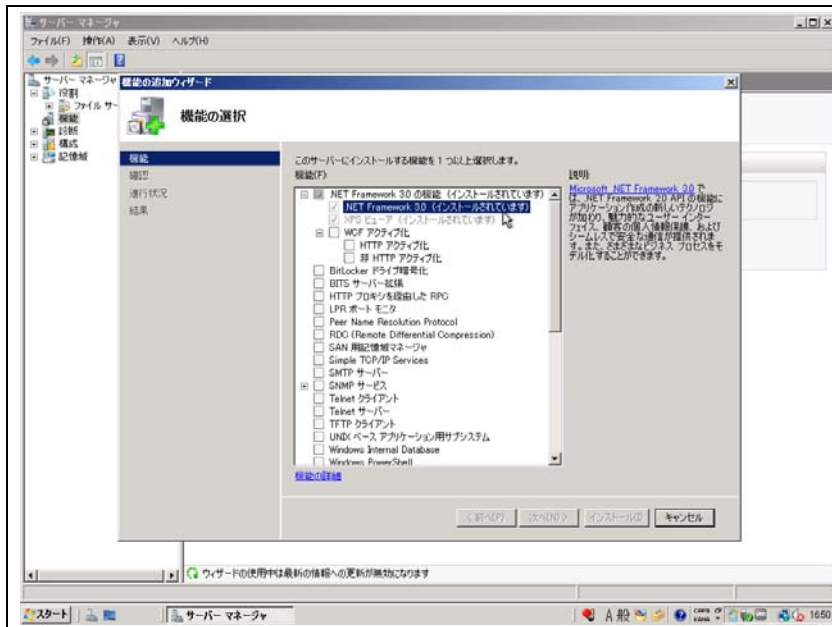
- Windows 2008 サーバ以降の場合に必要な手順。
- Windows 2003R2 サーバの場合は、Sophos 付属のインストーラが使用される。



スタートメニューから「サーバマネージャ」を起動する。



「役割」 → 「機能」を選択する。



「.NET Framework 3.x」を選択する。

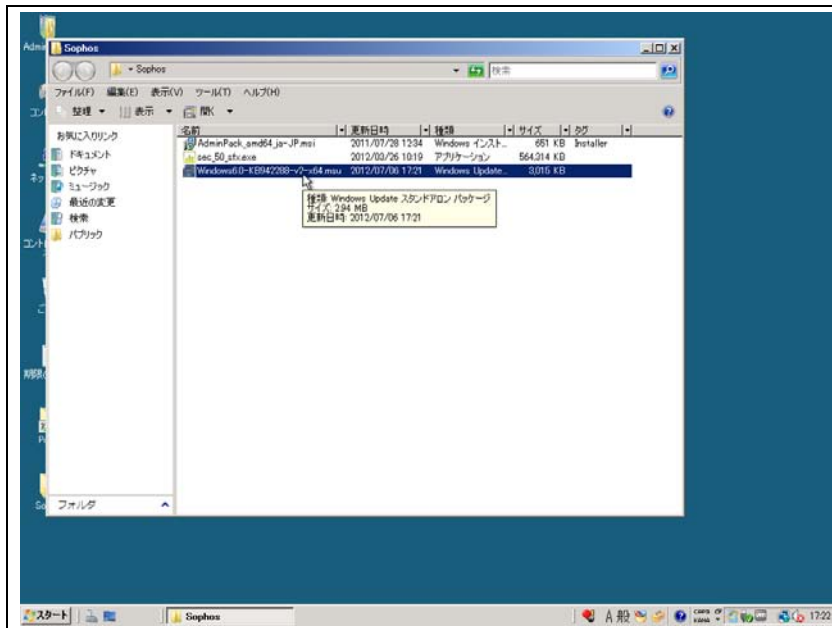
この際、親ツリーの「.NET Framework 3.x」レベルでチェックせず、子レベルでチェックすること。

この場合、IIS でアクセス権限の対処が必要になってくる。

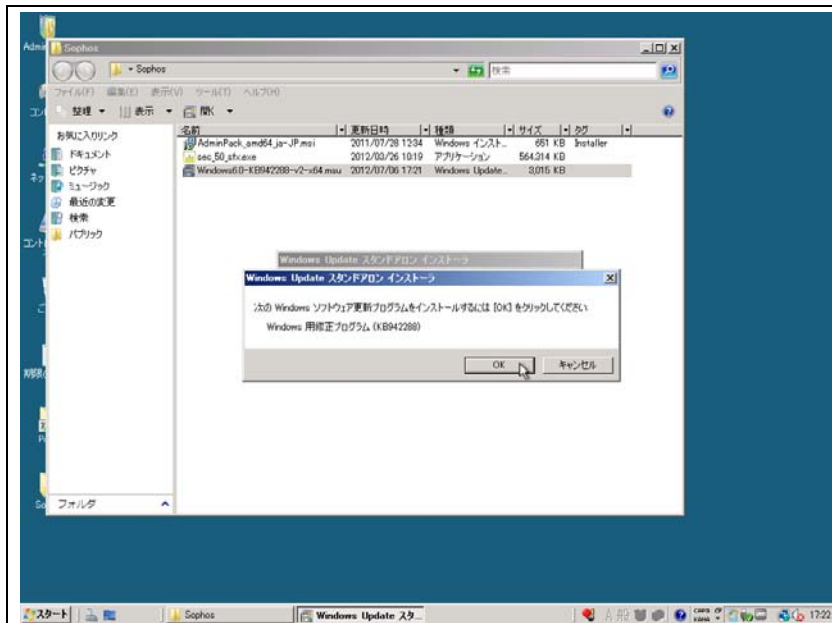
未インストールの場合、インストールボタンを押してインストールを行う。

1.1.2. Windows Installer 4.5 のインストール

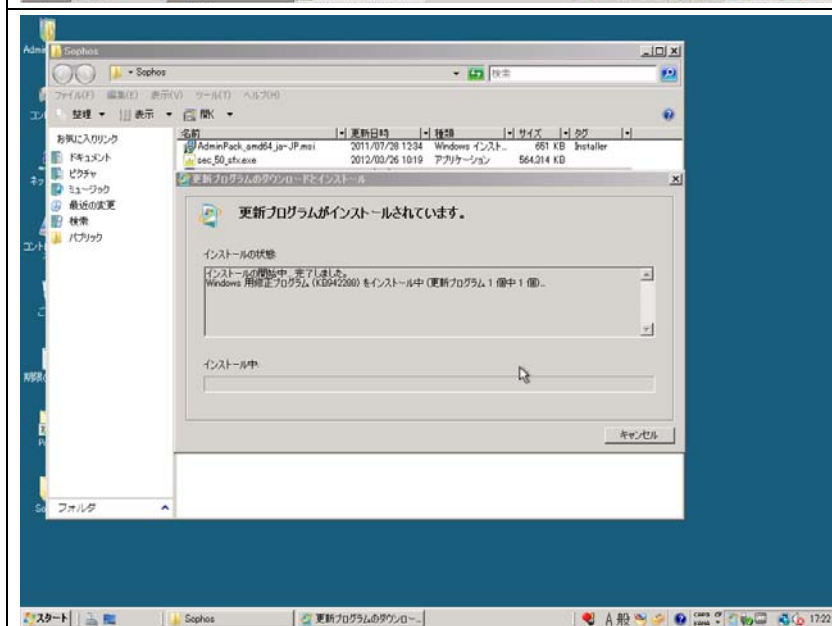
- ・ SEC バンドル版 SQL Server 2008 Express をインストールする際に必要となる。
- ・ 別途 SQL サーバが存在し、既にインスタンスを作成している場合は必要ない。



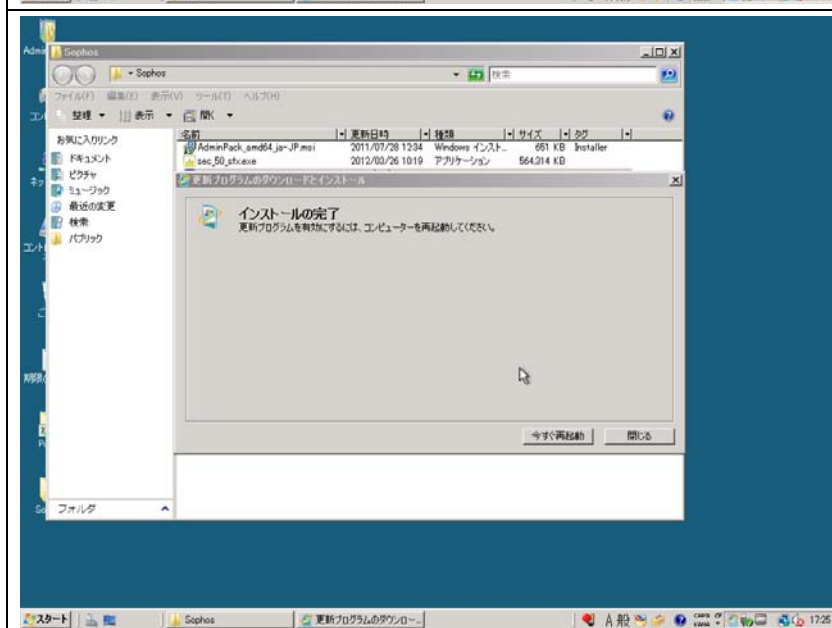
あらかじめ入手しておいた Windows Installer 4.5 をインストールする。



「Windows Update スタンドアロン インストーラ」ダイアログが起動するので、「OK」をクリックする。



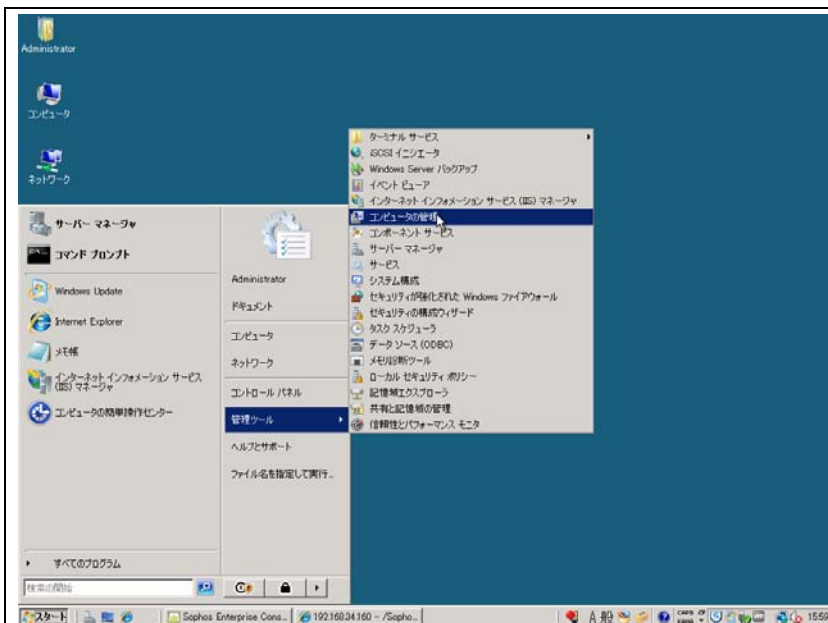
Windows Update が行われるので、適用されるまで待つ。



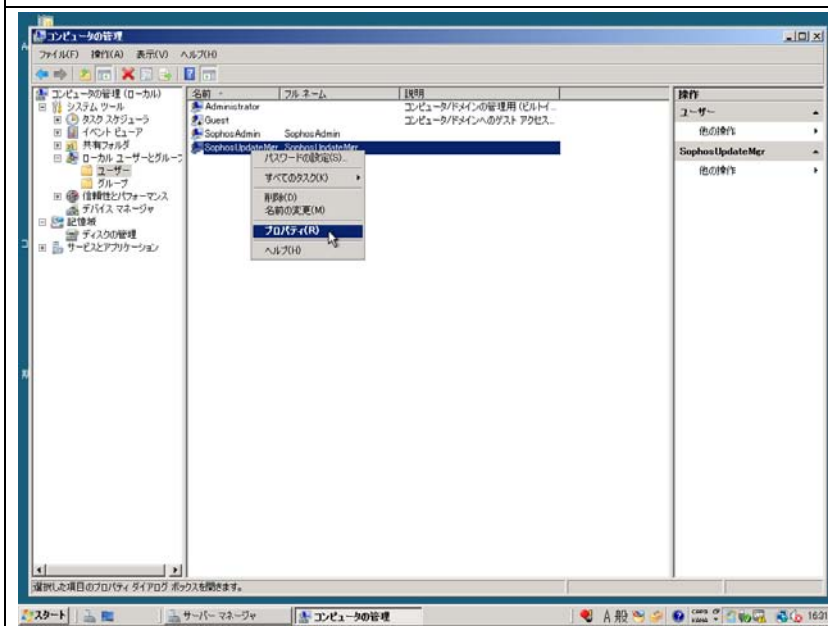
完了すると再起動を促されるので、「今すぐ再起動」をクリックして再起動する。

1.2. Sophos用システムユーザの作成

- ・ Sophos Enterprise Console には下記の 2 種類のアカウントの作成が必要となります。
名称は仮の名称または旧バージョンでのユーザ名となります。
 - 「**SophosAdmin**」 (必要に応じて)
 - ◇ Sophos サービスを管理するアカウントです。(Administrator を使用しても構いません)
 - ◇ 本アカウントを作成しても、Administrator で EnterpriseConsole は利用可能です。
 - ◇ SQL Server への書き込み権限もこのアカウントで行います。
 - 「**SophosUpdateMgr**」 (必須)
 - ◇ SophosUpdateManager が Warehouse、CID へのアクセスに使用します。
 - ◇ クライアントが Cifs でアクセスする際の認証に使用します。

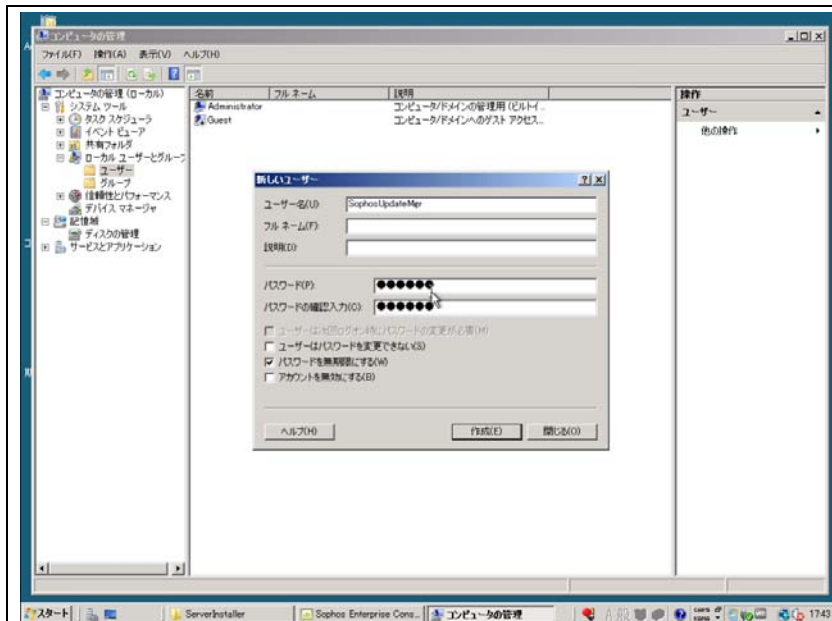


スタートメニューから「管理ツール」→「コンピュータの管理」を選択します。



「ローカルユーザーとグループ」→「ユーザー」を選択します。

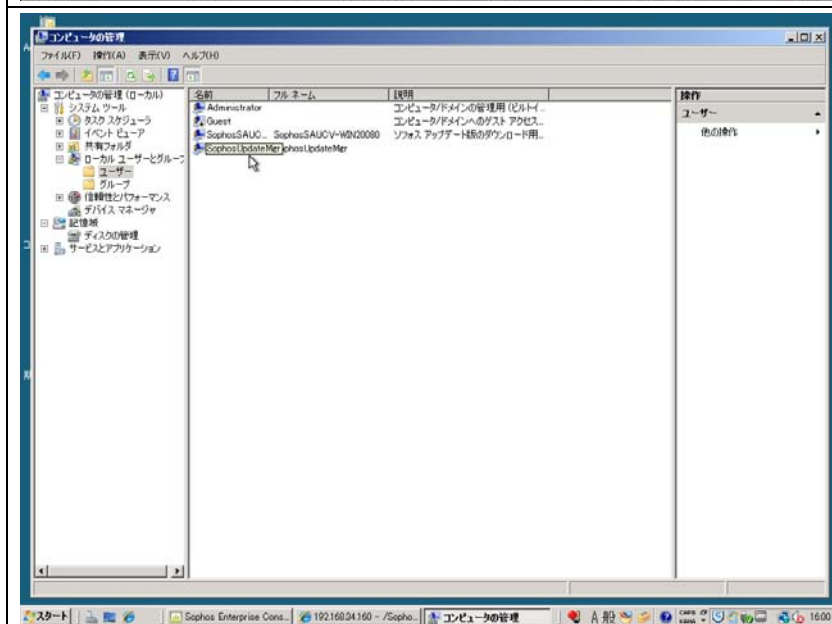
右クリック→「新しいユーザー」を選択します。



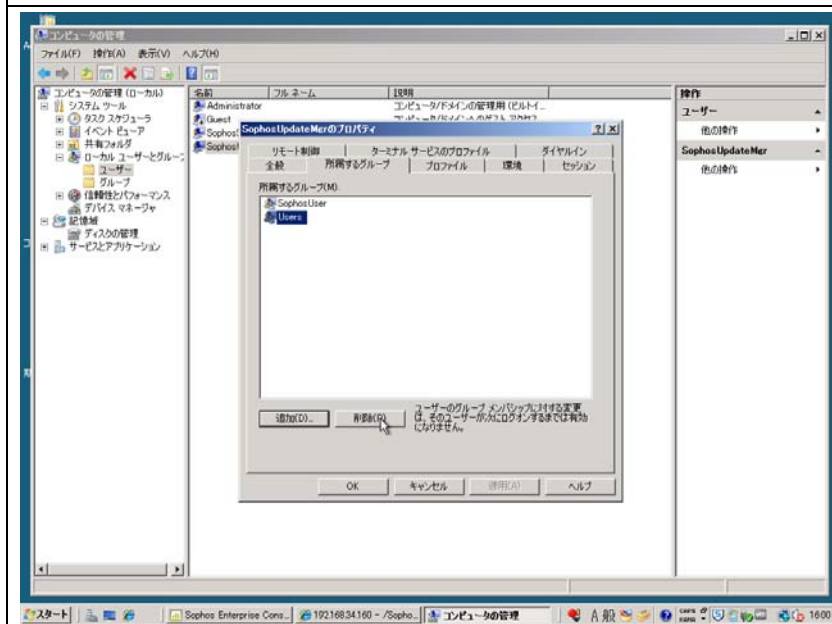
※ここからの作業は作成するアカウントの数だけ繰り返し行って下さい。

「SophosAdmin」「SophosUpdateMgr」の2つのアカウントを作成します。

「パスワードを無期限にする」のみにチェックを入れておきます。

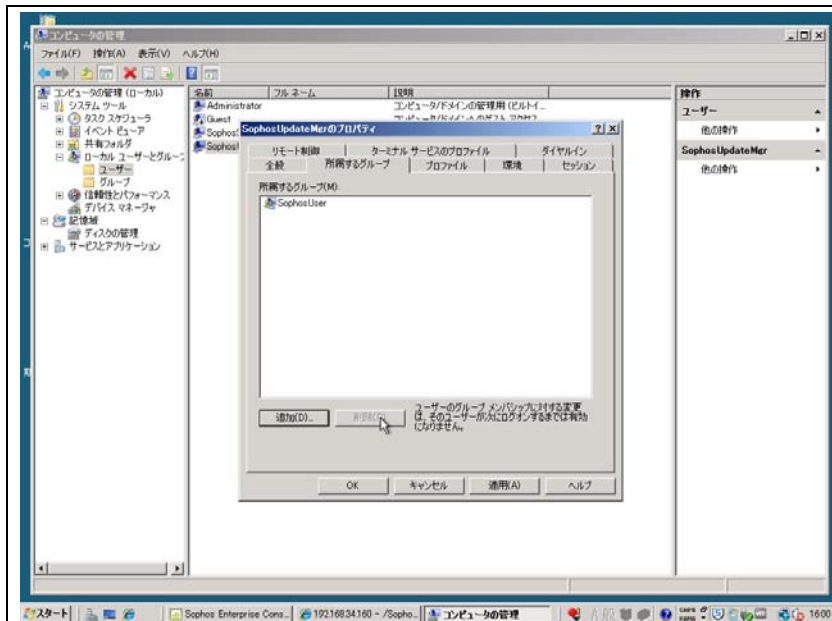


登録したユーザ名を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

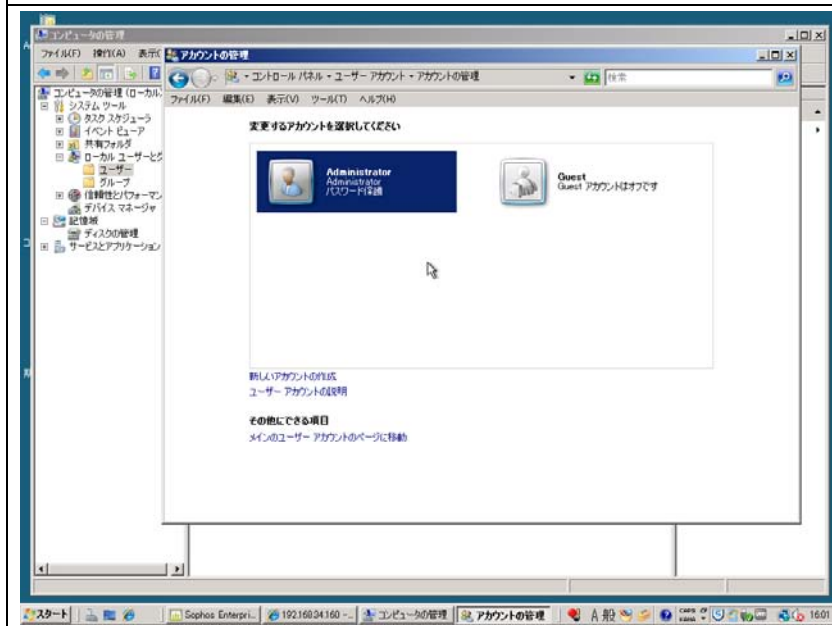


「所属するグループ」タブを選択し、表示されているグループから「Users」を選択して「削除」ボタンを押して下さい。

※この設定を行わないと、このアカウントがログインユーザとして使用可能になり、「ようこそ画面」にも表示されます。



削除されたことを確認し、「OK」ボタンをクリックしてコンピュータの管理画面を閉じます。



念のため、コントロールパネルの「ユーザーアカウント」→「アカウントの管理」に「SophosAdmin」「SophosUpdateMgr」の二つが表示されていないことを確認して下さい。

確認が出来たら、ウィンドウを閉じます。

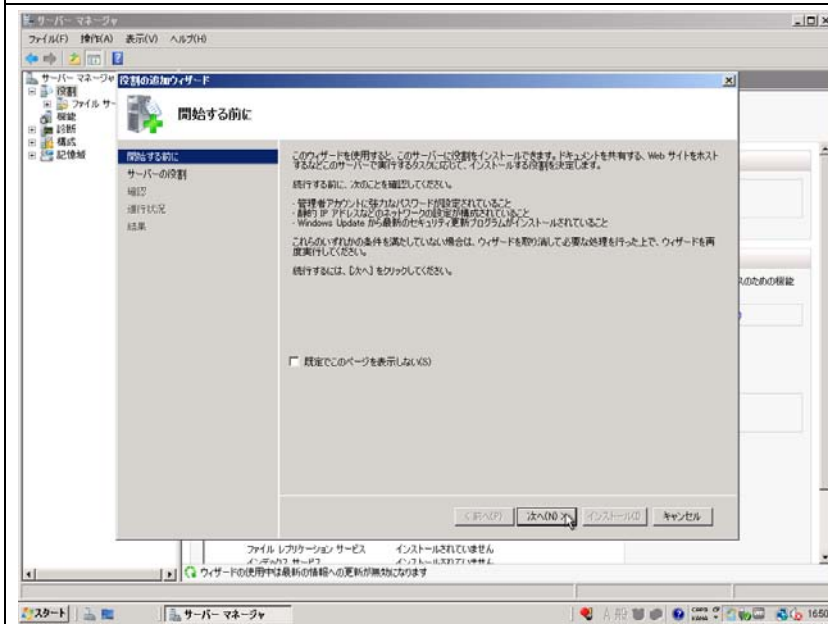
1.3. Web CID 環境を構築する場合の準備

1.3.1. Internet Information Service (IIS) のインストール

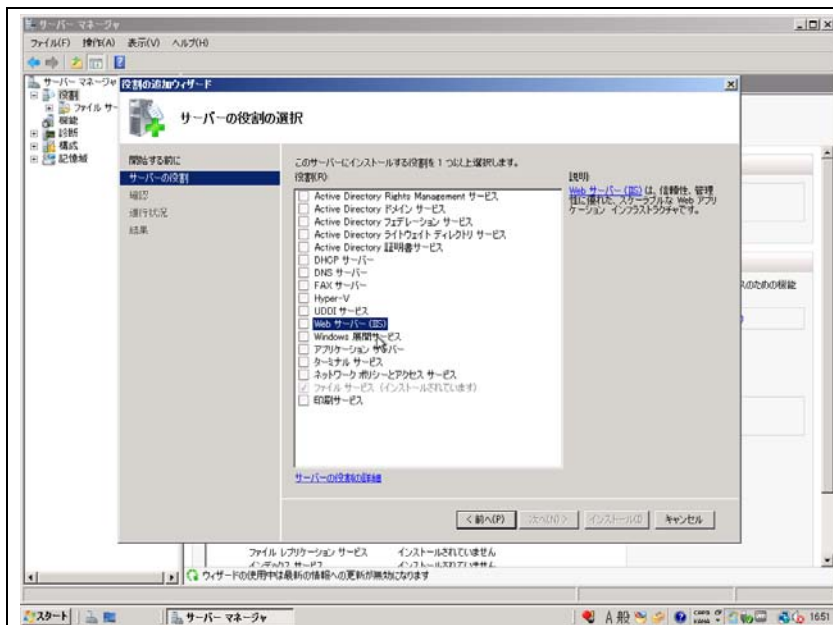
- ・ クライアントへの定義ファイルを HTTP で配信する場合に必要。(推奨)
- ・ Windows 2008 以降では設定項目が若干増える。
- ・ IIS7.0 の場合、別途「Administration Pack」パッチを当てる必要がある。



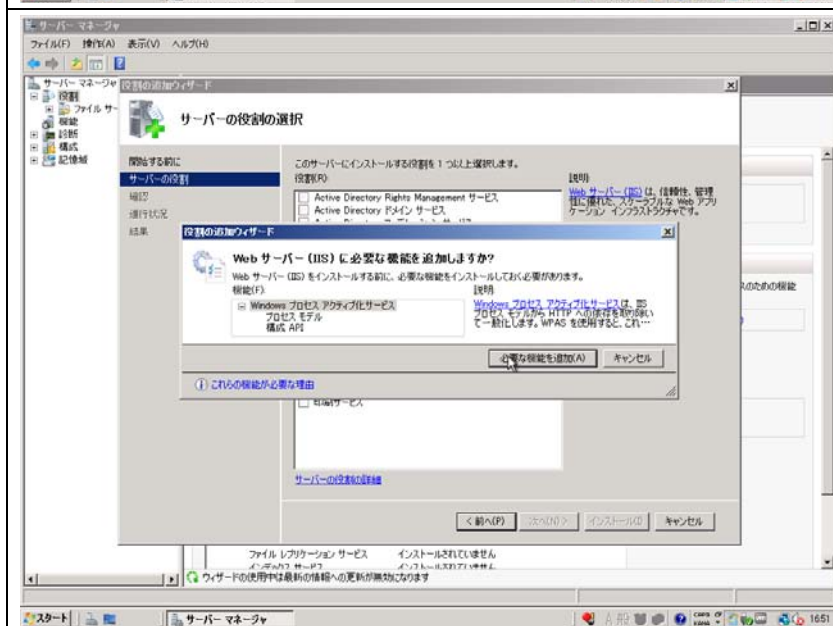
「サーバマネージャ」から「役割」ツリーを選択し、「役割の追加」をクリックする。



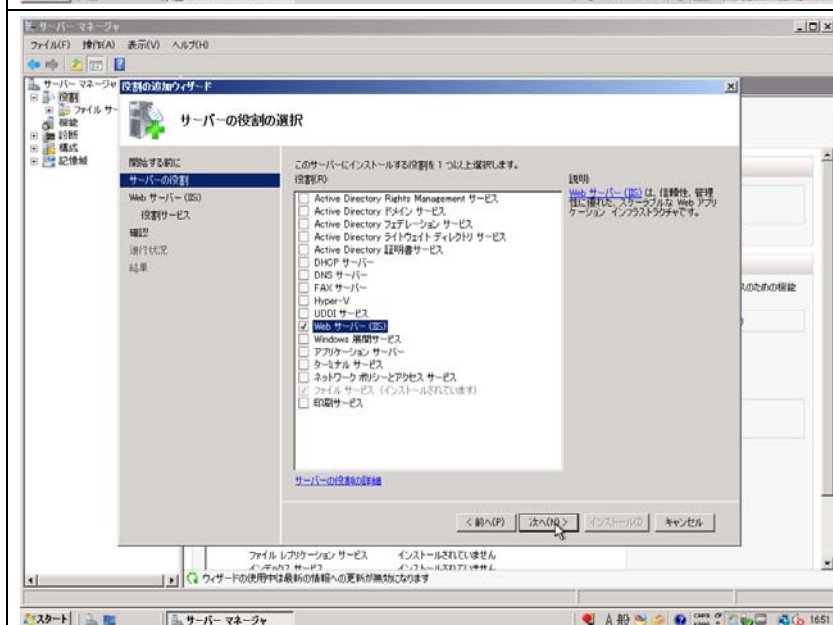
「役割の追加ウィザード」が起動するので「次へ」をクリックする。



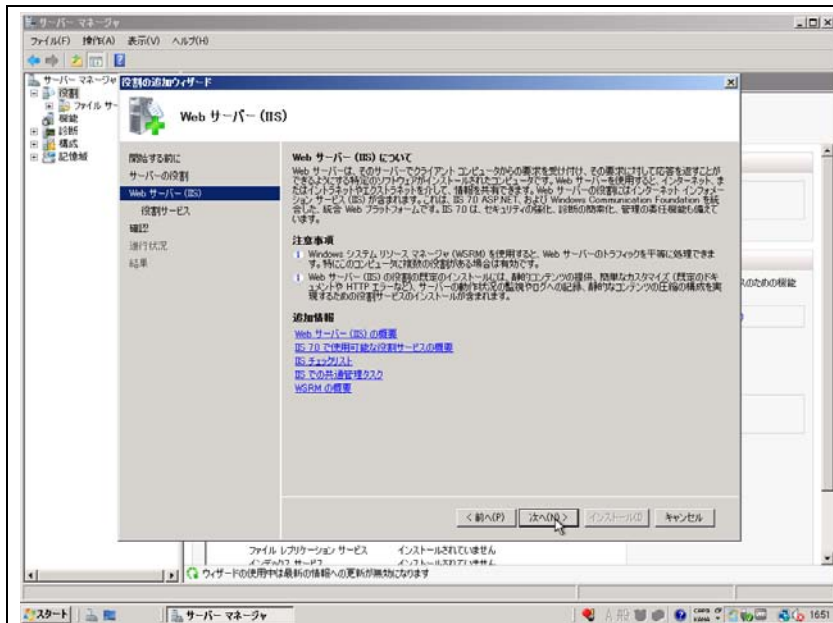
「Web サーバー (IIS)」のチェックボックスをクリックする。



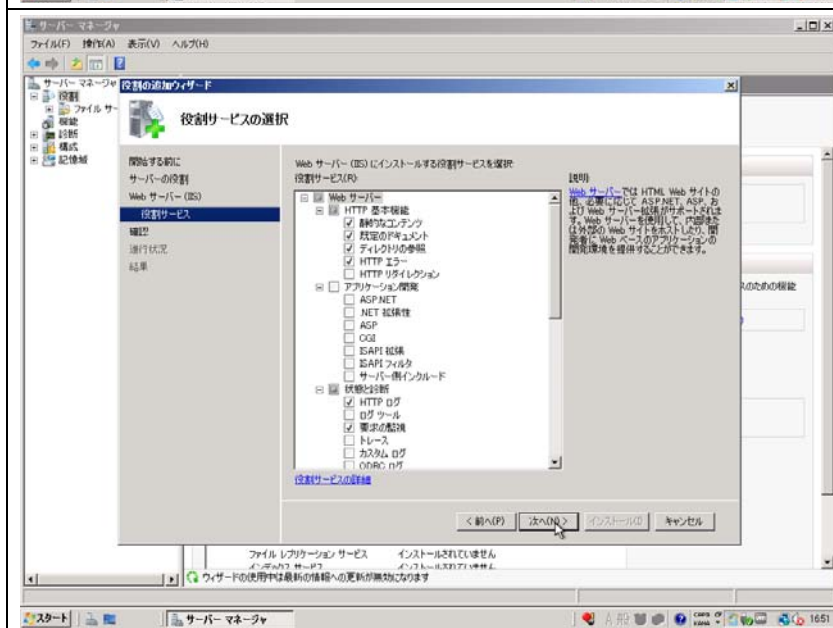
依存パッケージを示すポップアップ画面が開くので「必要名機能を追加」ボタンをクリックする。



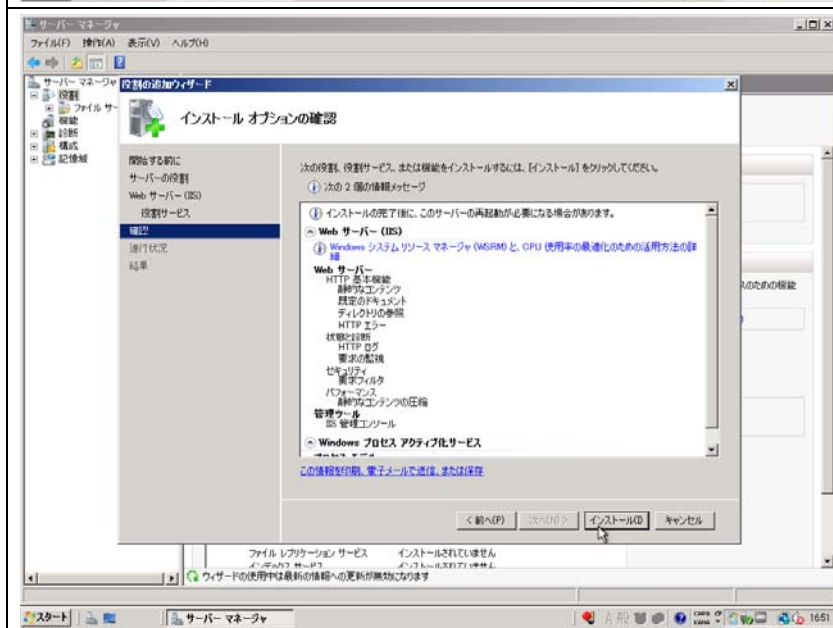
「Web サーバー (IIS)」にチェックが入ったのを確認し、「次へ」をクリックする。



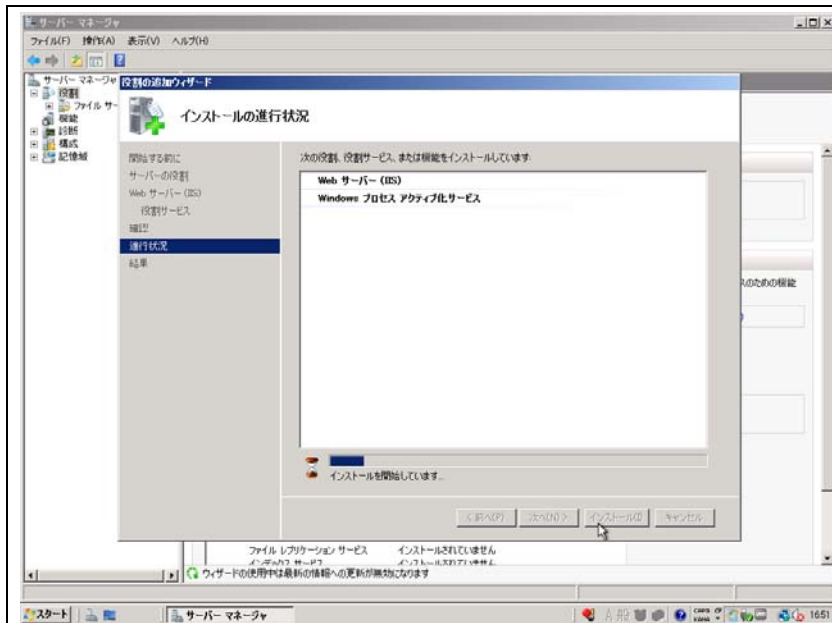
IIS についての説明と注意事項が表示されるので「次へ」をクリックする。



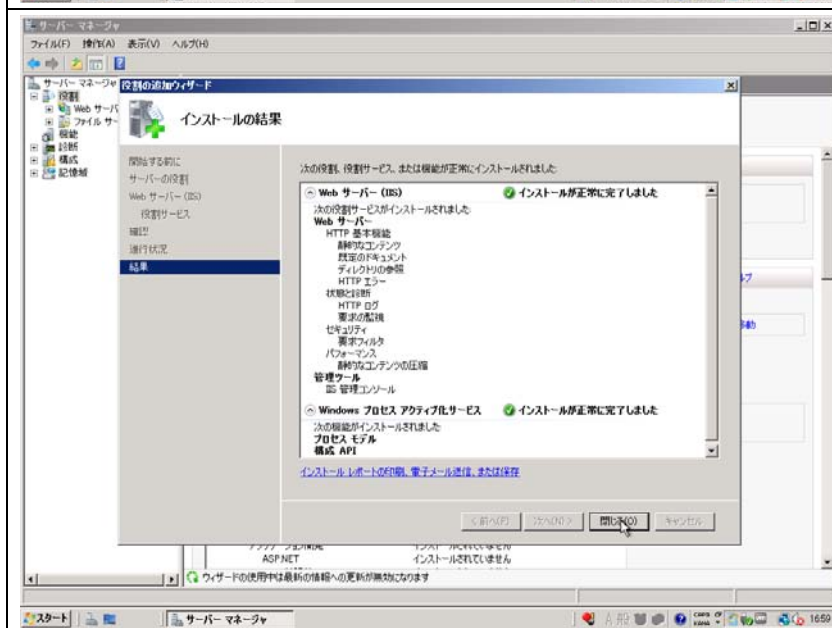
デフォルトのチェック状態のまま「次へ」をクリックする。



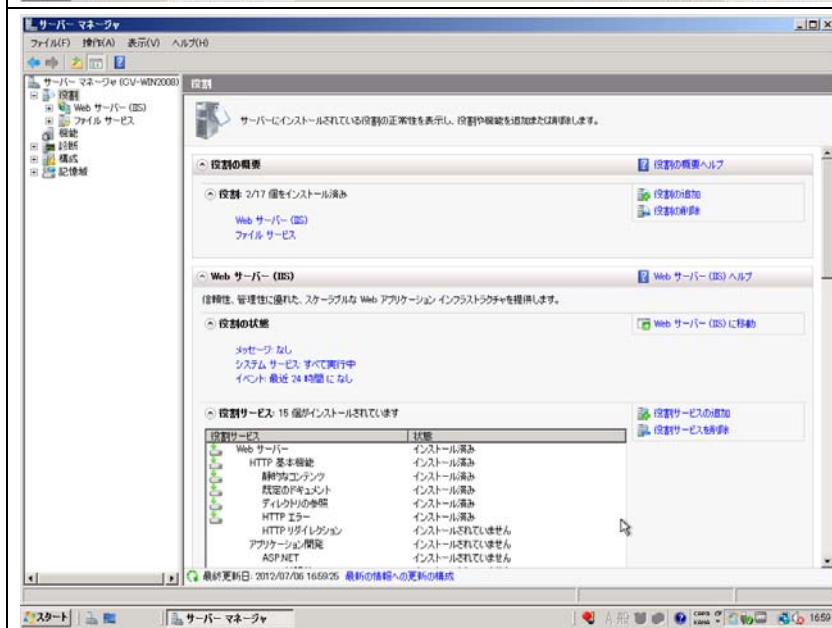
インストールする内容が表示されるので、「インストール」をクリックする。



インストール中。



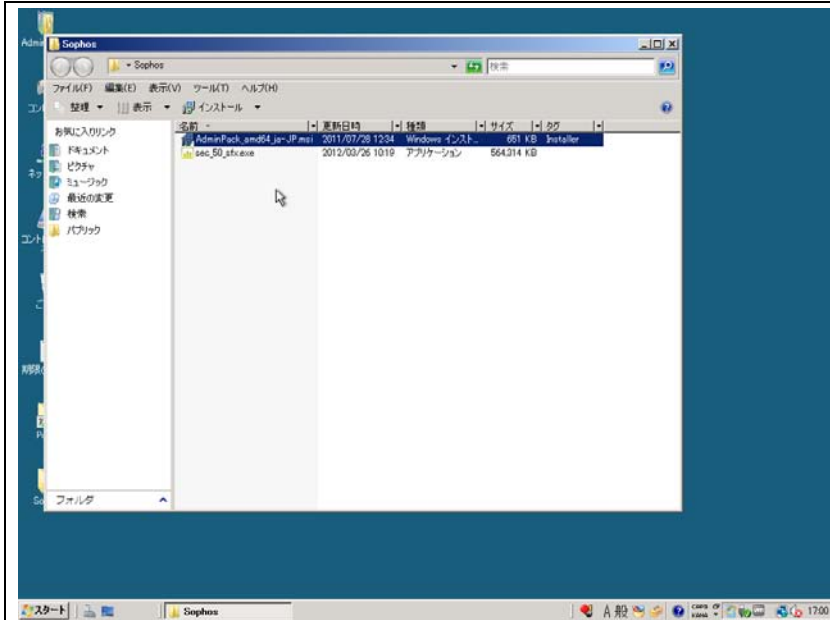
インストール結果が表示されるので、「閉じる」をクリックする。



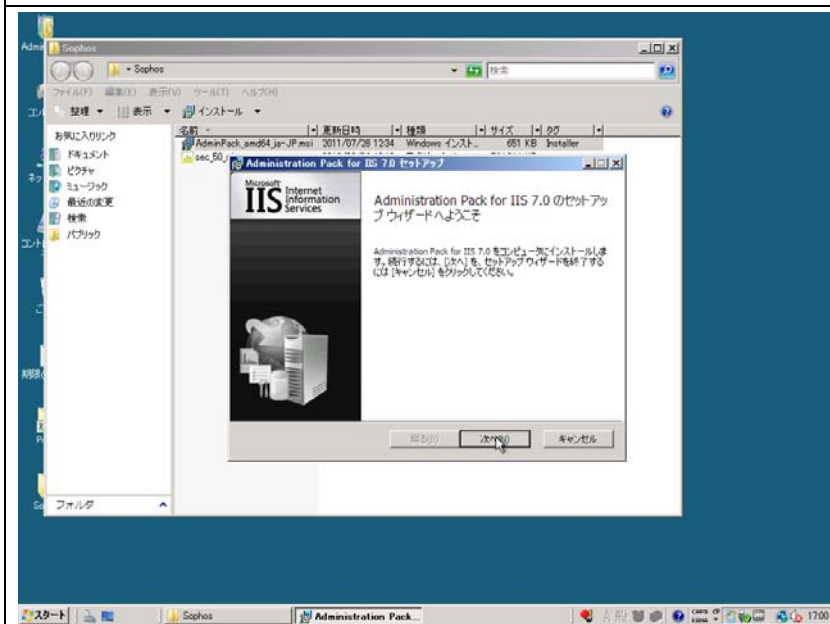
「役割」に「Web サーバー (IIS)」が追加されていることを確認し、サーバーマネージャを終了する。

1.3.2. IIS 7.0 Administration Pack のインストール (オプション)

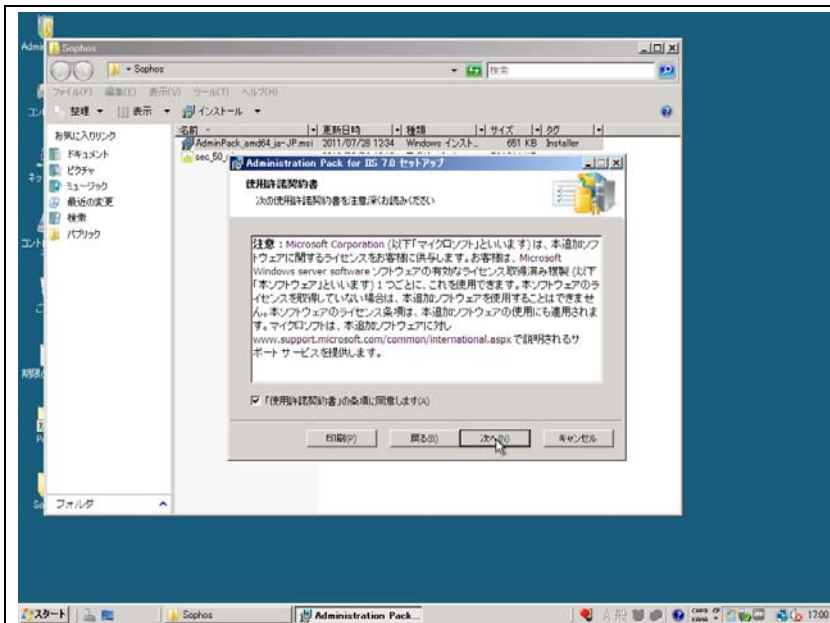
- ・ Windows 2008 標準の IIS7.0 の場合、「要求フィルタ設定」などが行えない。
- ・ 別途 MS より「AdministrationPack」を導入する必要がある。
- ・ IIS7.0 以前、または IIS 7.5 以降の場合は本項目は不要。



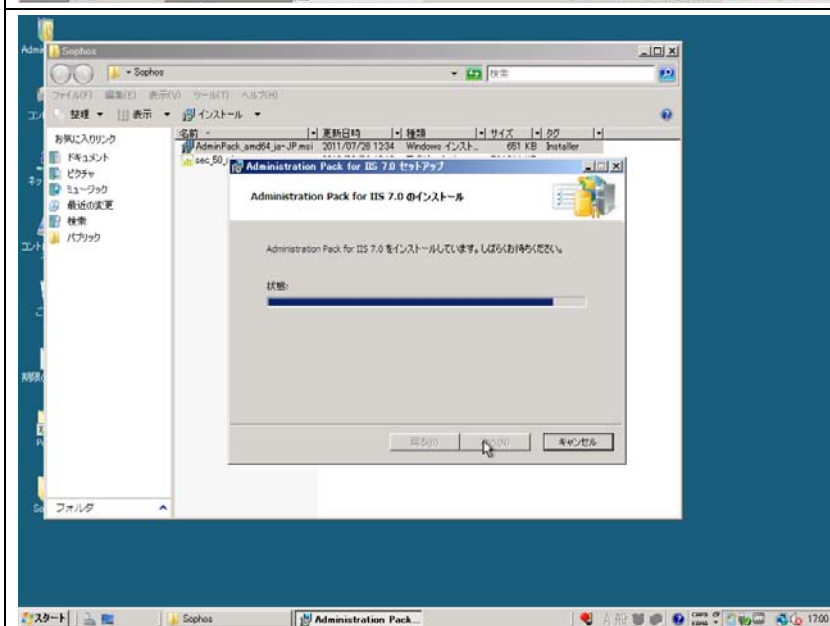
入手した msi インストーラを実行する。



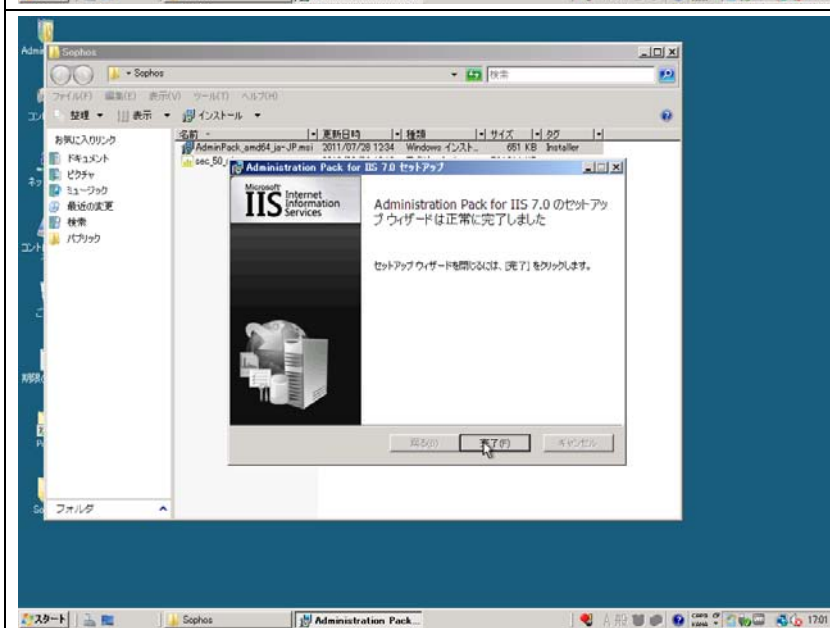
セットアップウィザードが起動したら「次へ」をクリックする。



「使用許諾契約書の条項に同意する」にチェックを行い、「次へ」をクリックする。



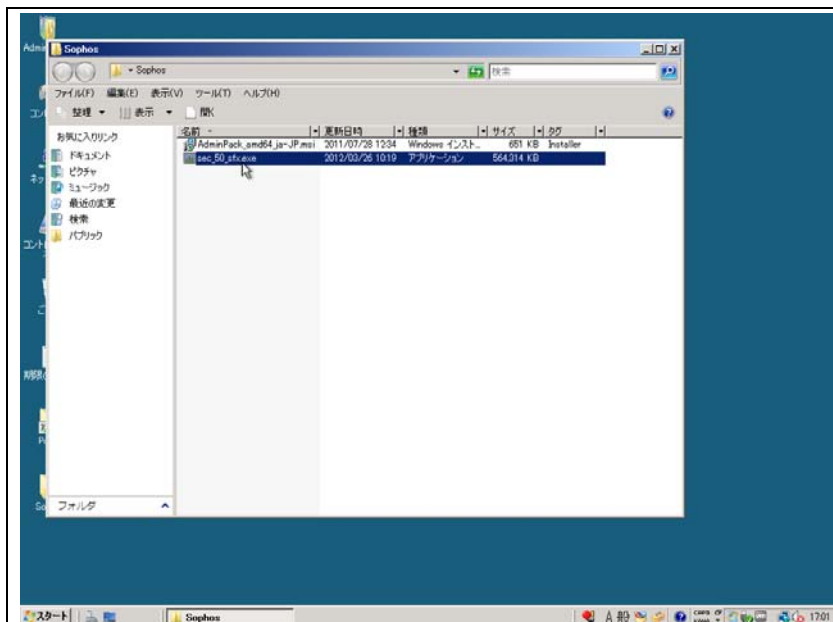
インストール中。



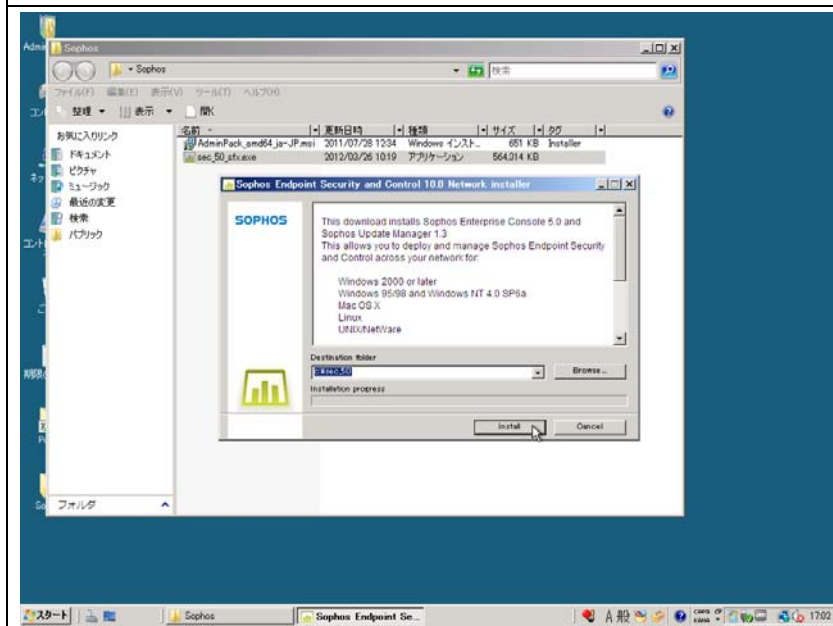
インストールが完了したら「完了」をクリックしてセットアップウィザードを閉じる。

2. Sophos Enterprise Console のインストール

2.1. インストーラの実行

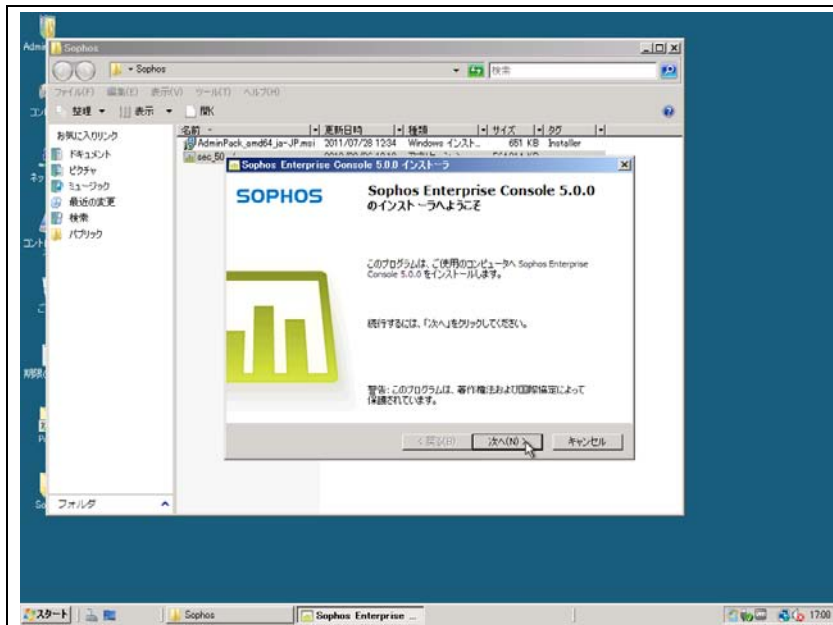


EnterpriseConsole インストーラを実行します。

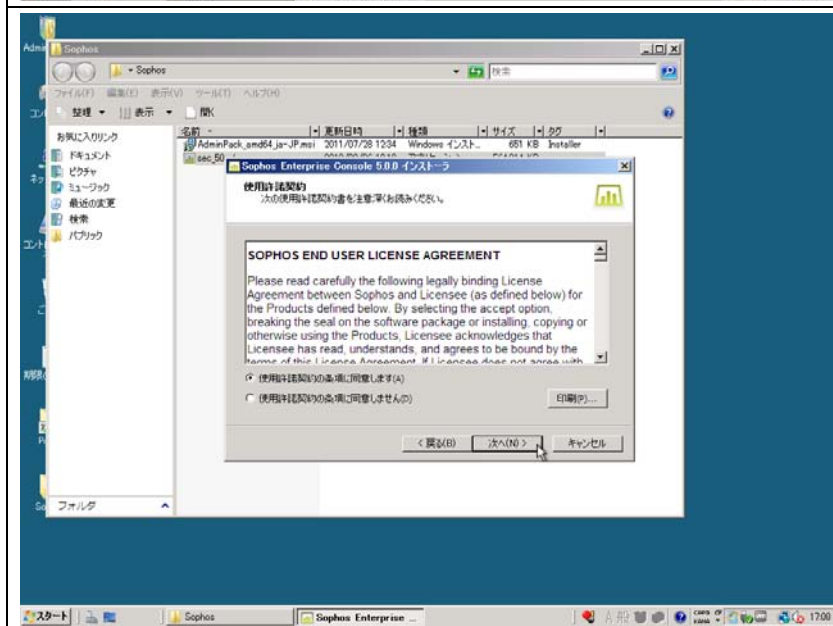


展開先を指定し、「Install」をクリックします。

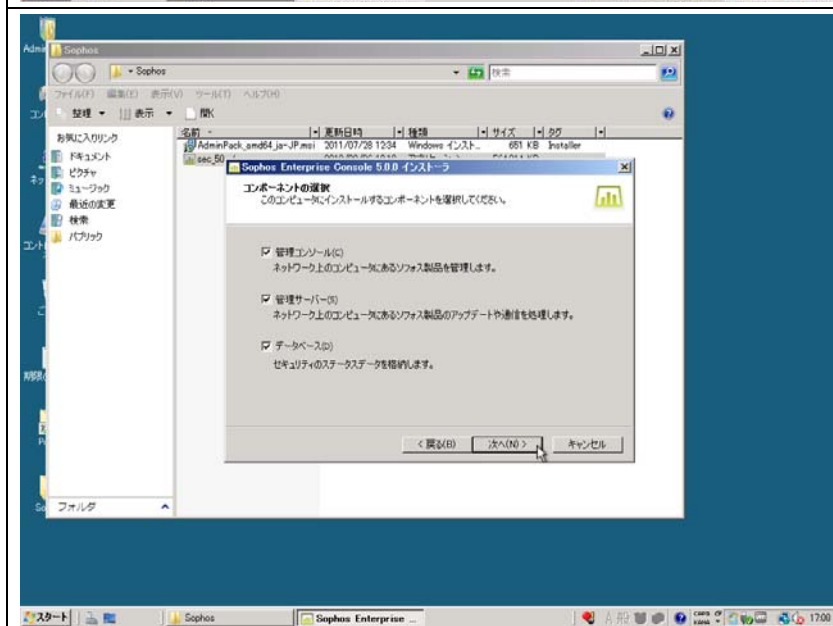
何らかの理由でインストーラを再実行する場合、個々に指定した先の「setup.exe」を実行することで、展開作業をスキップすることが出来ます。



展開が完了すると、インストーラが起動します。「次へ」をクリックします。

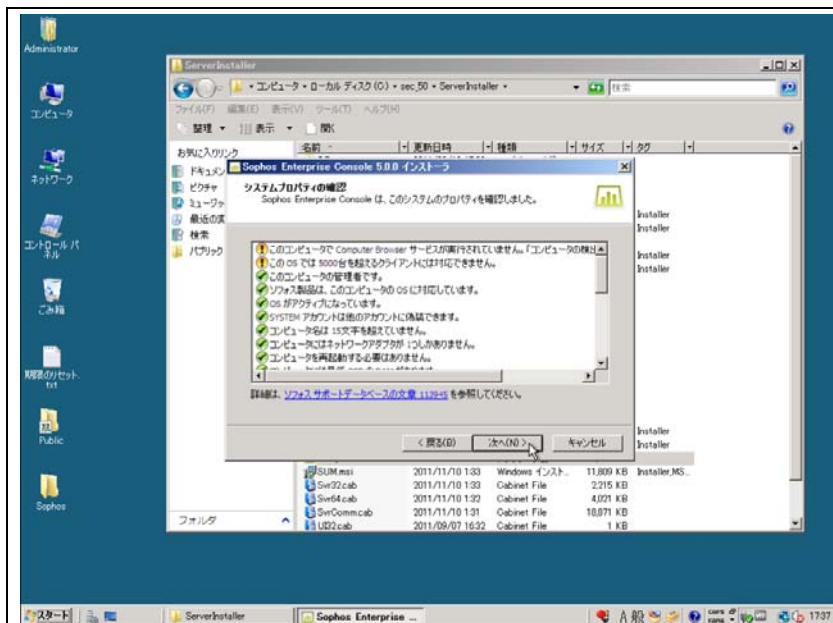


「使用許諾契約」を同意するにチェックし、「次へ」をクリックします。



「管理コンソール」「管理サーバー」「データベース」にチェックを行います。

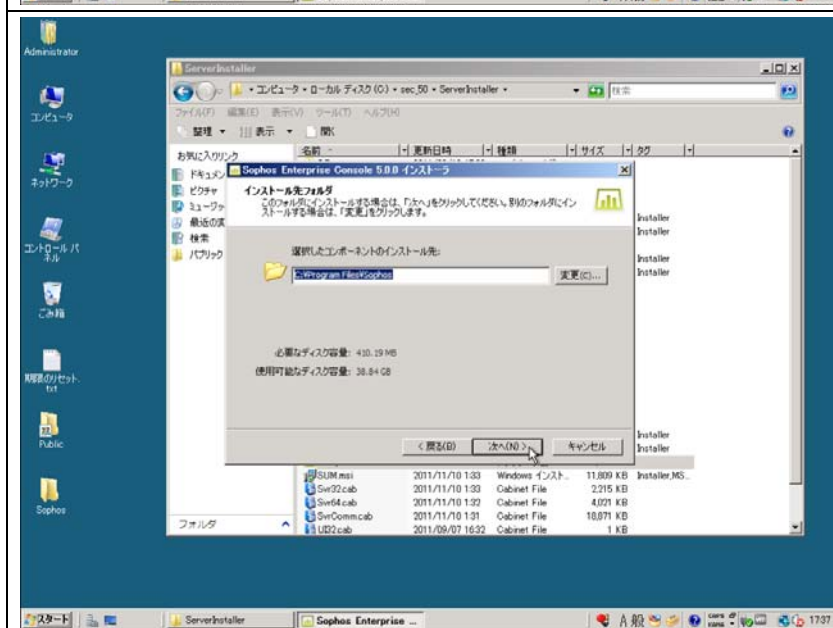
通常の場合、全てにチェックを行います。バンドル版意外の SQL Server を使用する場合でも、インスタンスへのデータ投入のためにデータベースへのチェックは行って下さい。



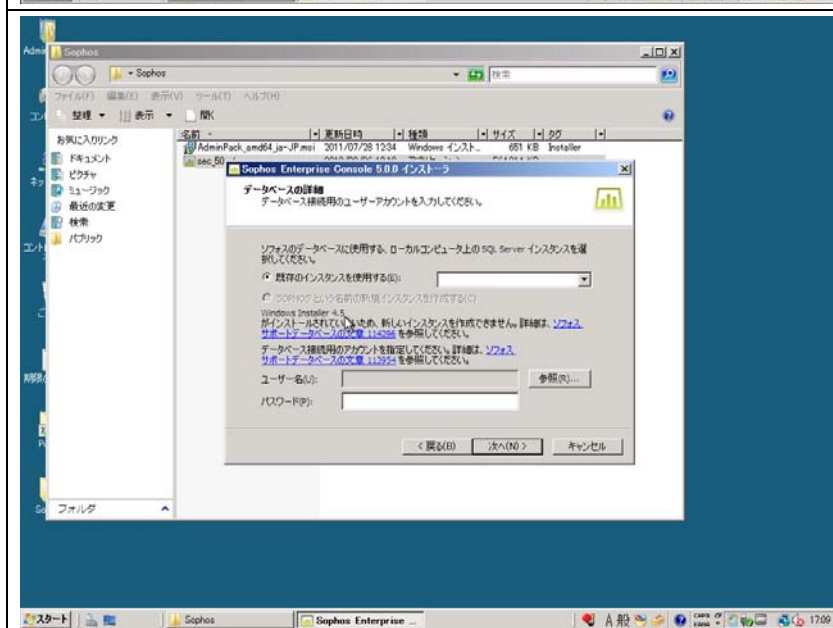
システムチェックが行われます。不備がある場合は警告が表示されます。

※全ての警告をクリアする必要はありません。必要に応じて確認して下さい。

問題無い場合、「次へ」をクリックします。



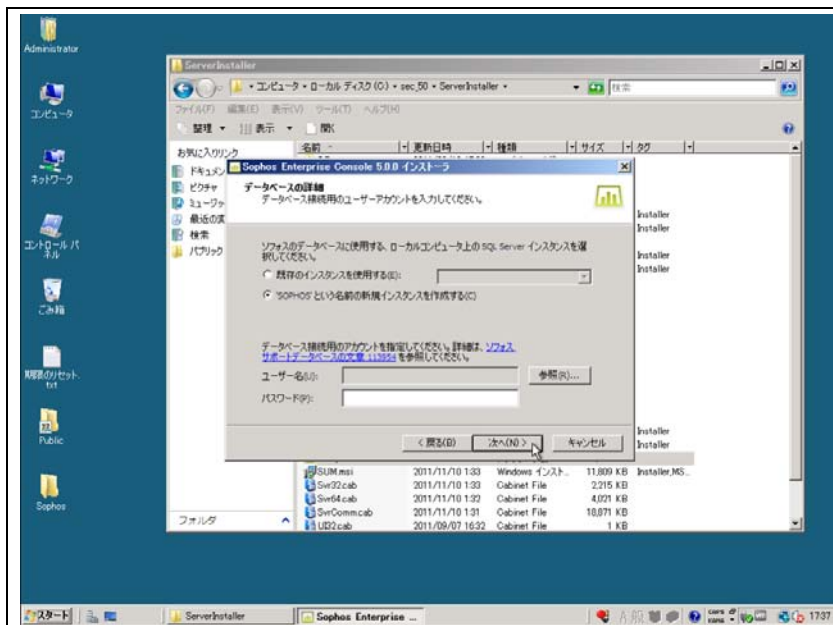
インストール先を選択し、「次へ」をクリックします。



※Windows Installer 4.5 がインストールされていない場合、バンドル版の SQL Server 2008 Express がインストールできないため、既存インスタンスのみの選択となります。

意図せずにこの画面が表示された場合、インストールを中断して Windows Installer 4.5 をインストールして下さい。

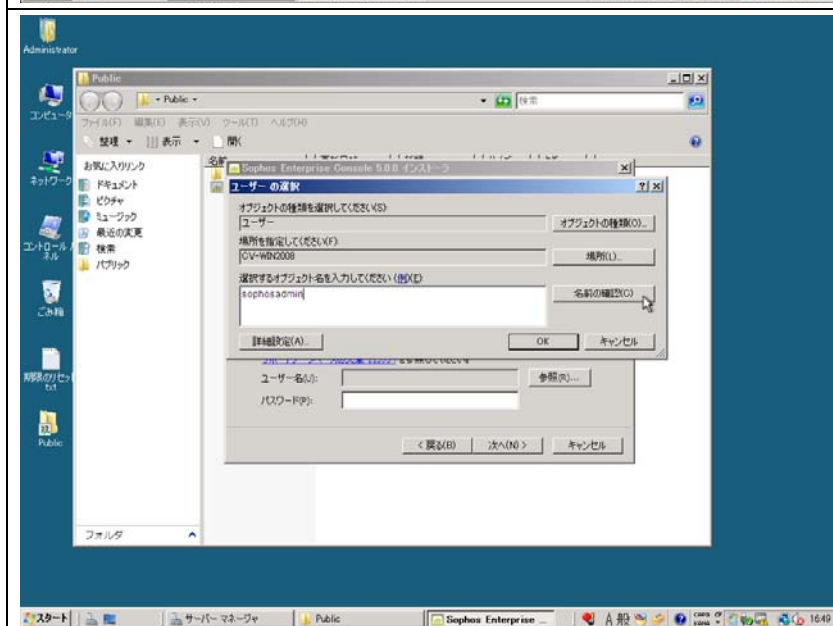
意図している場合 (Express を使わない) はこのまま進んで構いません。



データベースのインスタンス名を選択します。

通常の場合、新規にインスタンスを作成します。

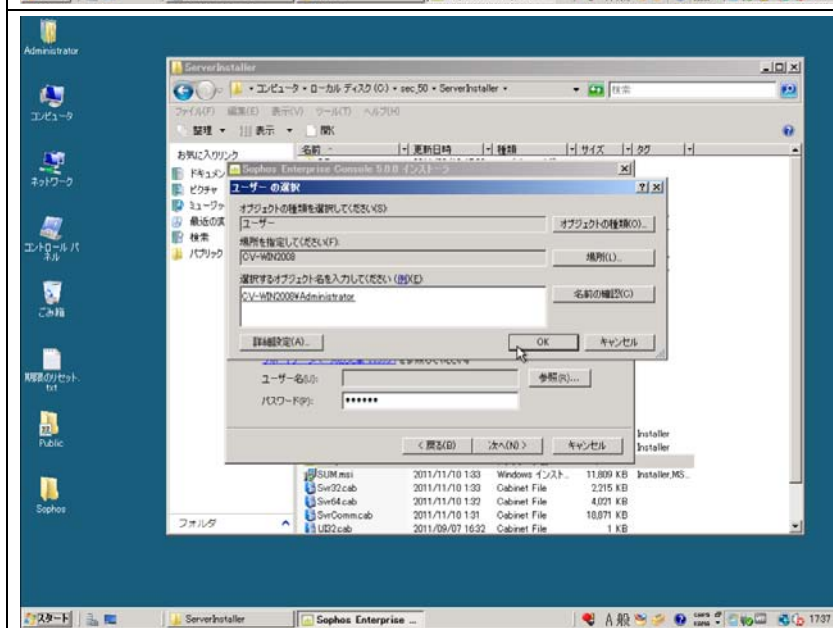
Express 版ではない SQL Server を使用している場合、あらかじめインスタンスを作成しておき、「既存のインスタンスを使用する」をチェックしてリストからインスタンスを選択します。



データベースの書き込み権限を持つユーザー名を指定します。

Administrator または、「SophosAdmin」など、別途作成した専用ユーザ名を指定します。(大文字小文字は判別しません)

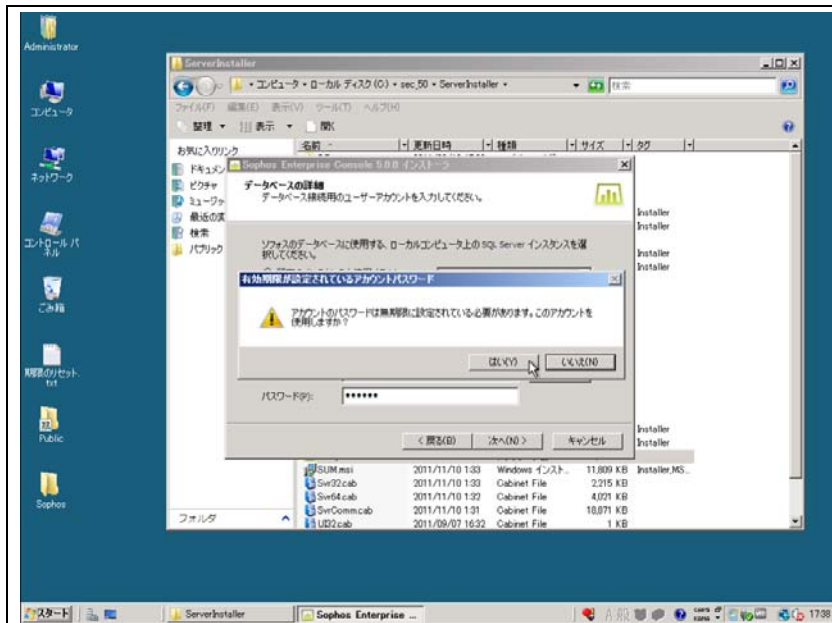
「名前の確認」をクリックします。



「コンピュータ名≠ユーザー名」と表示されることを確認し、「OK」ボタンをクリックして閉じます。

ここで指定したユーザに Sophos の各種管理権限 (グループ) が割り当てられます。

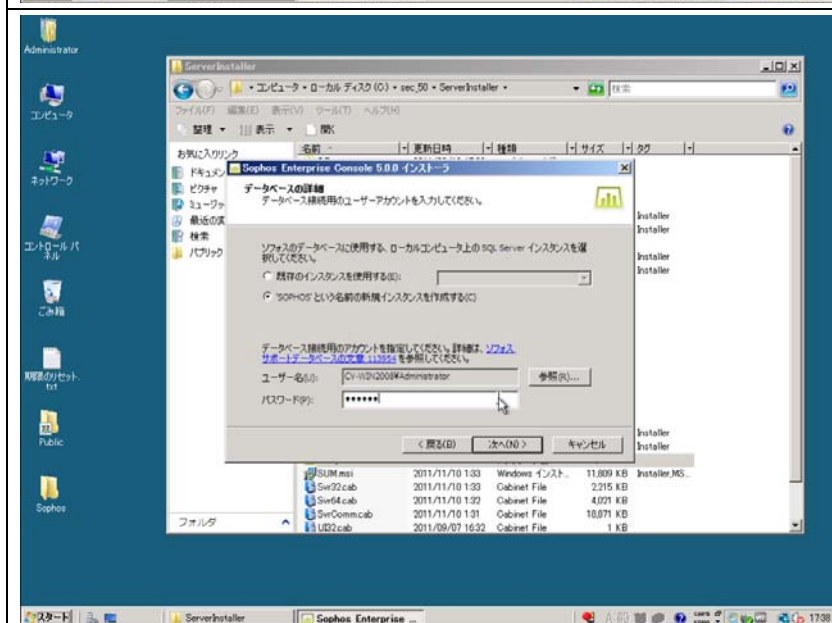
※Administrator を指定している場合、パスワードの変更の際にはご注意ください。



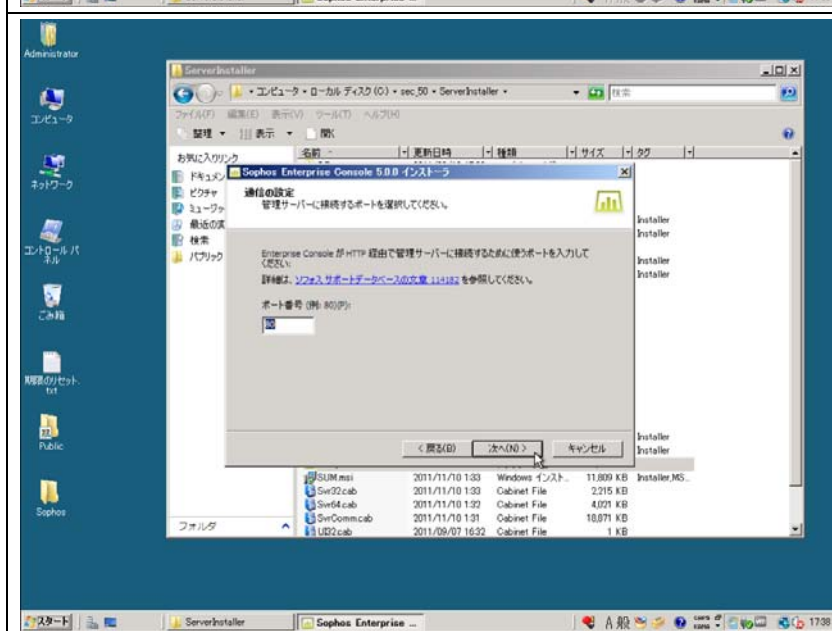
アカウントのパスワードに有効期限が存在している場合、警告が表示されます。

設定を続行することは可能ですが、あとでパスワードの有効期限を無期限に変更しておいて下さい。

「はい」をクリックし、次へ進みます。

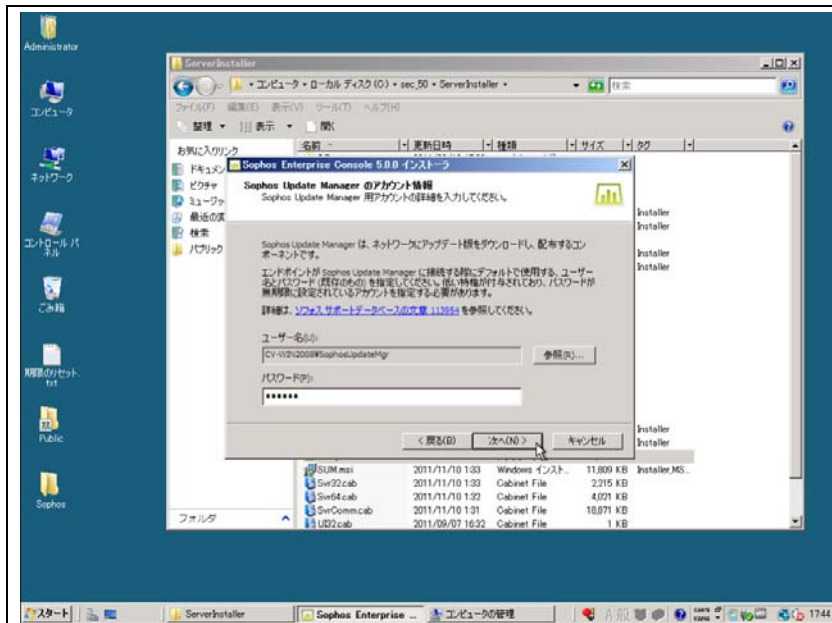


パスワードを入力し、「次へ」をクリックします。



Sophos Patch Agent で使用する通信ポートの設定を行います。

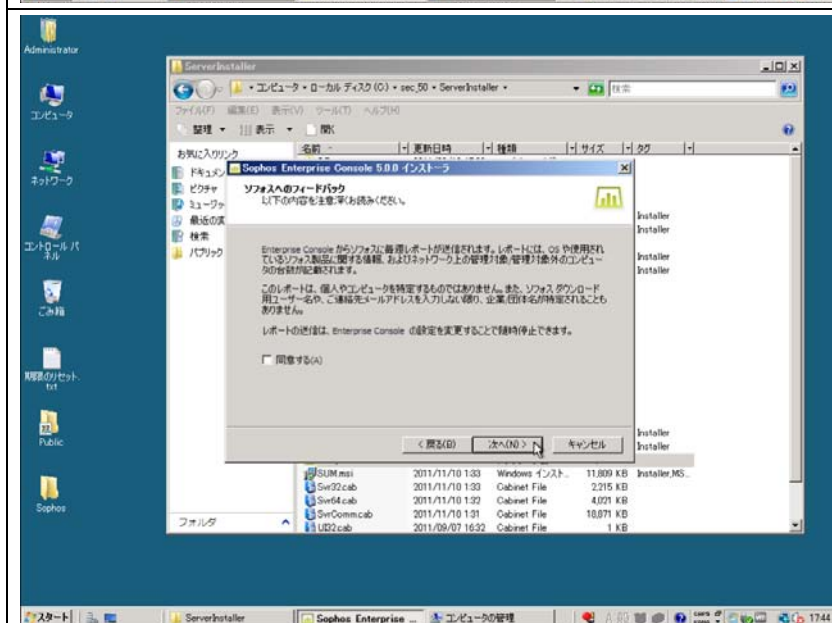
※デフォルトは 80 番ポートですが、IIS による HTTP 経由でのアップデートを設定している場合でも、80 番ポートを指定して共用することが出来ます。(KB114182)



Sophos Update Manager のアカウントも、先ほどの Administrator (SophosAdmin) 同様に設定します。

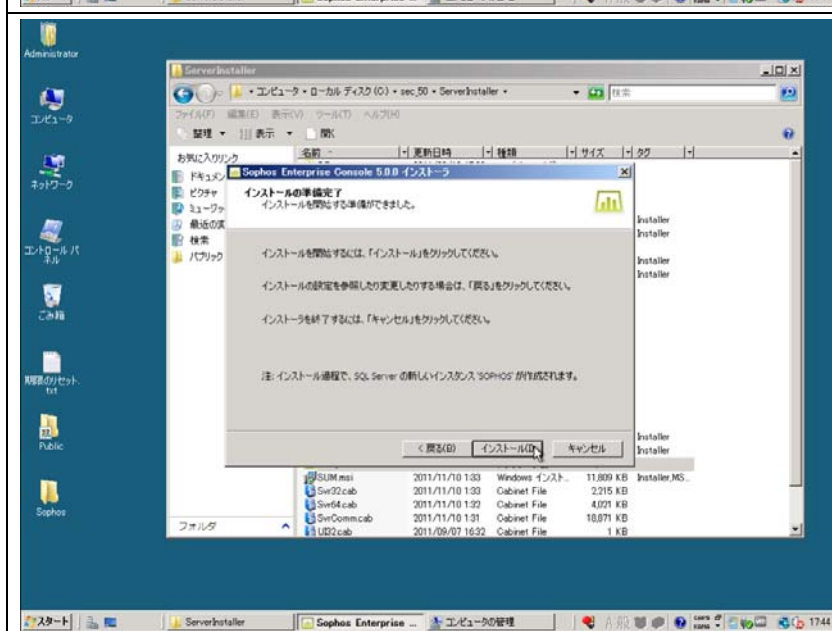
こちらでは、「SophosUpdateMgr」ユーザを指定します。

入力が完了したら「次へ」をクリックします。



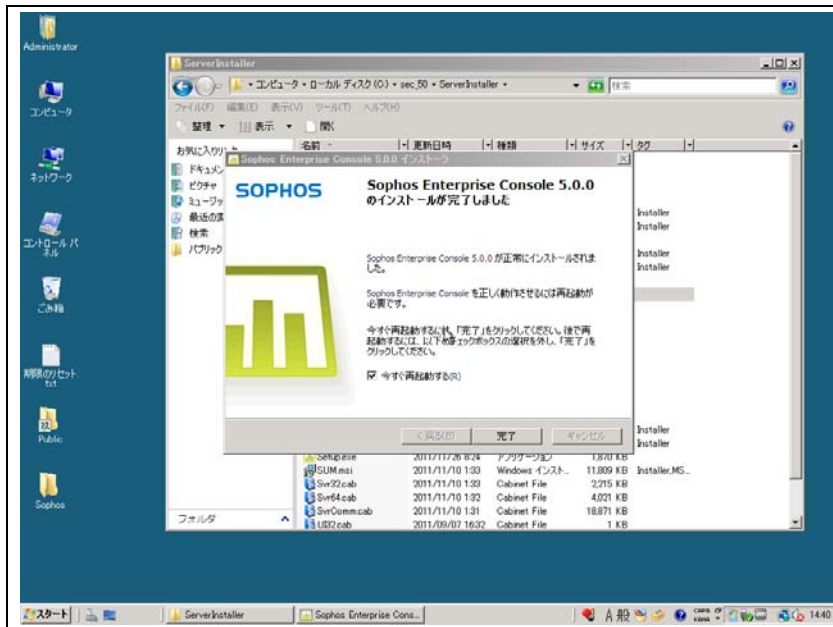
Sophos へのフィードバックを行う場合、「同意する」を選択します。

デフォルトではチェックがされていますが、特に希望がなければ外しておきます。



「インストール」をクリックし、インストールを開始します。

※ここから先、暫く時間がかかります。



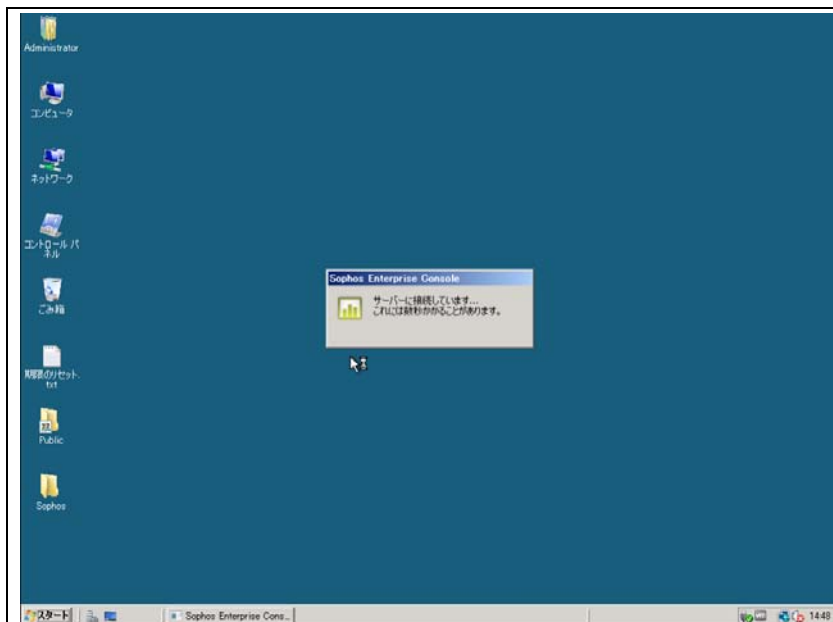
インストールが完了すると、再起動を促されます。

「今すぐ再起動する」にチェックが入っている状態で「完了」をクリックすると再起動が行われます。

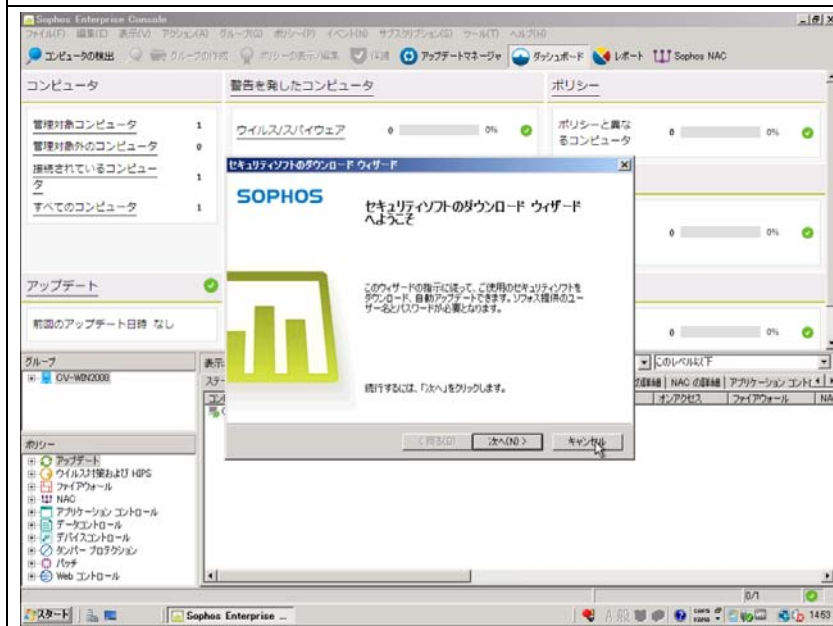
以上でインストールは完了です。

3. Sophos Enterprise Console の設定

3.1. Sophos Enterprise Console インストール後 初回起動時設定



インストール完了後の再起動時、EnterpriseConsoleが自動的に起動します。

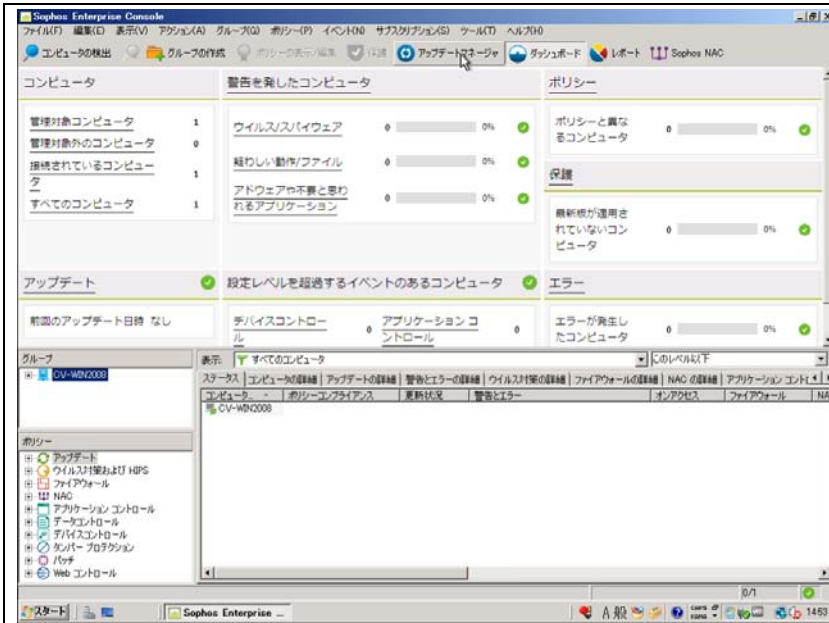


初回起動時、「セキュリティソフトのダウンロード ウィザード」が起動しますが、ここでは「キャンセル」をクリックします。

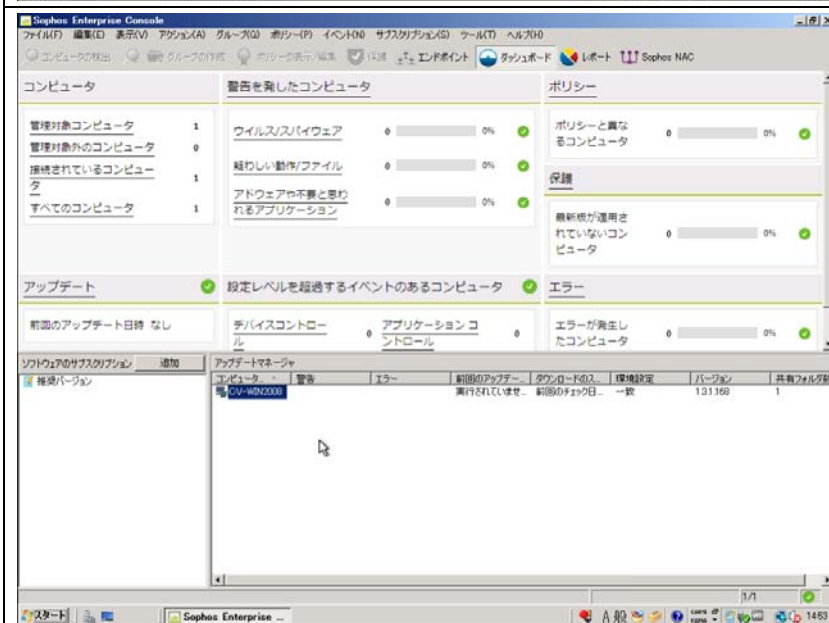
※Sophos Update Manager の設定で本項目の詳細設定を行うため、ここではスキップします。

3.2. Sophos Update Manager の設定

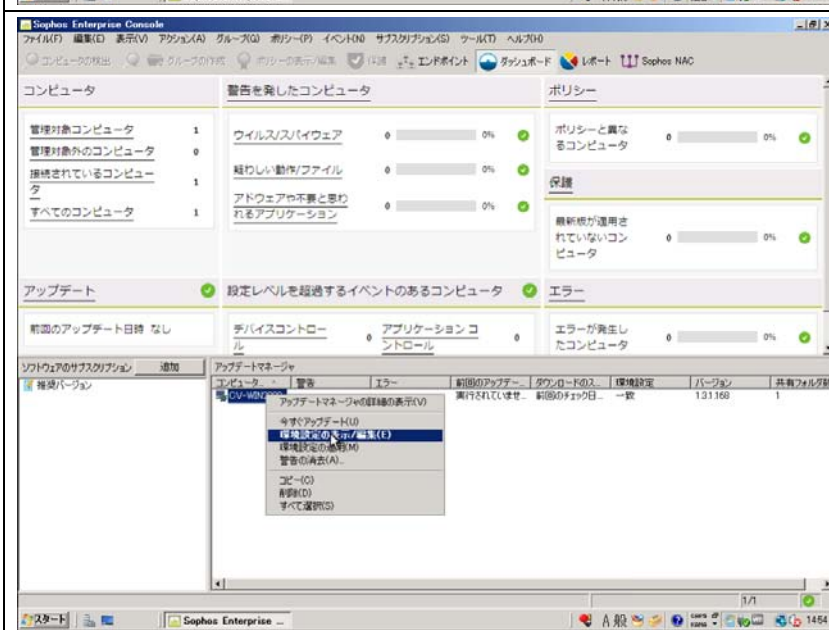
ツールバーの下にある「アップデートマネージャ」ボタンをクリックします。

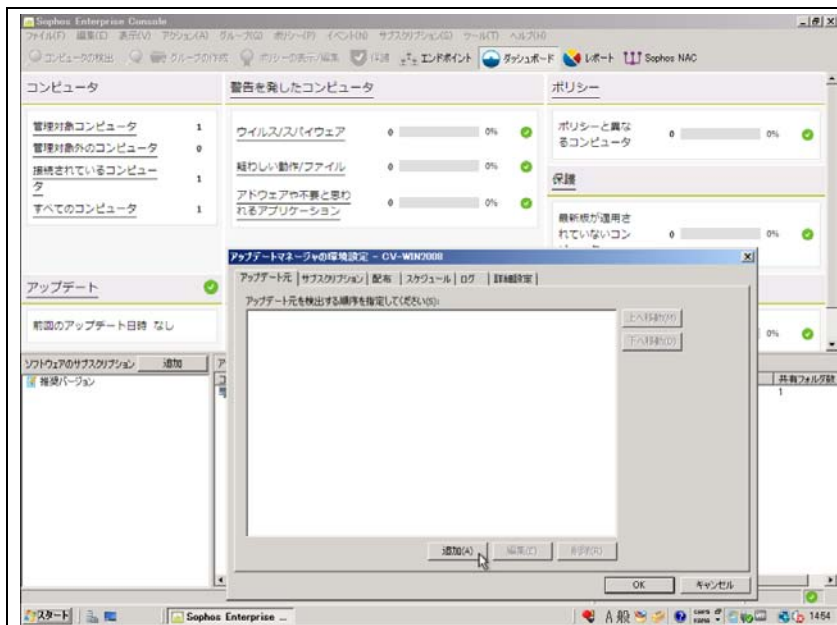


アップデートマネージャの設定画面に切り替わります。

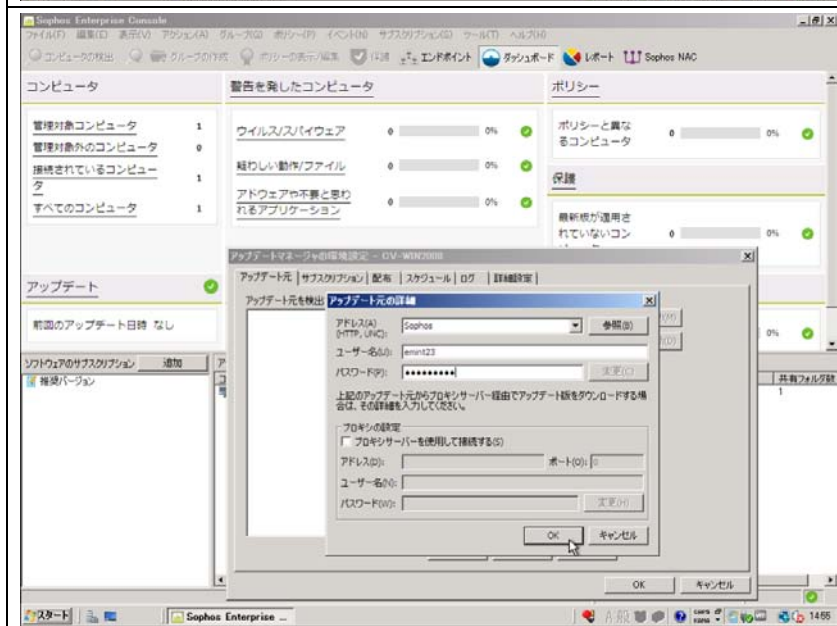


「アップデートマネージャ」欄に表示されている自分のコンピュータ名を右クリックし、「環境設定の表示/編集」をクリックします。





「アップデート元」タブの「追加」ボタンをクリックします。



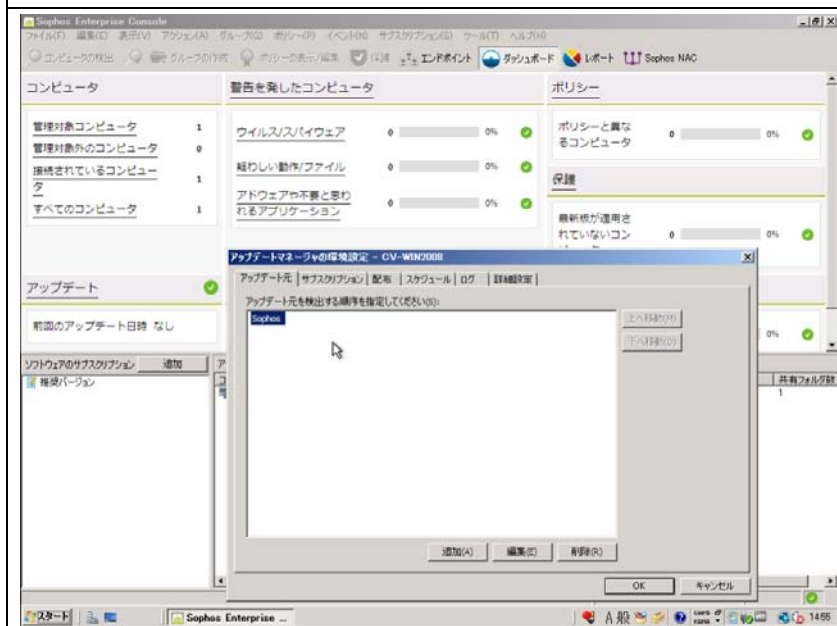
アップデート元の詳細ウィンドウが開くので、下記設定を行います。

アドレス：リストから「Sophos」を選択
 ユーザ名：ライセンスのemで始まるID
 パスワード：ライセンスの同行に記載

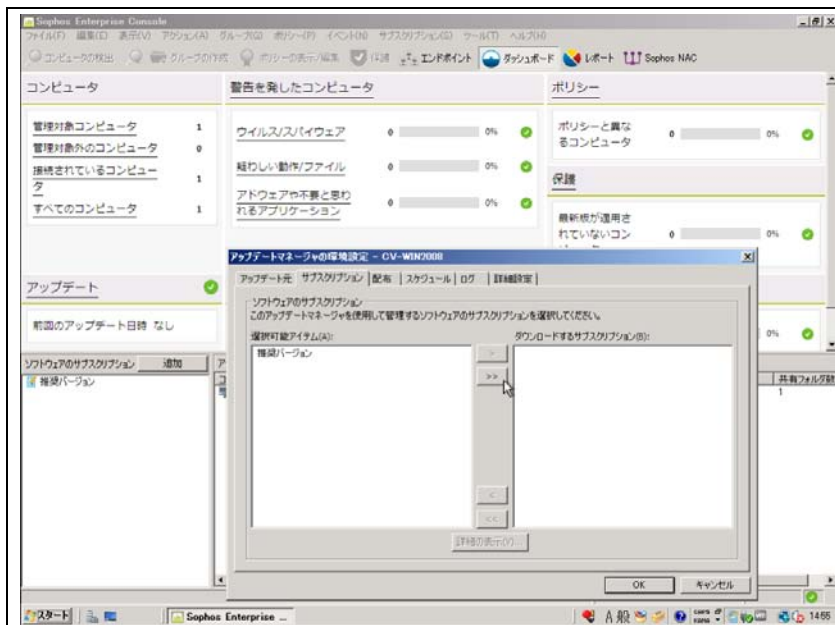
なお、ローカル更新を行う際は、URLに次のディレクトリ階層を指定します。

UpdateManager

- + UpdateManager ←ここ
- + Warehouse
- + CIDs

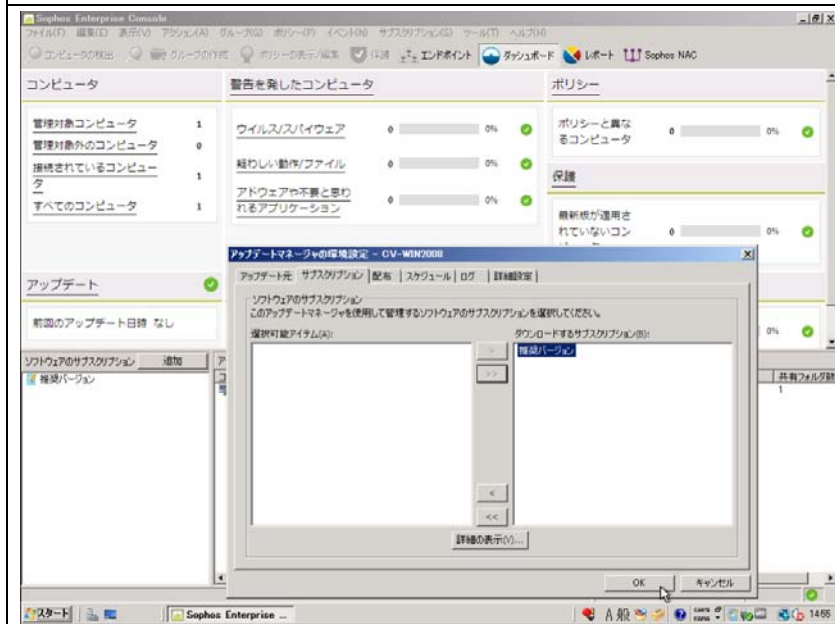


アップデート元が登録された事を確認します。

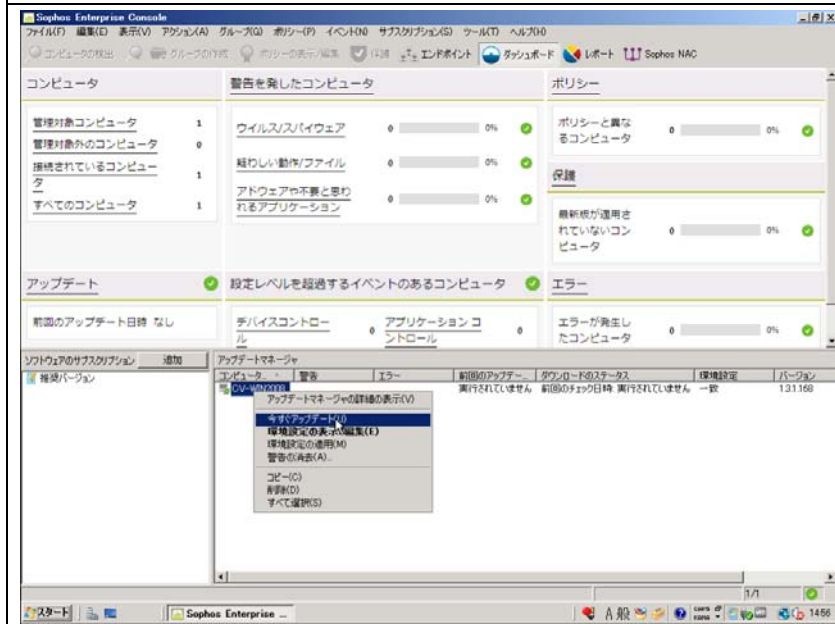


「サブスクリプション」タブに移動します。

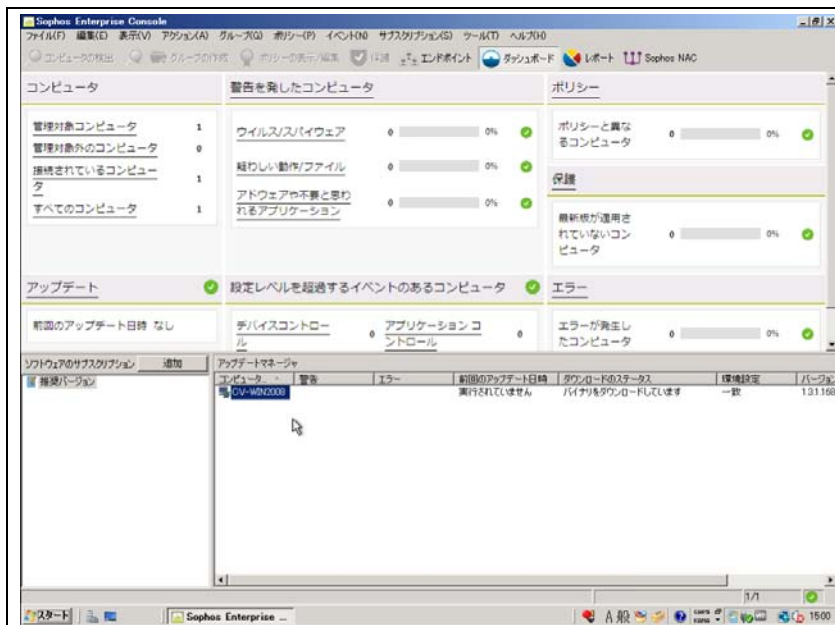
左側にある「推奨バージョン」が存在する場合、「>>」ボタンをクリックします。



右側に「推奨バージョン」が移動したことを確認し、「OK」ボタンをクリックして環境設定を閉じます。



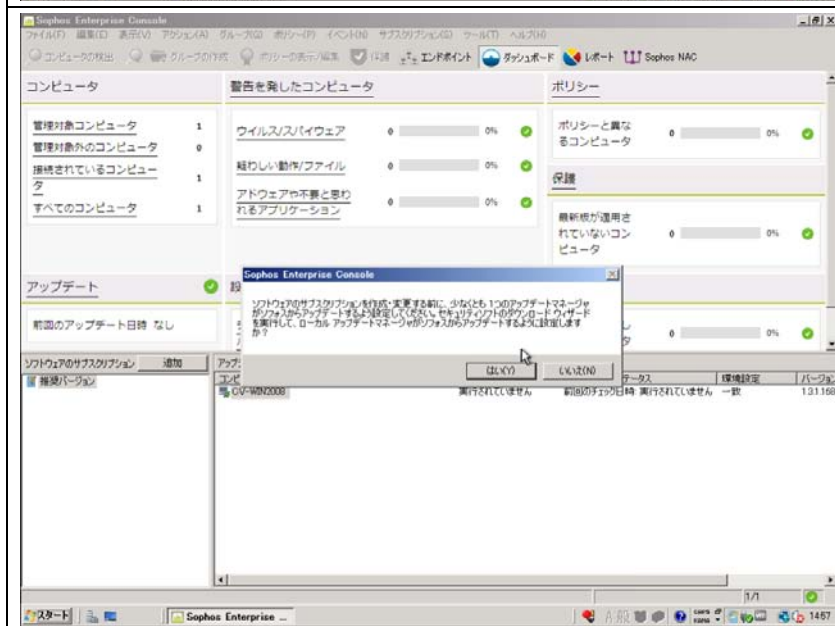
「アップデートマネージャ」のホスト名を右クリックし「今すぐアップデート」をクリックします。



暫くすると、ダウンロードのステータスが「バイナリをダウンロードしています」に変わります。

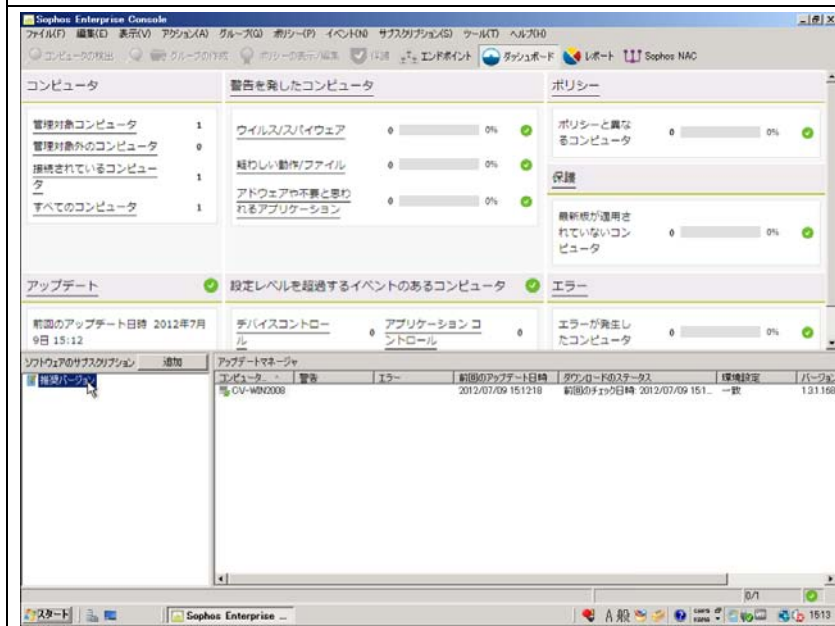
ここで、最新の UpdateManager パッチと、利用可能なソフトウェアの一覧を取得します。

※ここでエラーとなる場合、アカウントの設定または更新元サーバへのアクセスを確認して下さい。

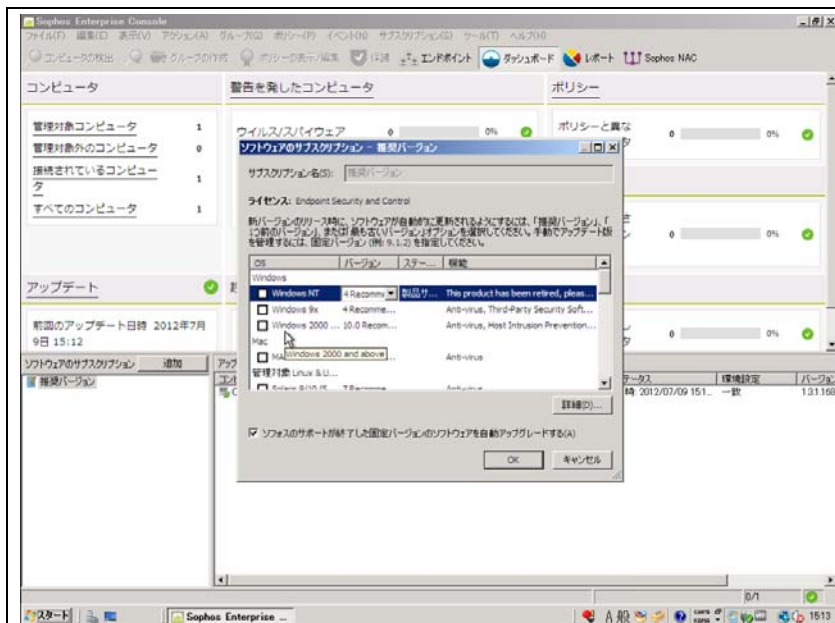


※上記が完了しない間に「サブスクリプション」を操作すると、次のようなダイアログが表示されますので、「いいえ」を選択して下さい。

また、「はい」とした場合も「3.1.」で示したセットアップウィザードが起動しますので、キャンセルして下さい。



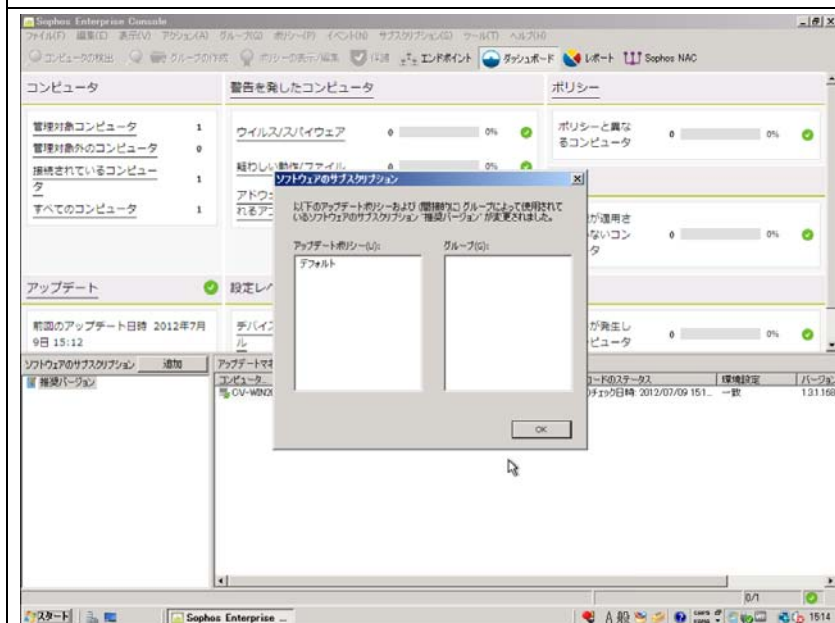
「ダウンロードのステータス」が「前回のチェック日時: ~」へ変わったら、「ソフトウェアのサブスクリプション」欄にある「推奨バージョン」をダブルクリックします。



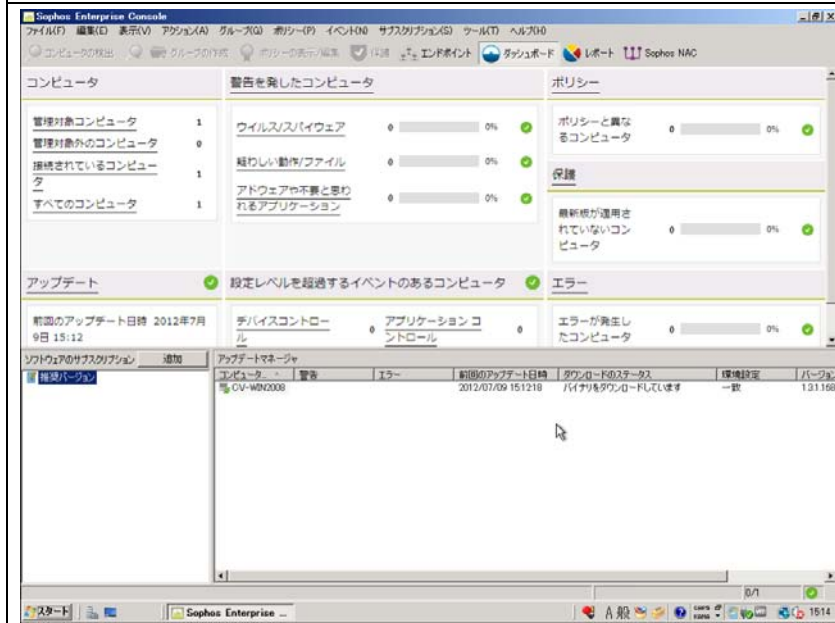
サブスクリプション設定画面が表示されますので、使用するバージョンのチェックボックスをチェックし、「OK」をクリックします。

通常は「使用するバージョンの Recommended」を選択します。また、自動アップグレードにはチェックを入れておいて下さい。

自動アップグレードのチェックを外してしまうと、3ヶ月間のマイナーバージョンサポートが切れた後、定義ファイルを適用できなくなります。



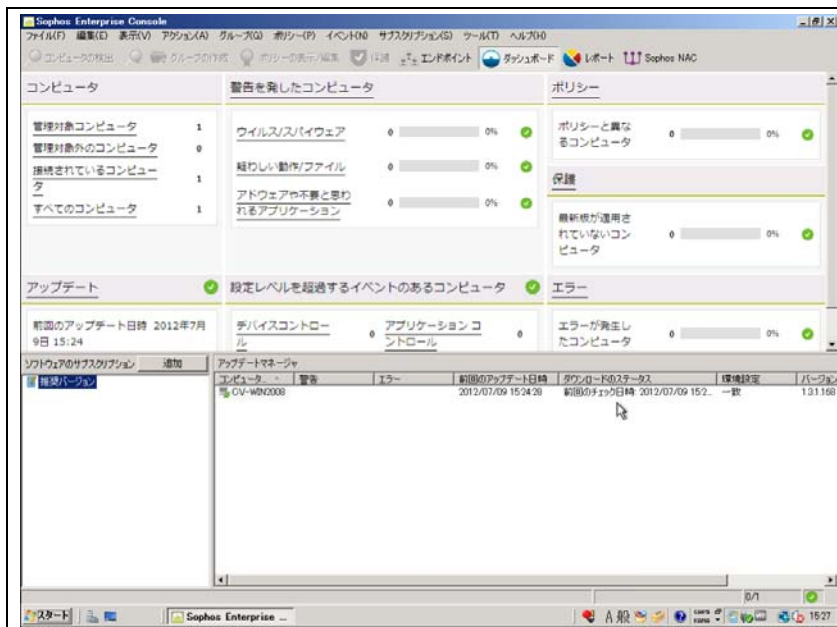
このサブスクリプションが適用される「アップデートポリシー」が一覧表示されますので「OK」をクリックします。



再び「ダウンロードのステータス」が「バイナリをダウンロードしています」に変わります。

ここでは、クライアントソフトウェアのデータをダウンロードし、インストーラの生成を行っています。

※ソフトウェアの選択数により、多少時間がかかります。

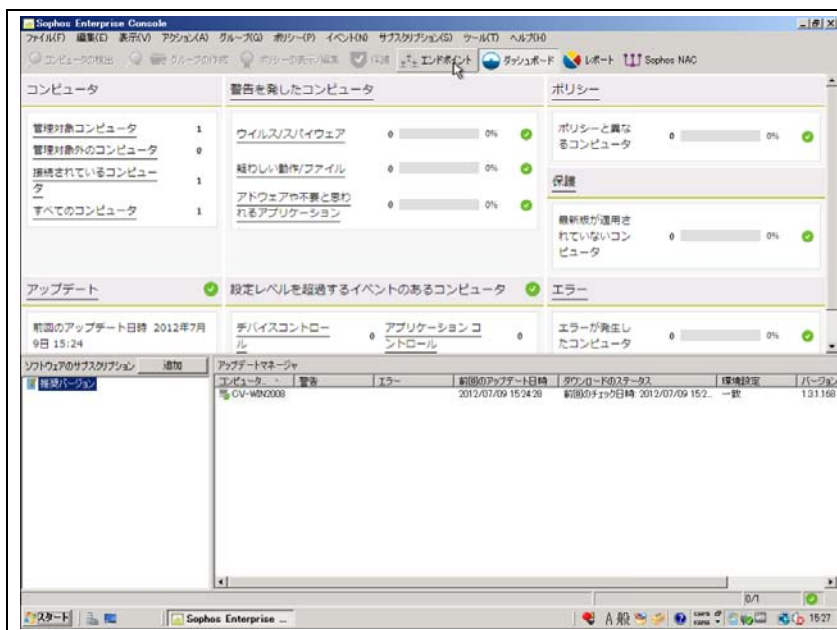


「ダウンロードのステータス」が「前回のチェック日時： ～」となったら、インストーラの生成までが完了しています。

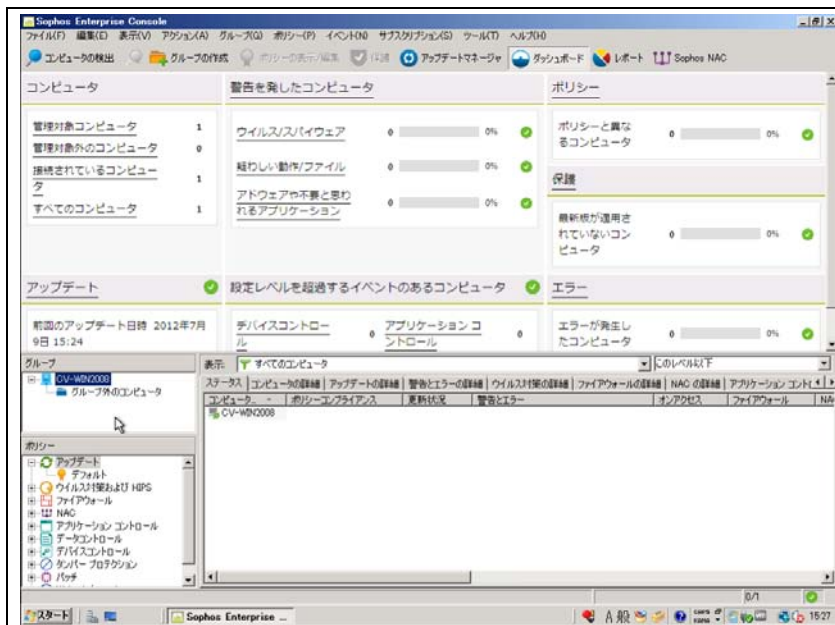
以上で UpdateManager の初回設定は終了です。

3.3. Sophos Enterprise Console グループ設定

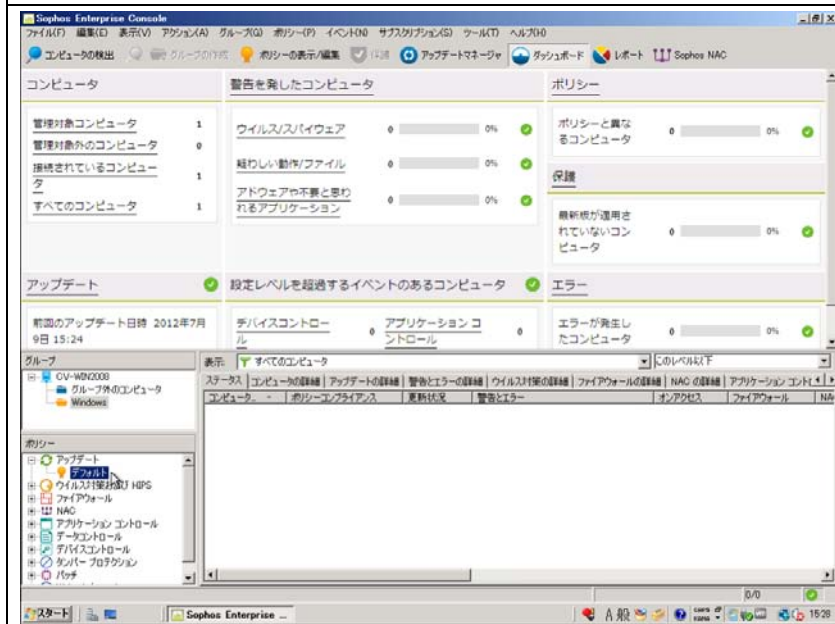
3.3.1. 新規ポリシーの作成（デフォルトポリシーの複製）



ツールバーの下の「エンドポイント」ボタンをクリックします。

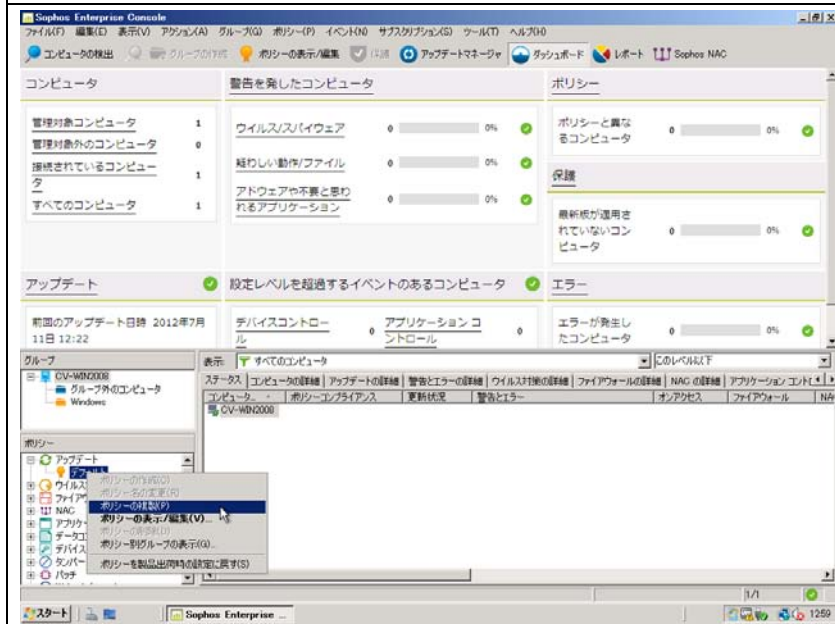


エンドポイント操作画面に切り替わります。



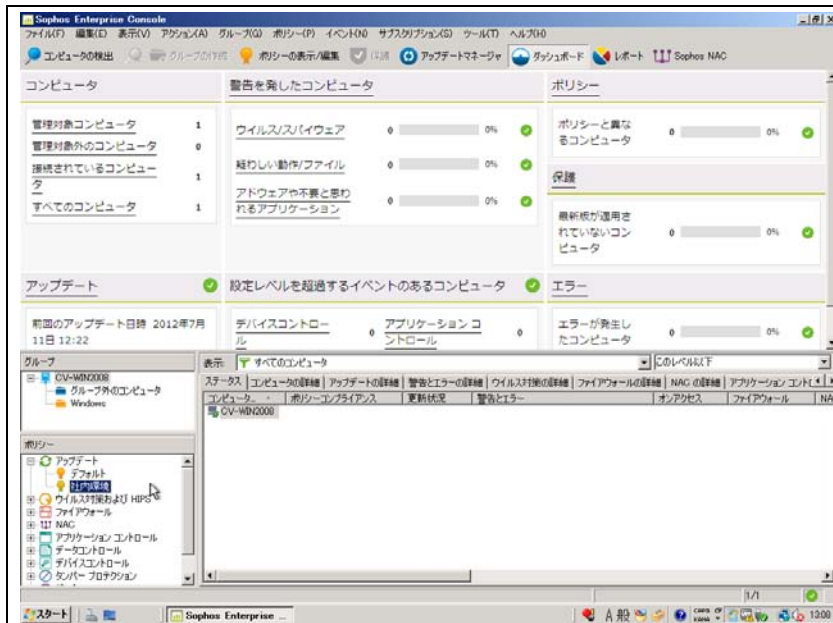
「ポリシー」欄の中から、変更したいポリシーの「デフォルトポリシー」を選択します。

ここでは、例としてアップデートポリシーを選択します。

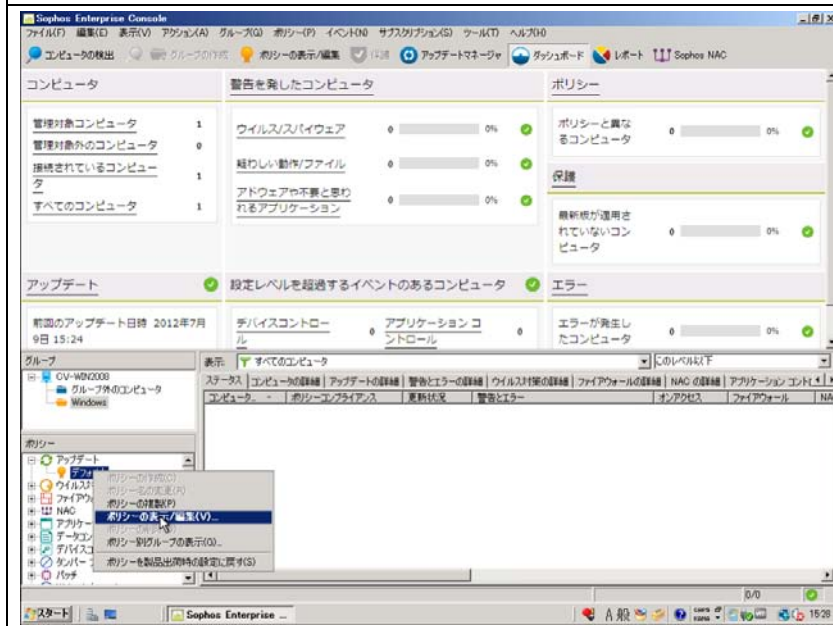


「デフォルトポリシー」を右クリックし、ポリシーの複製をクリックします。

「デフォルトポリシー」の設定を複製し、別の名称でポリシーを作成することが出来ます。



仮に、「社内環境」とします。

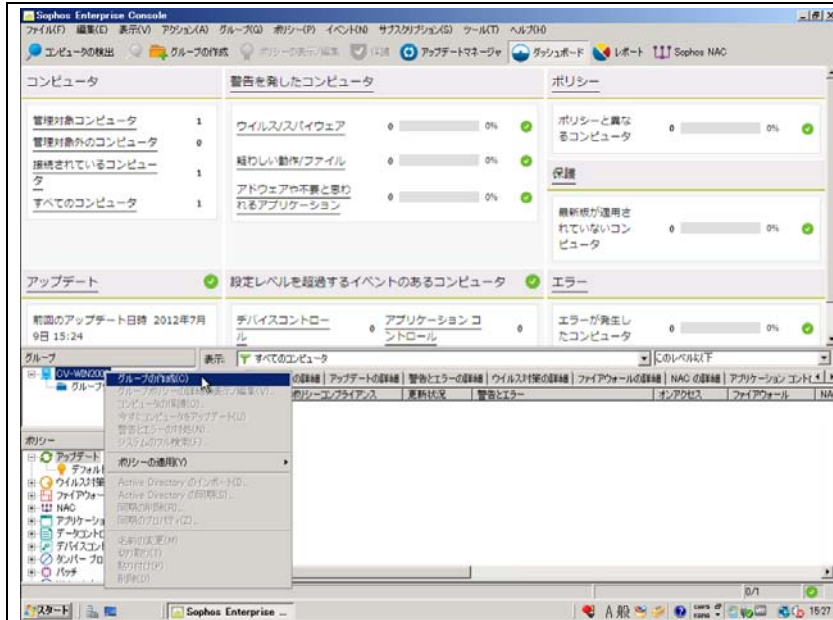


ポリシー内容を変更するには、ポリシー名を右クリックし「ポリシーの表示／編集」をクリックします。

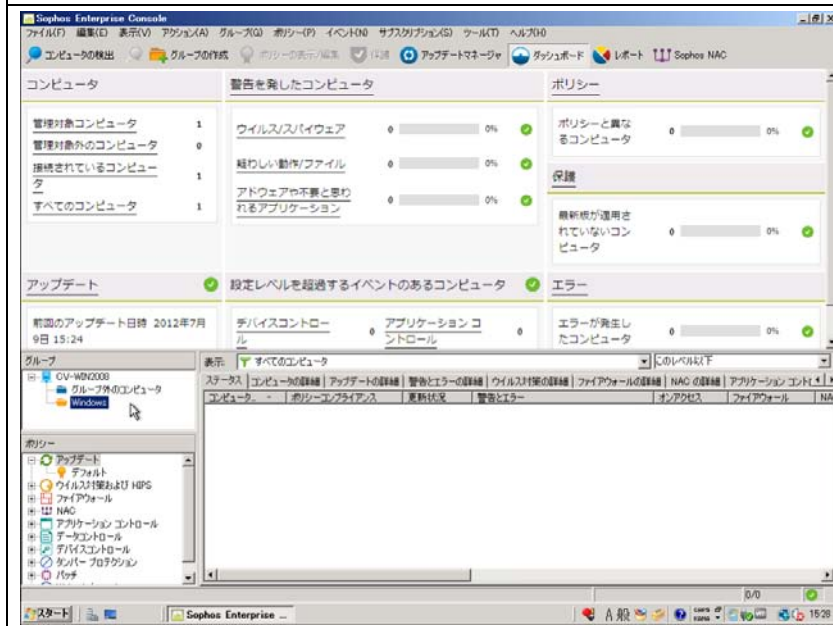
※ここでは詳細なポリシーの編集内容は省略します。(パラメータシート参照)

3.3.2. グループの作成

- ・ Sophos では、クライアント設定を「ポリシー単位」で設定します。
- ・ 作成したポリシー群のうち、どれを適用するかを「グループ」単位で設定します。
- ・ デフォルトで存在する「グループ外のコンピュータ」にはポリシーを設定することが出来ません。
- ・ 子階層を形成出来ますが、新規作成時以外に親設定の継承を行いませんので注意してください。



「グループ」欄の SEC ホスト名を右クリックし、「グループの作成」をクリックします。

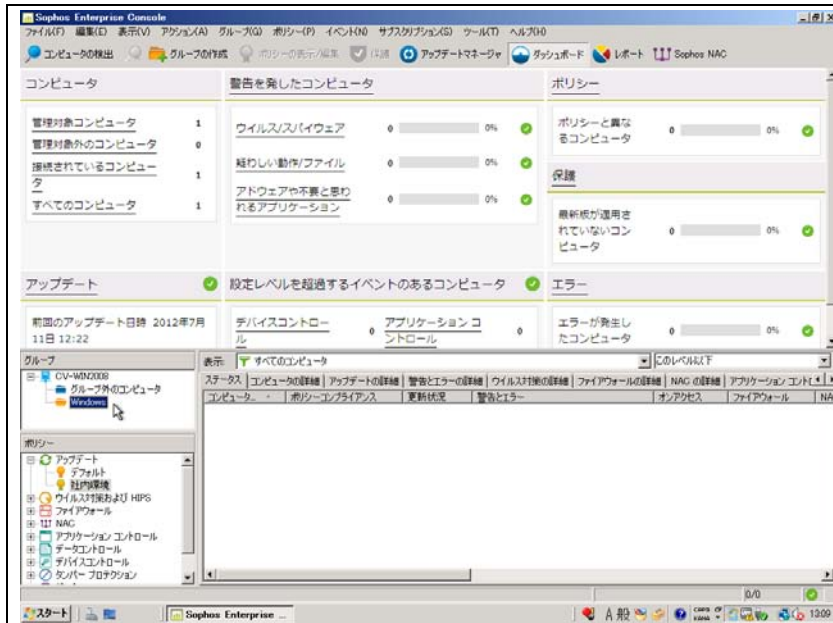


名前変更が可能な状態で新規にグループが作成されますので、名前を入力します。

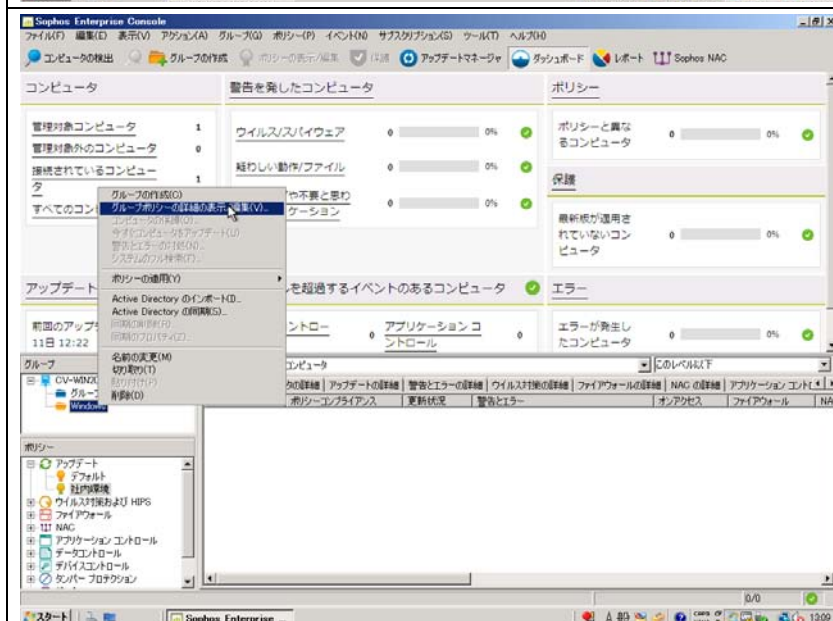
ここでは、仮に「Windows」とします。

※名前は後からでも変更可能です。

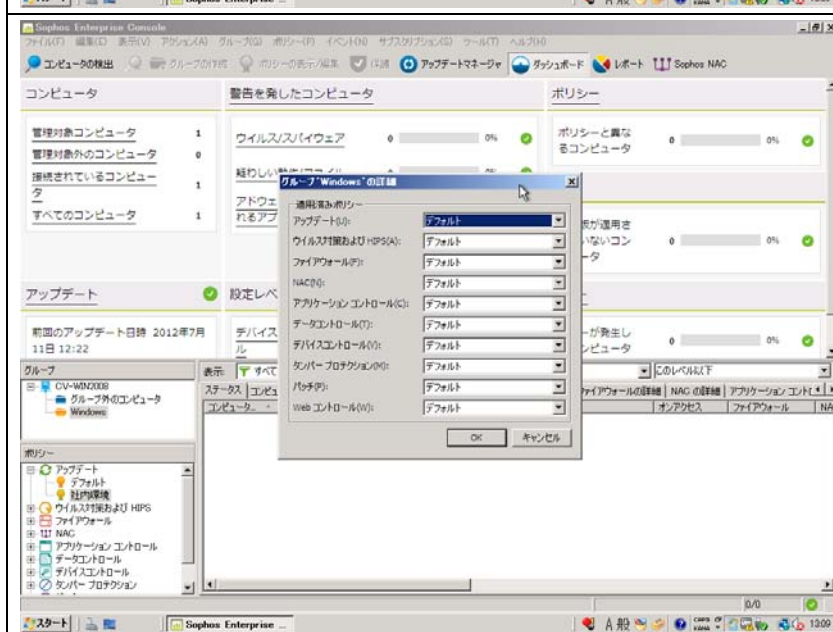
3.3.3. グループへのポリシーの割り当て



「グループ」欄から、先ほど作成した「Windows」グループを選択します。

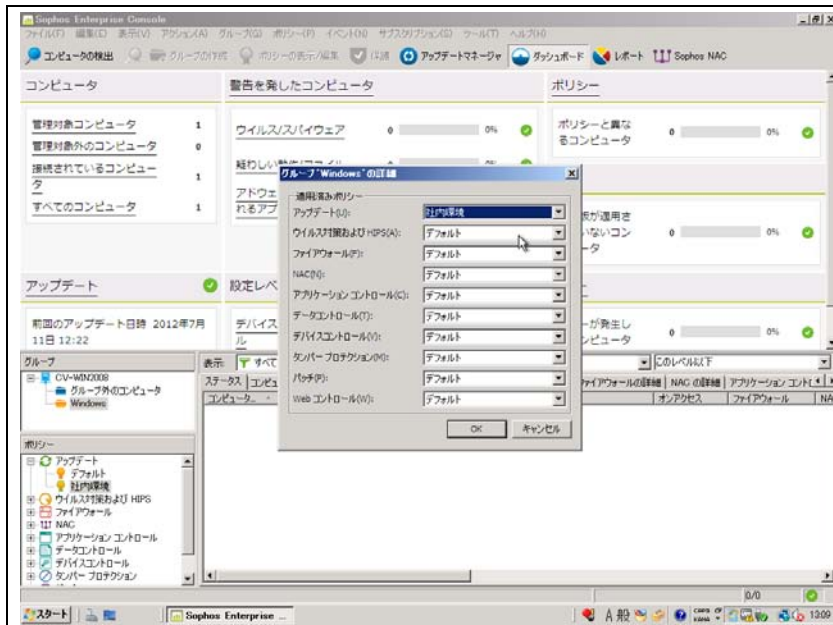


グループ名を右クリックし、「グループポリシーの詳細の表示/編集」をクリックします。



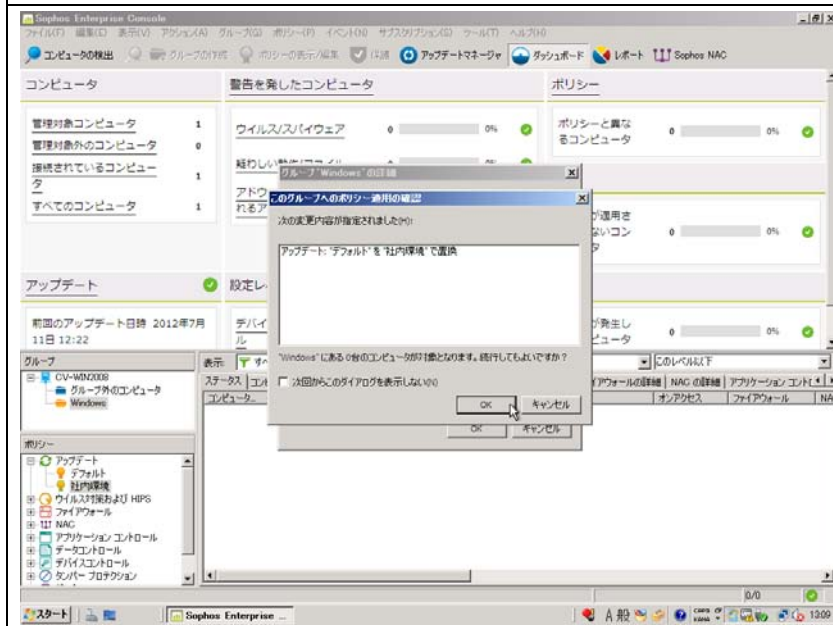
グループのポリシー割り当て設定が表示されます。

ここでは、仮に「アップデート」ポリシーを先ほど作成した「社内環境」に変更します。



「アップデート」のリスト内に先ほど作成した「社内環境」が選択可能になっているので、これを選択します。

選択できたら、「OK」ボタンをクリックしてウインドウを閉じます。



ポリシーの適用画面の確認画面が表示されます。正しい情報であることを確認し、「OK」をクリックして閉じます。

これでグループポリシーの割り当ては完了です。

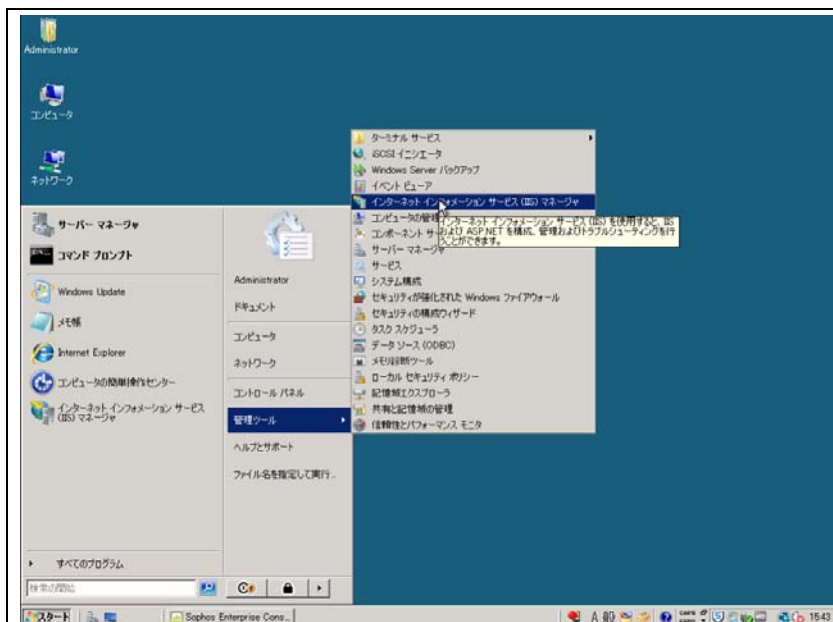
4. Web CID環境（HTTP経由の更新）の設定

- ・ Sophos Anti-Virus ではデフォルトでは NetBIOS/Cifs で定義ファイルを配信しています。
- ・ Sophos では負荷およびパフォーマンス面で HTTP による定義ファイル配信が推奨されています。
- ・ Web サーバは IIS・Apache 等を利用可能ですが、ここでは IIS を使用した設定を解説します。

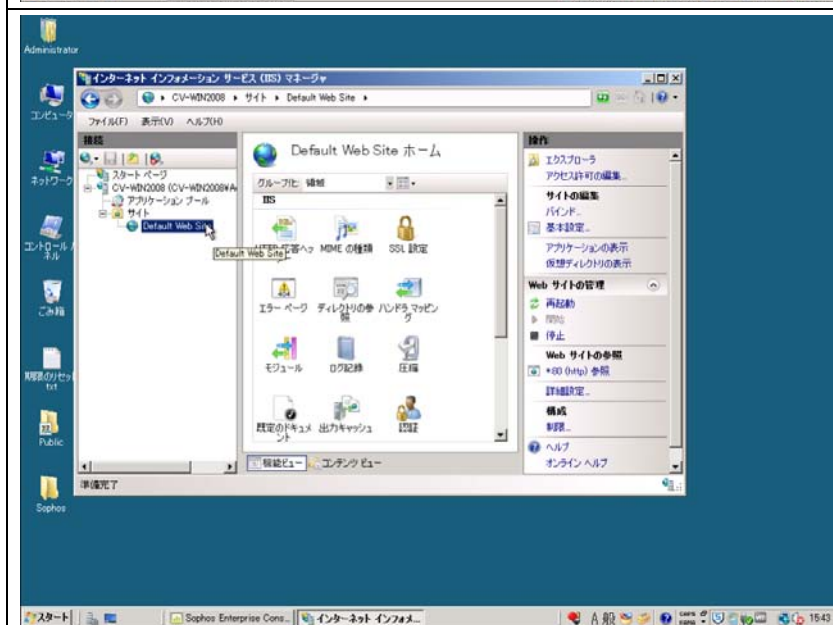
4.1. Internet Information Manager の詳細設定

- ・ 項目 1.3 にて IIS のセットアップが終わっているものと想定します。
- ・ Windows 2003R2 と 2008 以降で設定方法が異なります。（2008 以降の方が設定が多い）
- ・ Windows 2003R2 は読み替えできる範囲ですので、Windows 2008/2008R2 ベースで解説します。

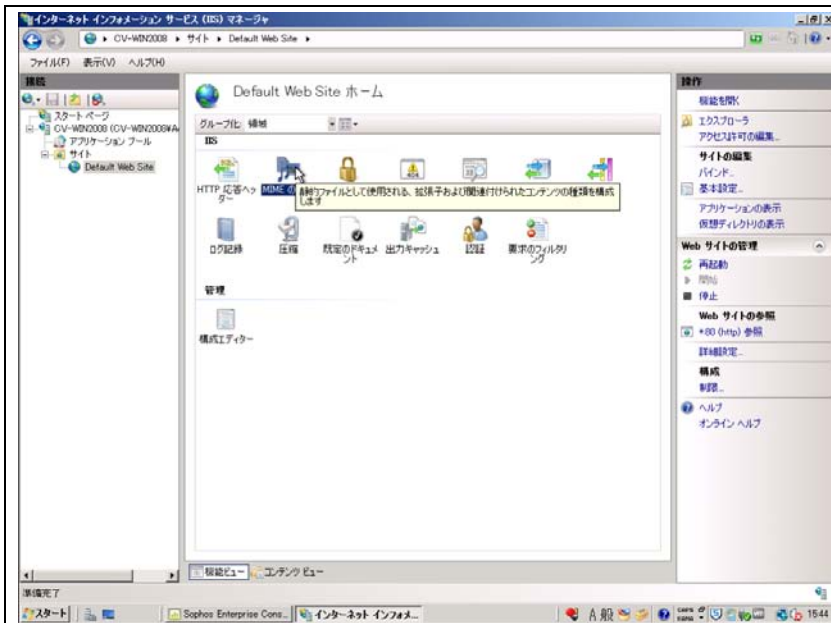
4.1.1. Windows 2003R2／2008／2008R2 共通作業



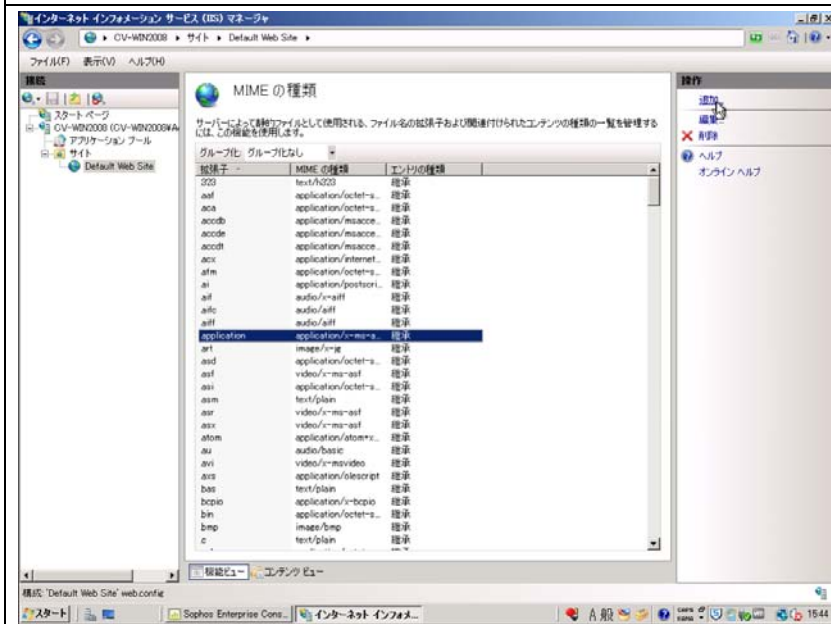
スタートメニューから「管理ツール」→「IIS マネージャ」を起動します。



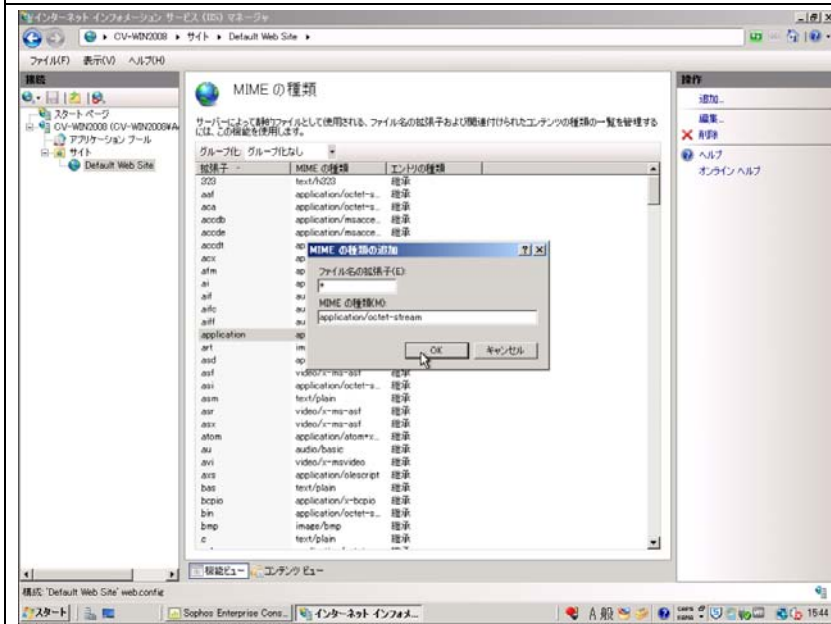
IIS マネージャで「サイト」→「Default Web Site (規定の Web サイト)」を選択します。



「MIMEの種類」を開きます。



画面右側の「追加」をクリックします。

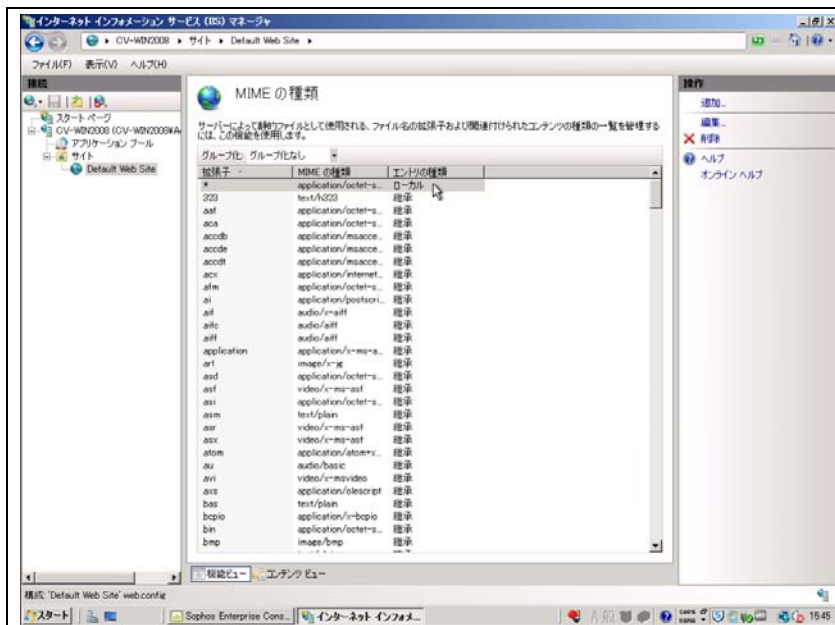


次の設定を行います。

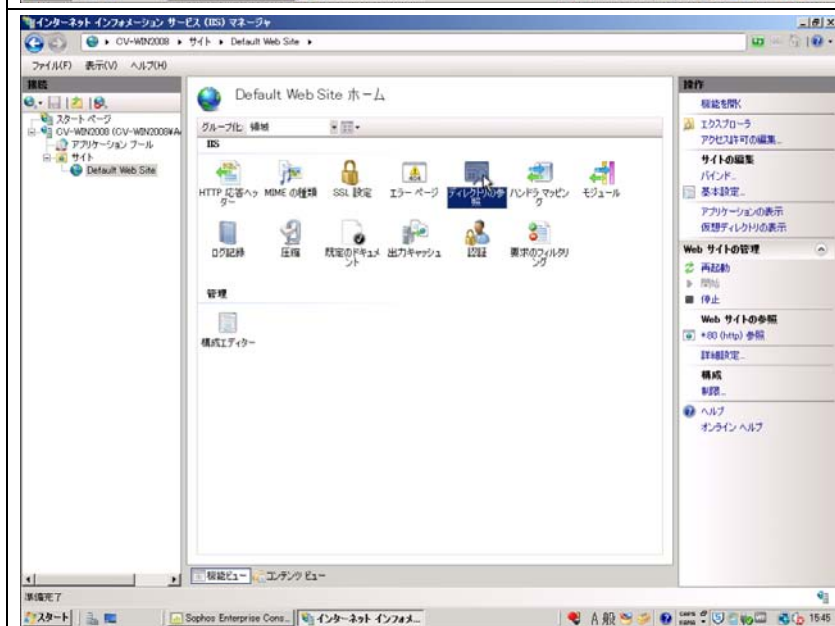
ファイル名の拡張子 : 「.*」

MIMEの種類 : 「application/octet-stream」

設定が完了したら「OK」をクリックします。

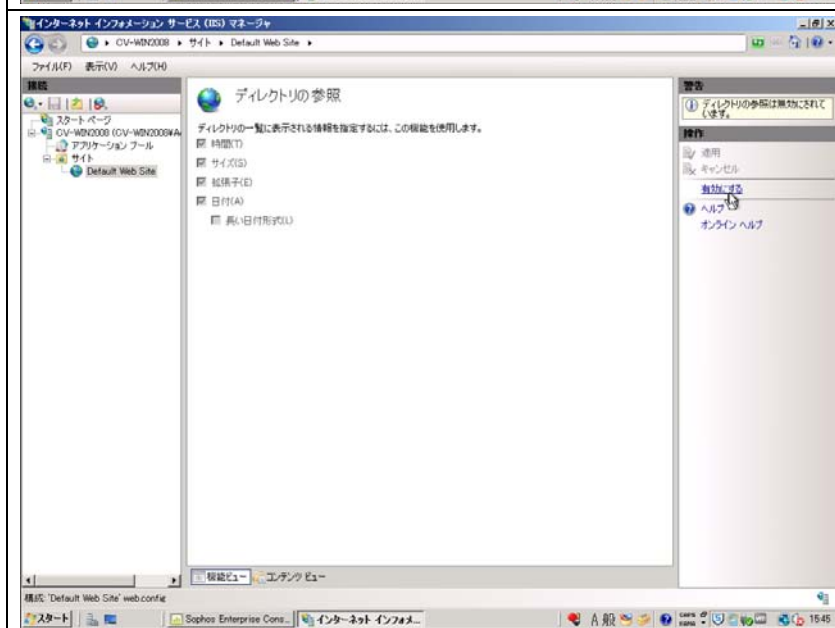


一覧に追加されていることを確認します。

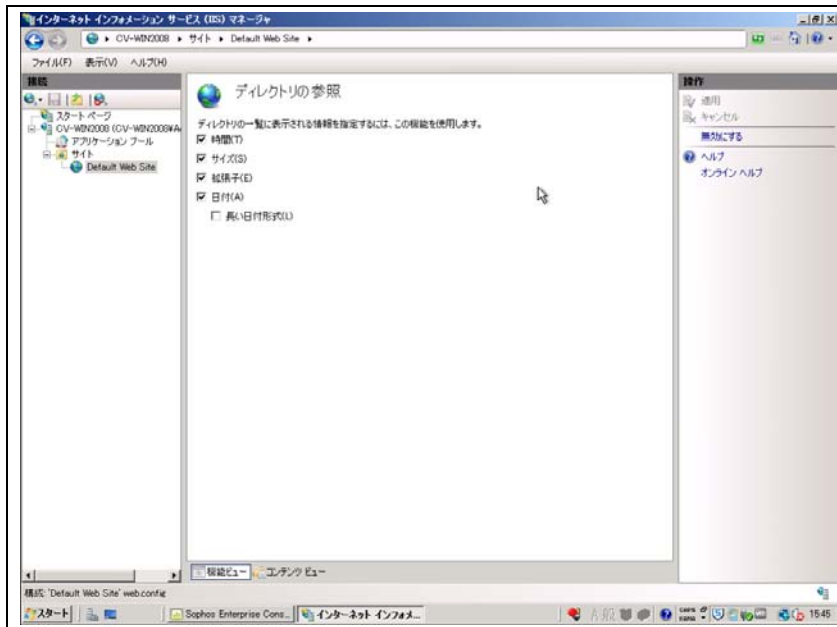


左側の「Default Web Site (規定の Web サイト)」を選択しメニューを表示します。

次に、「ディレクトリの参照」をクリックします。

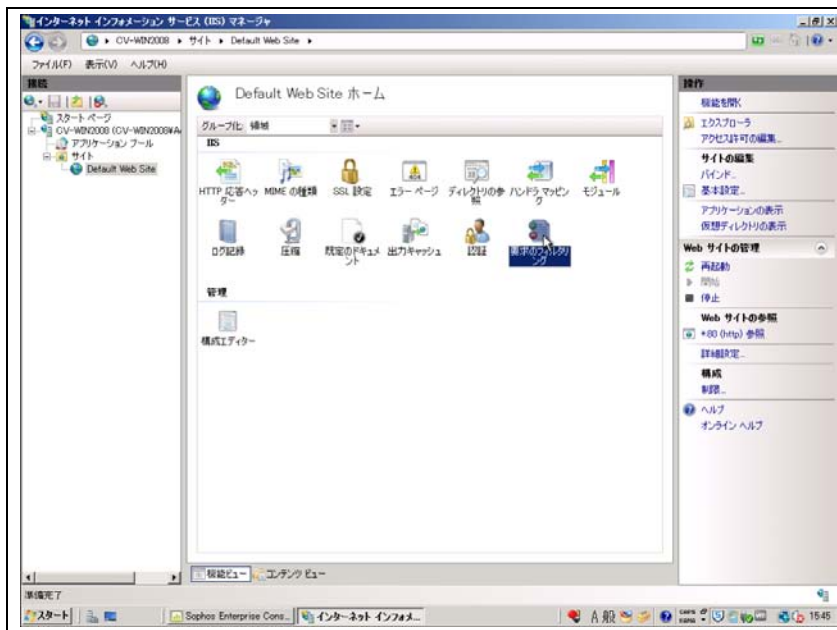


画面右側の「有効にする」をクリックします。



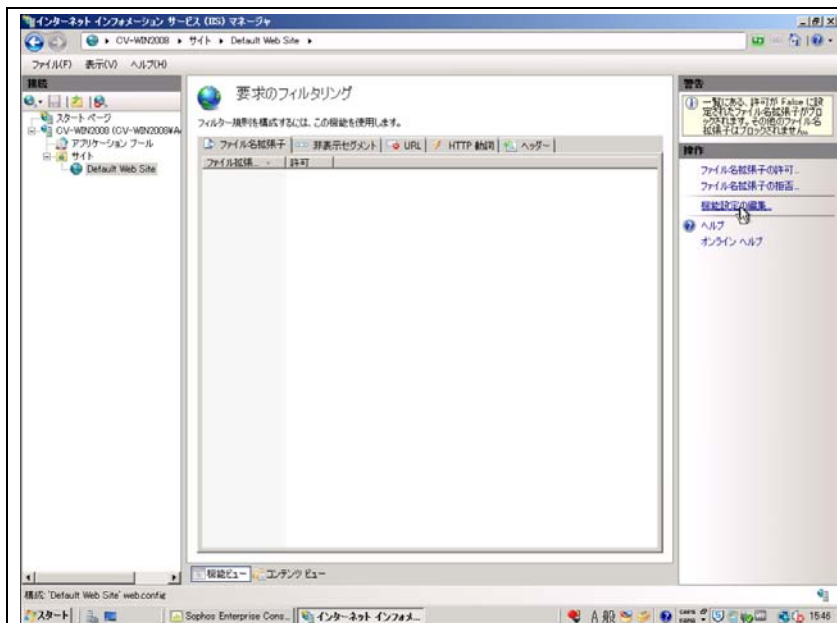
チェックボックスが入力可能になったことを確認します。(チェックボックスの編集作業は行いません)

4.1.2. Windows 2008/2008R2 のみの作業

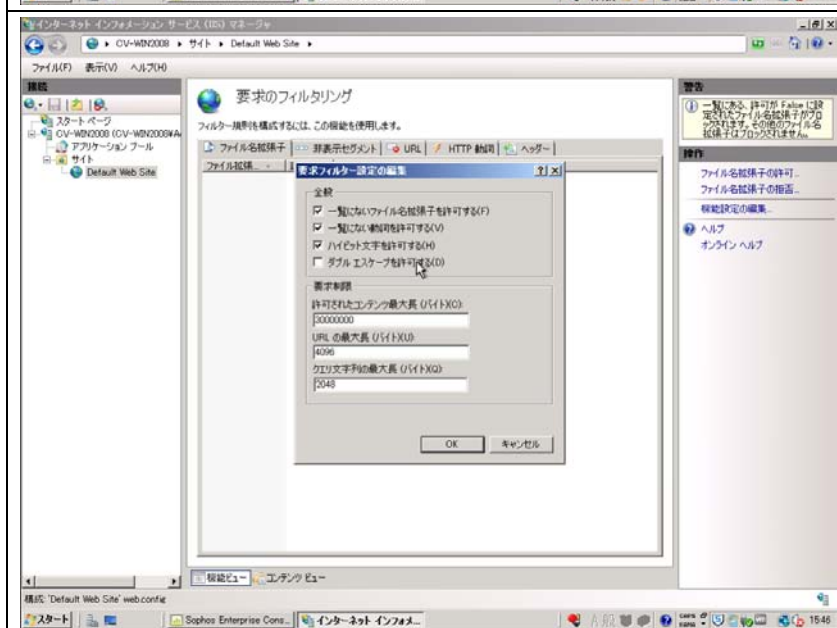


左側の「Default Web Site (規定の Web サイト)」を選択しメニューを表示します。

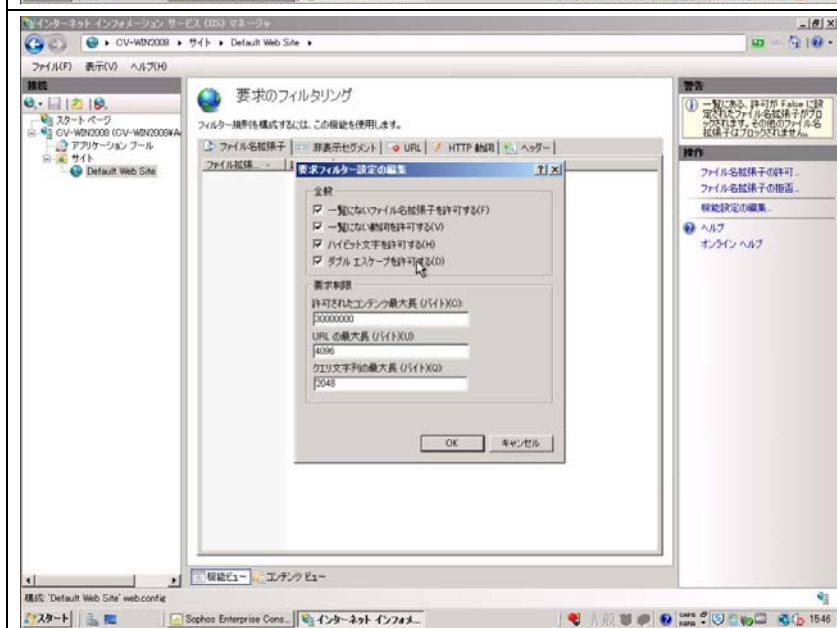
次に、「要求のフィルタリング」をクリックします。



右側のメニューから「機能設定の編集」をクリックします。

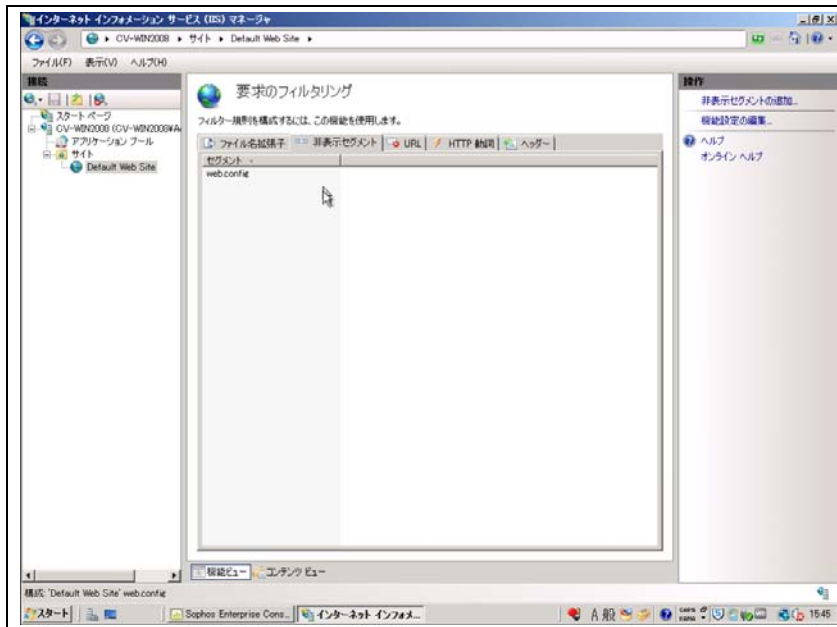


要求フィルター設定の編集画面が開きます。



「ダブルエスケープを許可する」にチェックを入れます。

「OK」ボタンをクリックして閉じます。



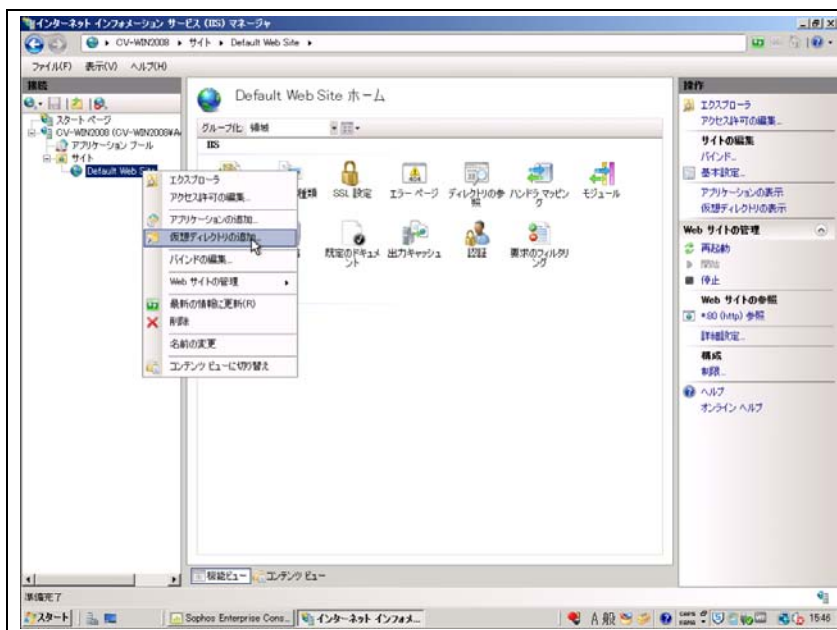
「非表示セグメント」タブをクリックします。

「セグメント」に「bin」が含まれていないことを確認します。

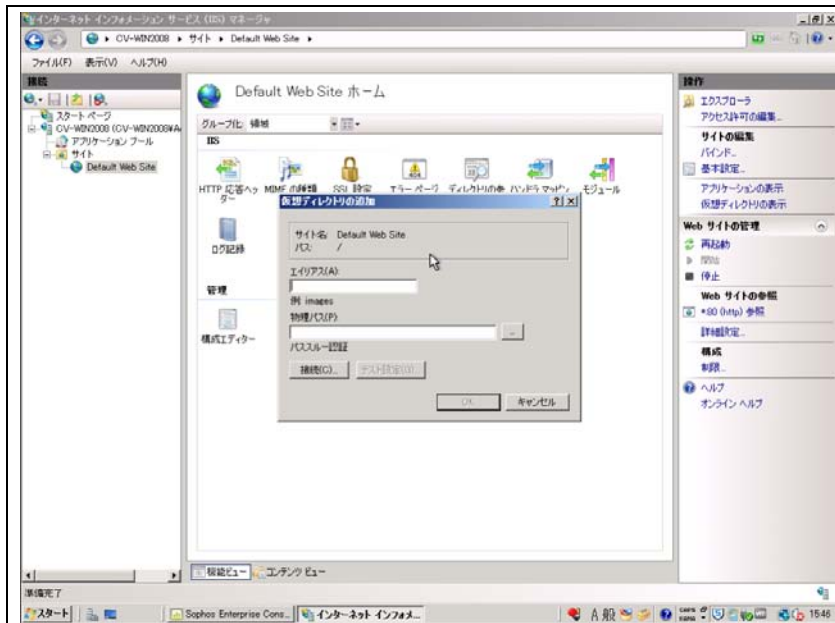
「bin」が含まれている場合は、右側の「機能設定の編集」をクリックし、「bin」設定を削除して下さい。

4.2. 仮想ディレクトリの設定

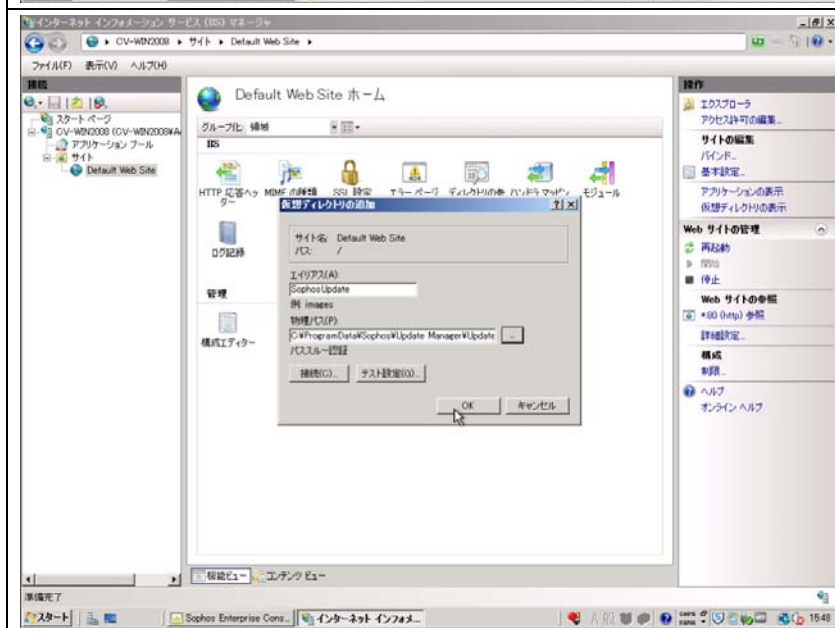
- ・ IIS で公開する更新ファイルが存在するディレクトリを設定します。
- ・ ここでは環境の構築のみを行うため、ポリシー設定までに行いません。



IIS マネージャで左側の「Default Web Site (規定の Web サイト)」を右クリックし、「仮想ディレクトリの追加」をクリックします。



仮想ディレクトリの追加画面が表示されま
す。



次の設定を入力します。エイリアスで設定
する名前はアドレスになりますので任意で
ますが、ここでは「SophosUpdate」とします。

エイリアス： SophosUpdate

物理パス：

(Windows 2003R2 の場合)

C:\¥Documents and Settings¥

All Users¥Application Data¥

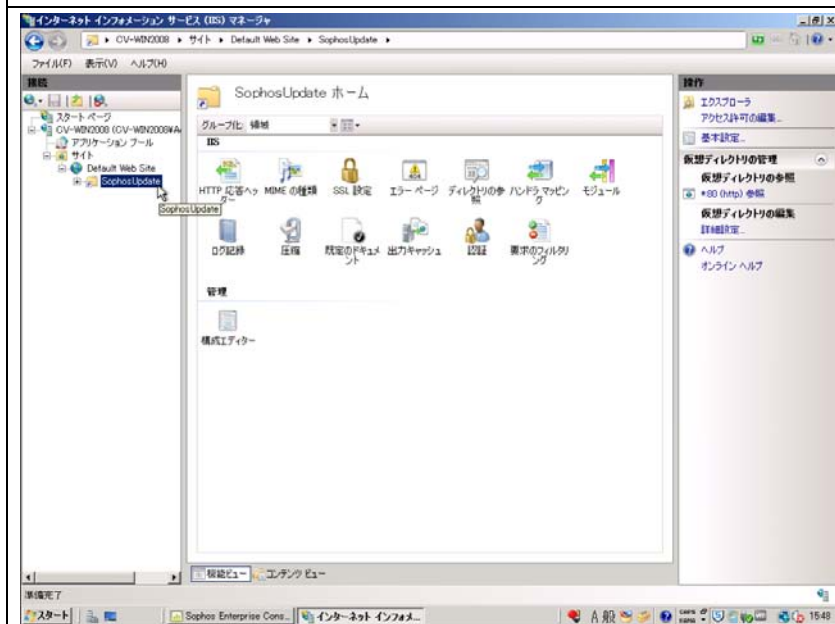
Sophos¥Update Manager¥

Update Manager

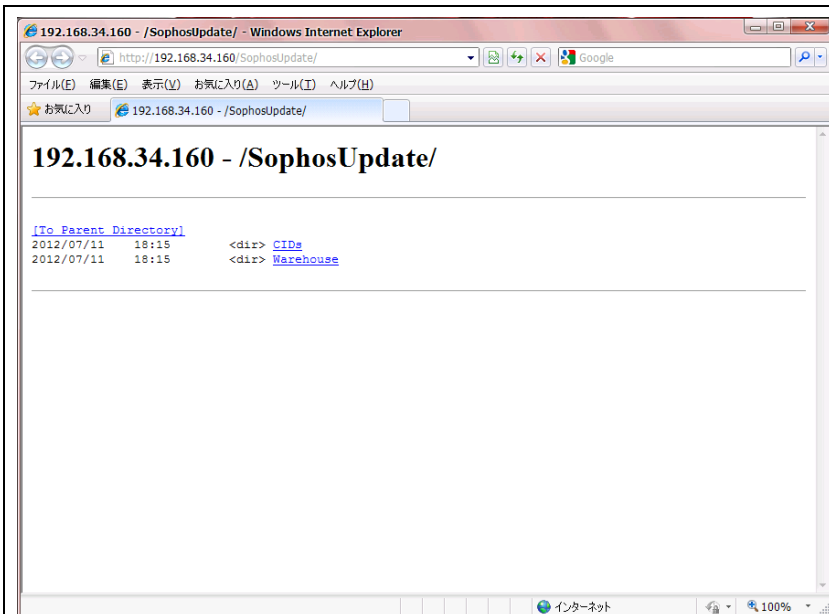
(Windows 2008 以降の場合)

C:\¥ProgramData¥Sophos¥

Update Manager¥Update Manager



仮想ディレクトリが追加されていることを
確認します。

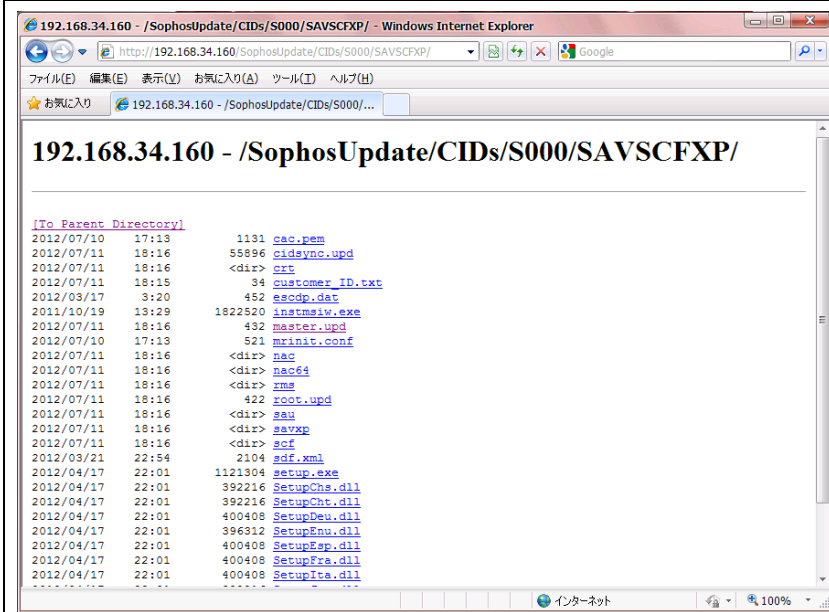


ブラウザで次のアドレスを入力します。

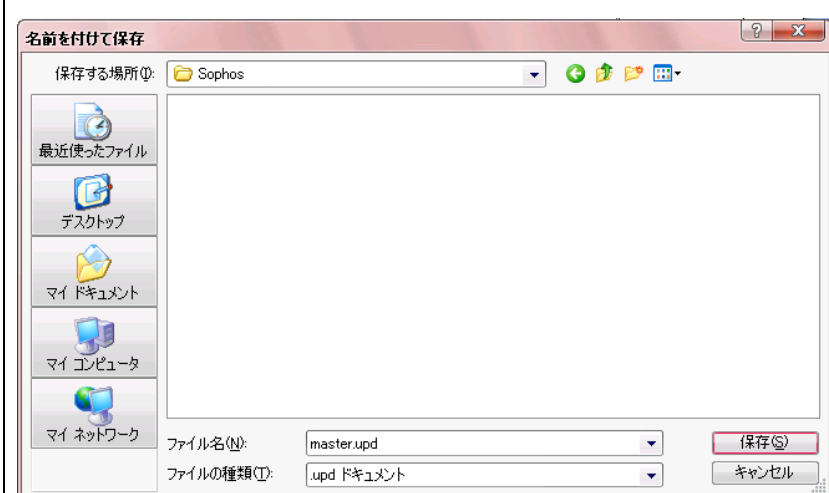
「[http://IP アドレス/SophosUpdate](http://192.168.34.160/SophosUpdate/)」
(名前解決できれば、そちらでもよい)

「CIDs」「Warehouse」が表示されることを確認します。

※このアドレスがアップデートポリシーに指定するアドレスとなります。



「CIDs/S000/SAVSCFXP」を開き、
「master.upd」ファイルをクリックします。

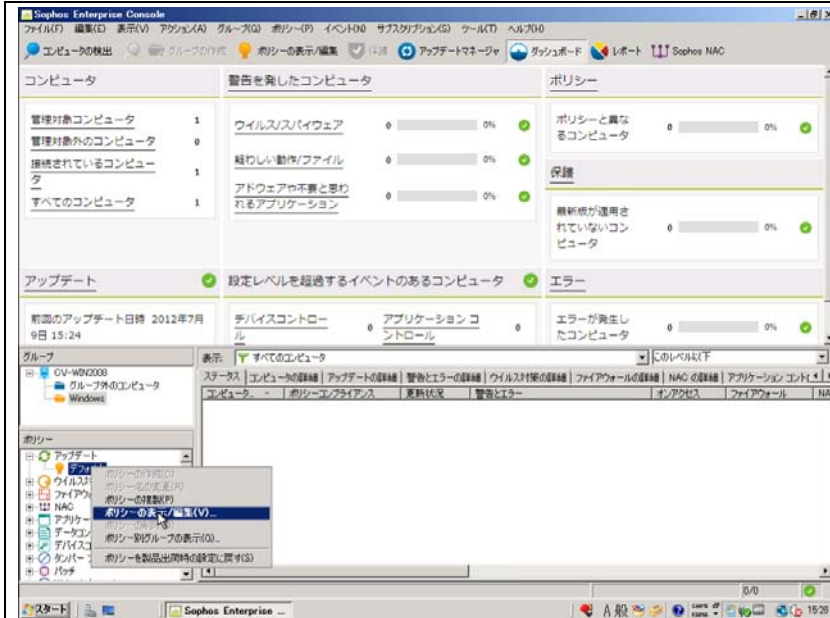


エラーが出ずにダウンロード可能であることを確認します。

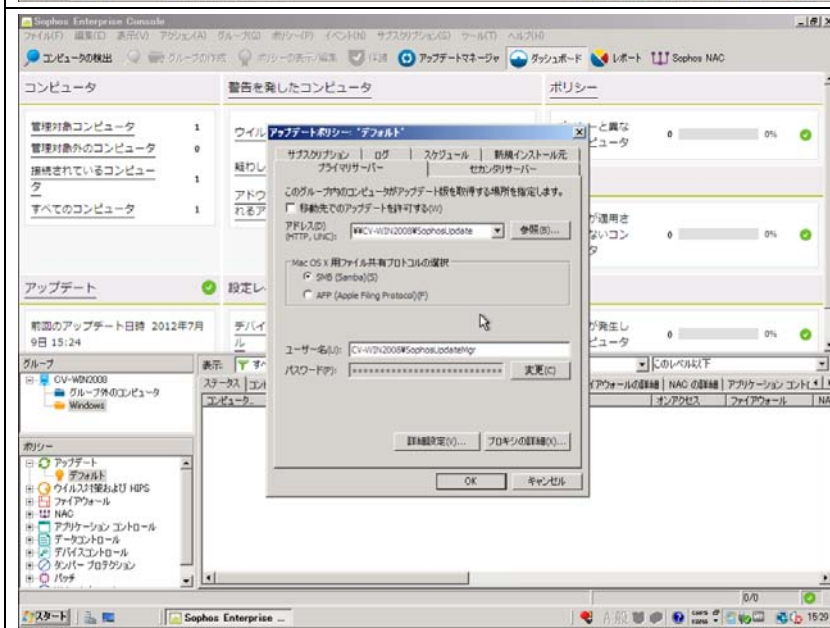
以上で Web CID 環境の設定は完了です。

4.3. アップデートポリシーへのWeb CID

- ・ 作成した Web CID 環境でアップデートを行うように、アップデートポリシーの編集を行います。
- ・ 注意点として、Web CID 環境を構築しても Cifs 更新環境を完全に消去できるわけではありません。
- ・ 新規インストール時には Web CID 環境ではなく Cifs 環境が使用されます。(解説有り)

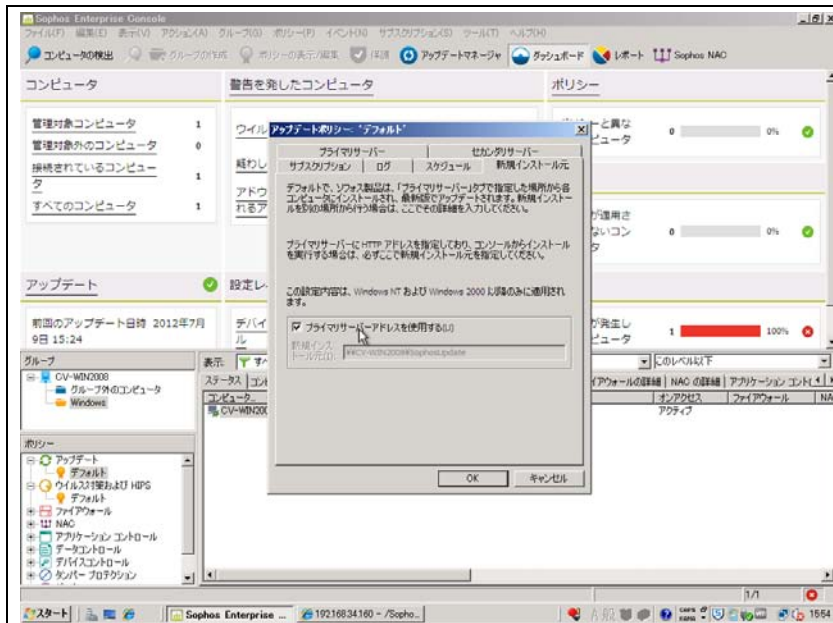


「ポリシー」欄の「アップデートポリシー」から使用するポリシーを右クリックし、「ポリシーの表示／編集」をクリックします。

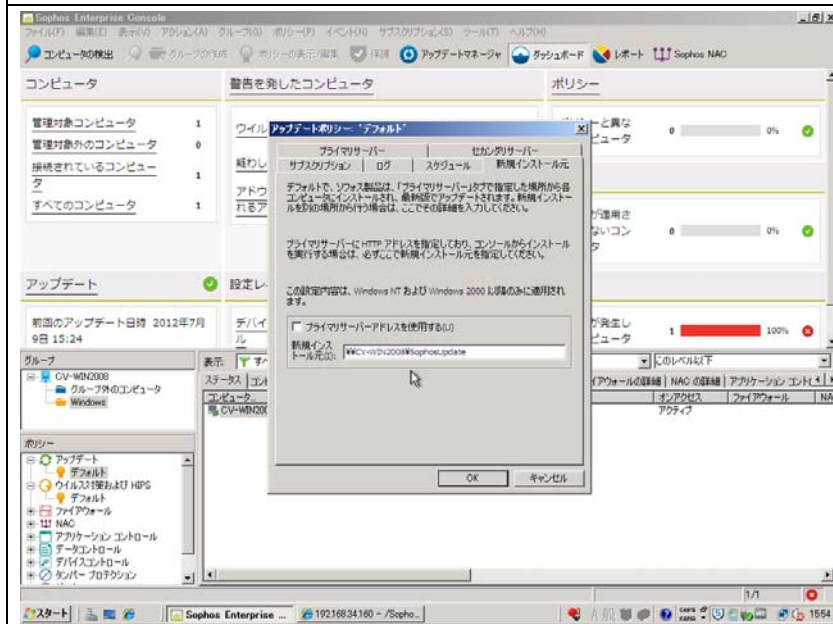


アップデートポリシー編集画面が開きます。

※この時点では未だアドレスを変更しないで下さい。

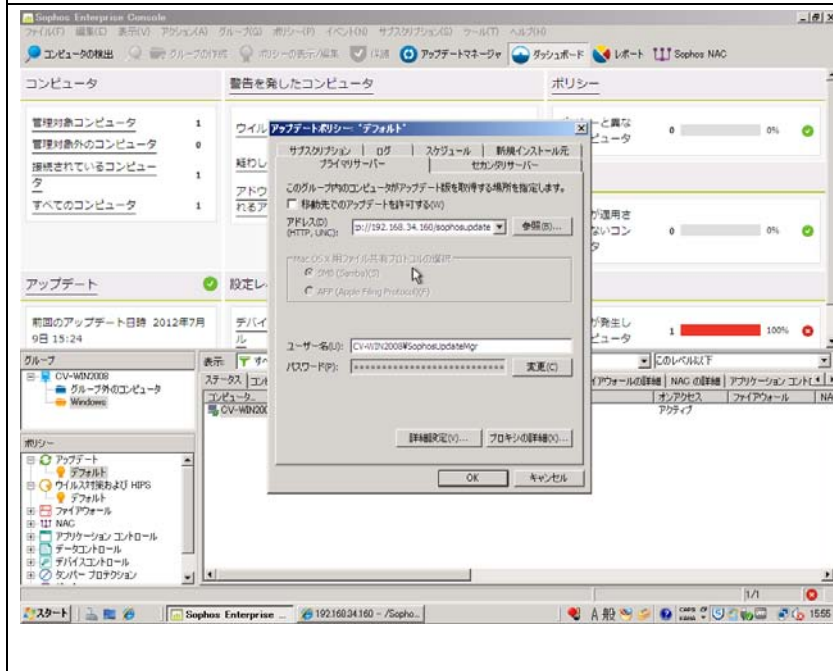


「新規インストール元」タブを選択します。



「プライマリサーバーアドレスを使用する」のチェックボックスを外します。

「コンピュータ名¥SophosUpdate」と設定されていることを確認して下さい。



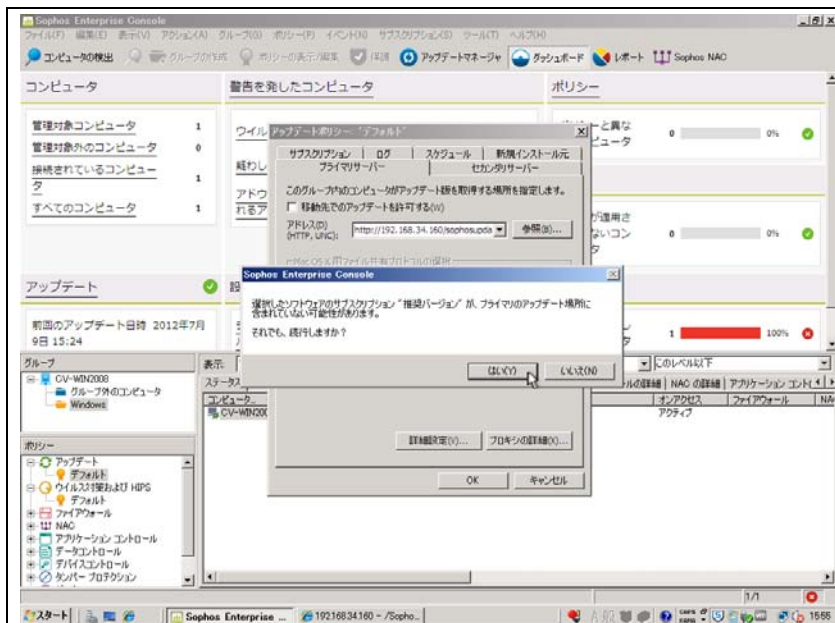
再び「プライマリサーバー」タブへ移動し、アドレスにWEB CID環境の「仮想ディレクトリまでのアドレス」を記載します。

例) 「http://IP アドレス/SophosUpdate」

なお、ユーザ名とパスワードは使用しない場合でもそのまま残しておいて下さい。

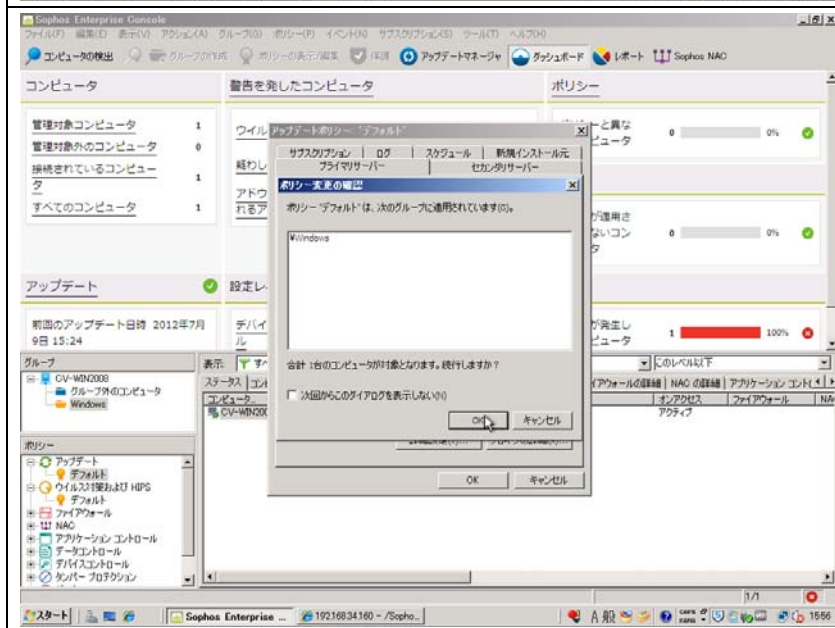
初回インストール時、Cifs アクセスを行い際にこの情報が使用されます。

入力が完了したら「OK」をクリックします。



ダイアログが表示されますが、「はい」をクリックします。

※Sophos デフォルト以外の場合表示されます。



既にグループに割り当てられているポリシーの場合、確認画面が表示されます。

内容を確認し、「OK」をクリックして画面を閉じます。

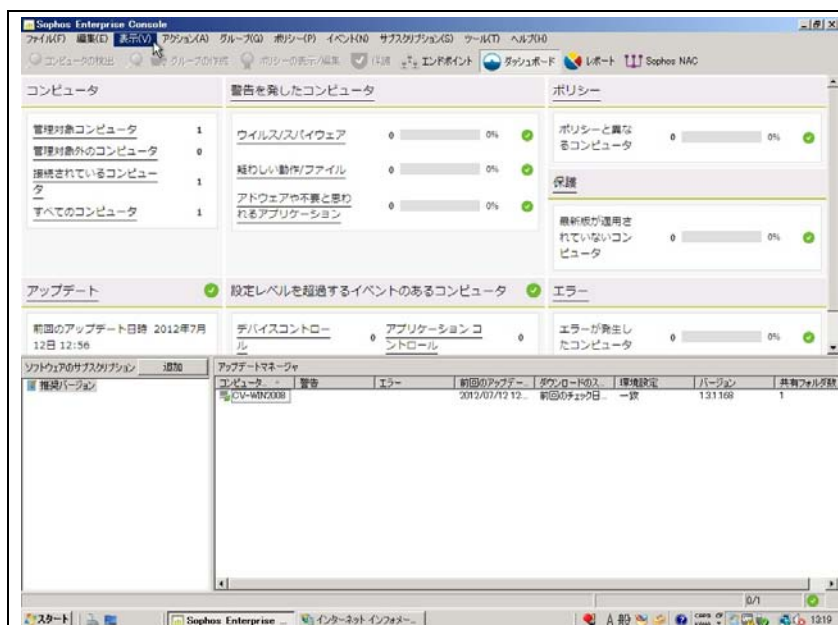
以上でアップデートポリシーの設定が官僚となります。

5. クライアント導入・管理化手順

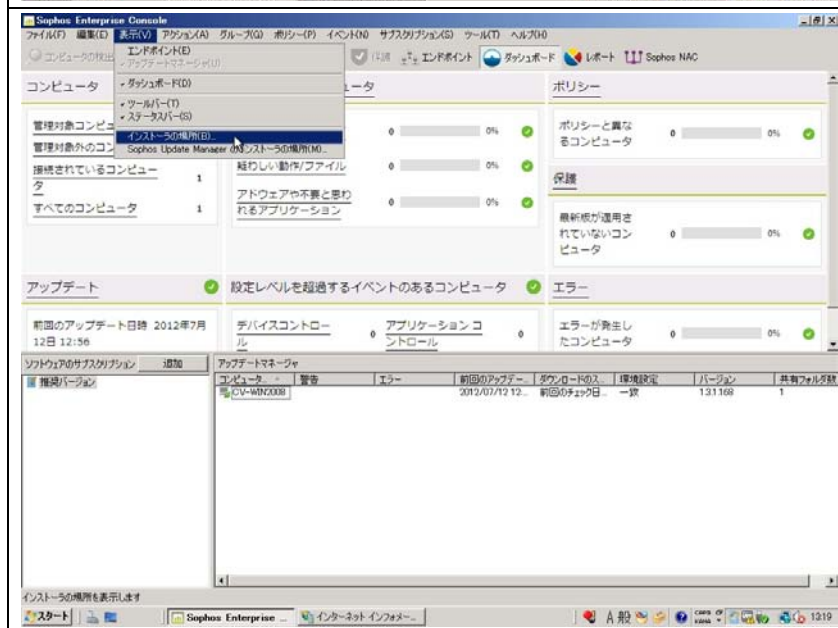
- ・ クライアントのインストールと管理サーバへの接続を行います。
- ・ インストールはクライアント側からの手動インストールを想定しています。

5.1. インストーラの生成場所を確認する

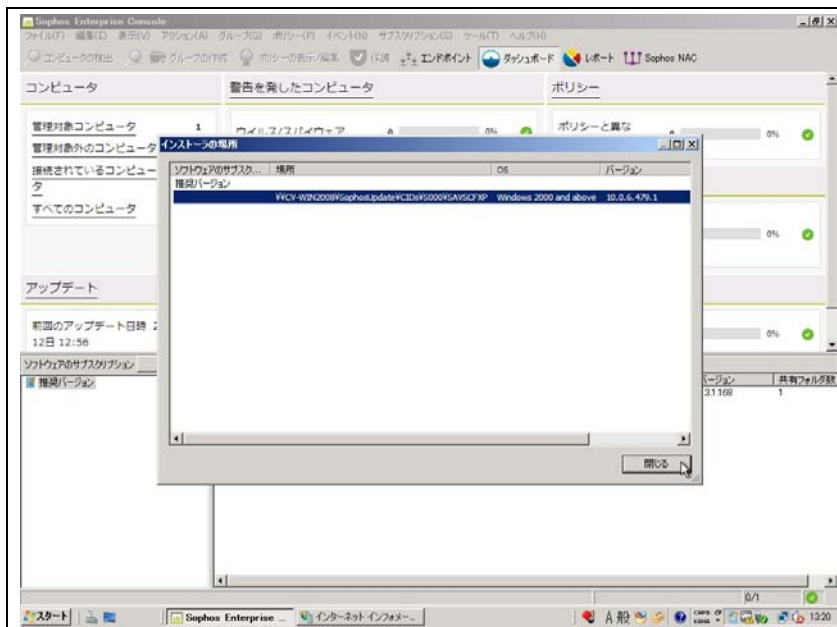
- ・ Sophos では「Warehouse」をインターネットから取得後に、インストーラを自己作成します。
- ・ サイトで配布されている「スタンドアロンインストーラ」とは異なることに注意して下さい。
- ・ スタンドアロン版は管理機能を持っていません。また、有効化無効化を個別に設定できません。
- ・ 生成されたインストーラは「生成した SEC が親サーバ」であることを記録しています。
そのため、別の SEC で生成したクライアントを使用したインストールも出来ません。



EnterpriseConsole を起動します。



ツールバーから「表示」→「インストーラの場所」をクリックします。



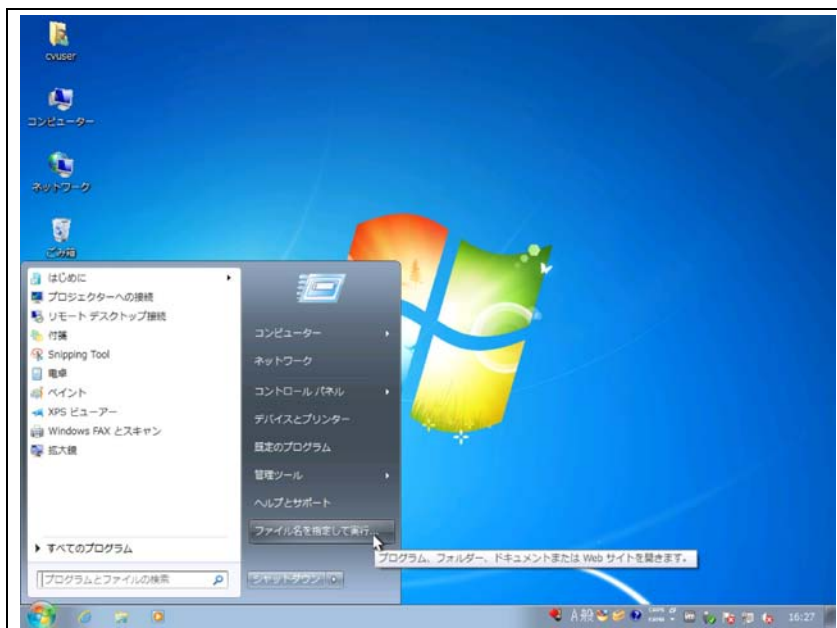
インストーラの場所情報が表示されます。

確認が出来たら、「閉じる」をクリックして
ウインドウを閉じます。

5.2. クライアントのインストール (Windows)

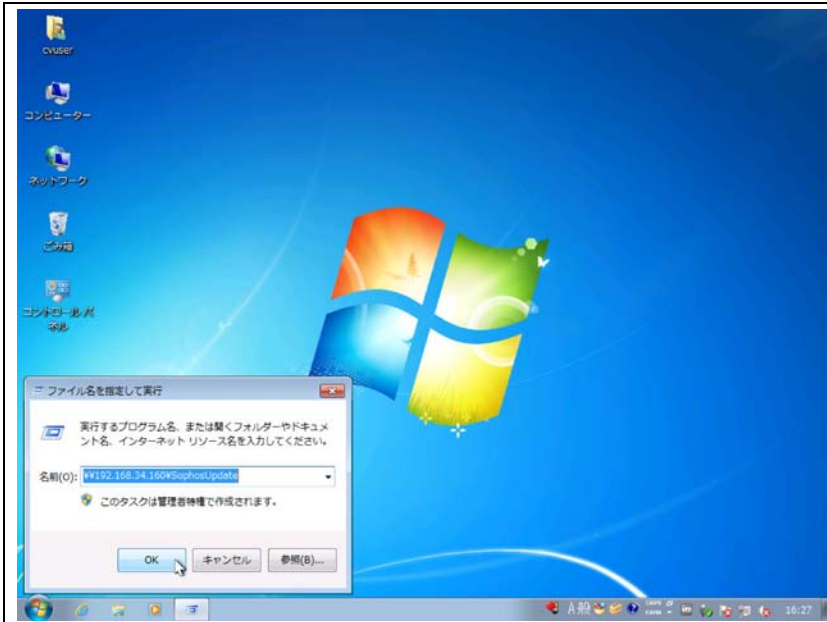
5.2.1. Sophos Endpoint Security and Control (Windows版アンチウイルス) のインストール

- ・ クライアント側からの操作になります。
- ・ 初回のみ Cifs 接続で管理サーバの共有フォルダにアクセスする必要があります。
- ・ Sophos サイトで配布しているスタンドアロン版とは別になります。(要再インストール)
- ・ Cifs 接続が出来ない場合、「オールインワンパッケージ」を作成する必要があります。
(※オールインワンパッケージは特殊な事例のため、ここでは解説しません。)

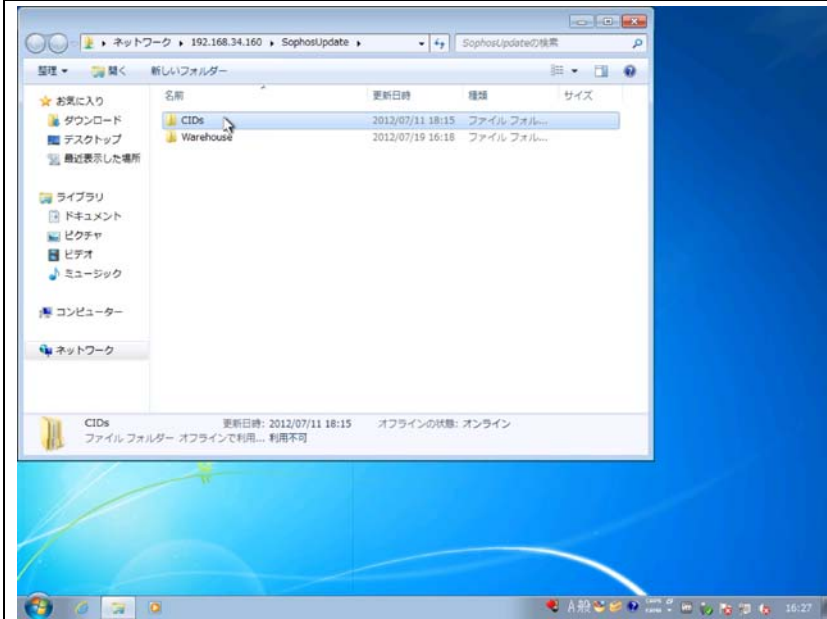


スタートメニューをクリックし、「ファイル
名を指定して実行」をクリックします。

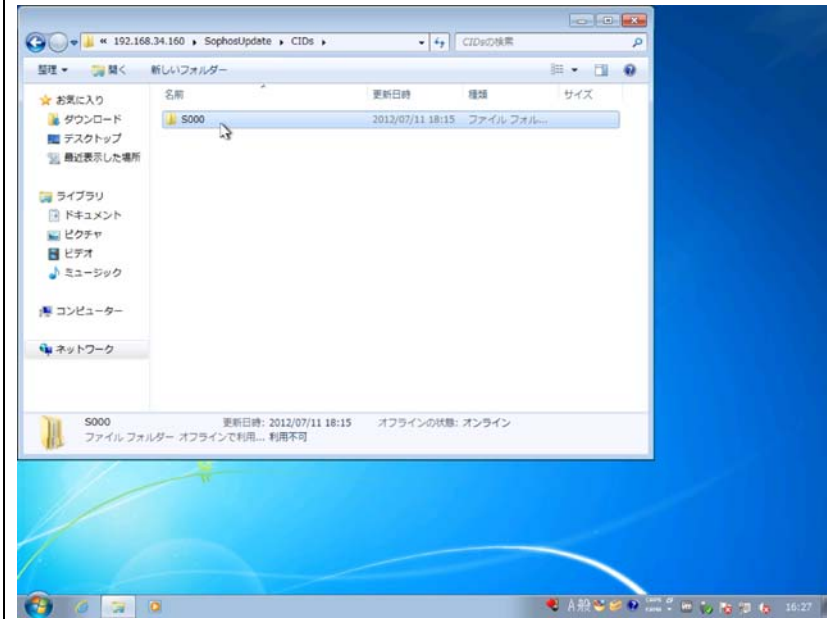
「¥¥管理サーバの IP¥SophosUpdate」を入力し、「OK」をクリックします。(名前解決できる場合は名前でも可能)

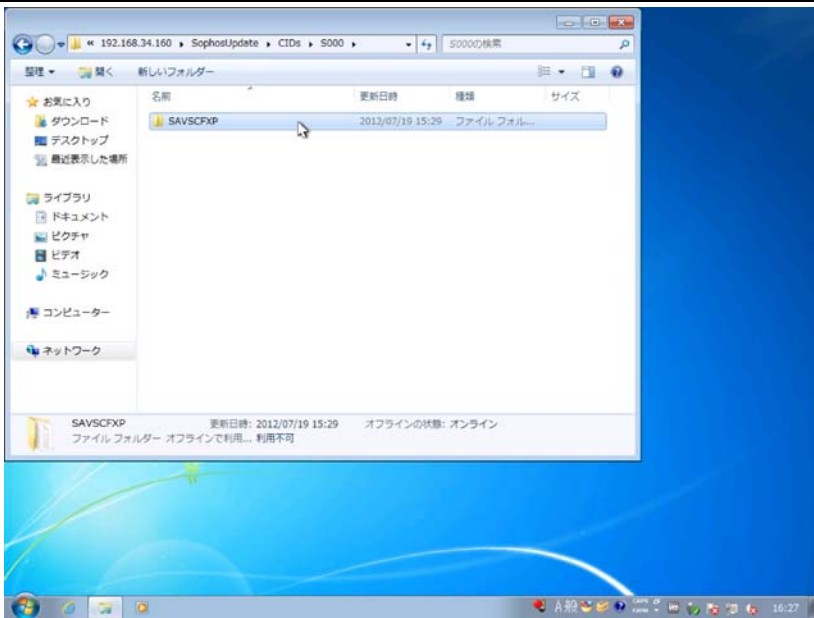


共有フォルダが表示されますので、「CIDs」フォルダに進みます。

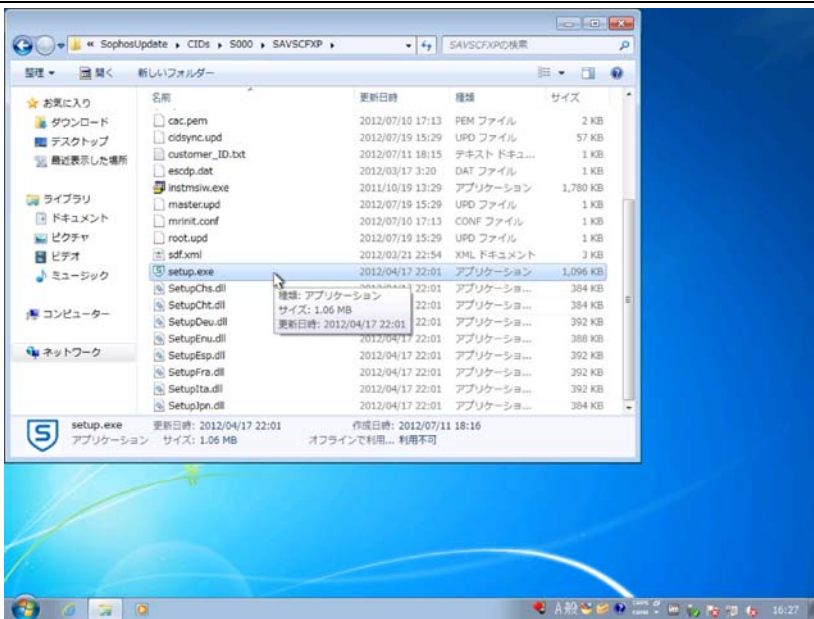


「S000」フォルダに進みます。



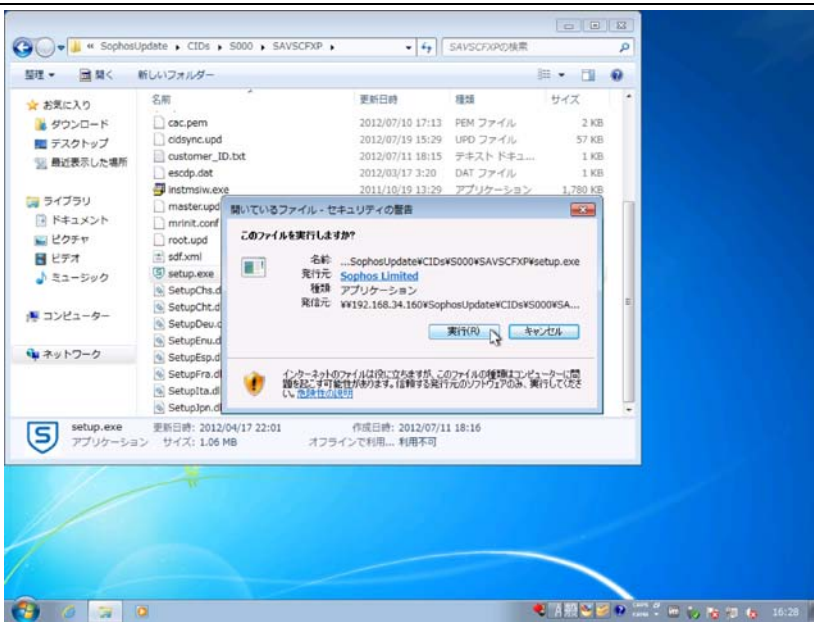


「SAVSCFXP」(サーバライセンスの場合は「ESXP」の場合があります)へ進みます。



「setup.exe」をダブルクリックします。

※SAVSCFXP (ESXP) フォルダをローカルコピーしてのインストールは、インストール失敗の原因となりますので行わないで下さい。必ず共有フォルダ上で「setup.exe」を実行して下さい。



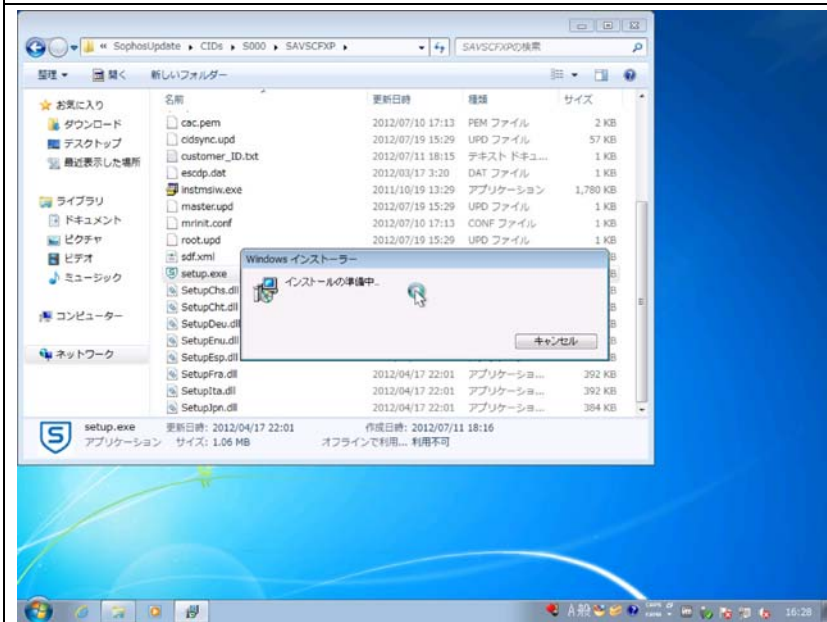
セキュリティの警告が表示された場合「実行」をクリックします。



セットアップ画面が表示されます。

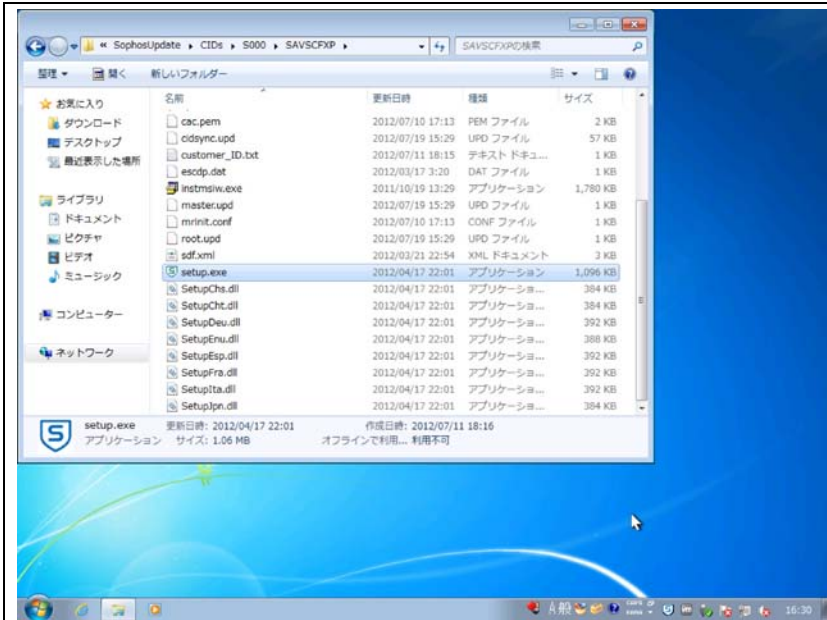


ユーザ名「SophosUpdateMgr」とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。



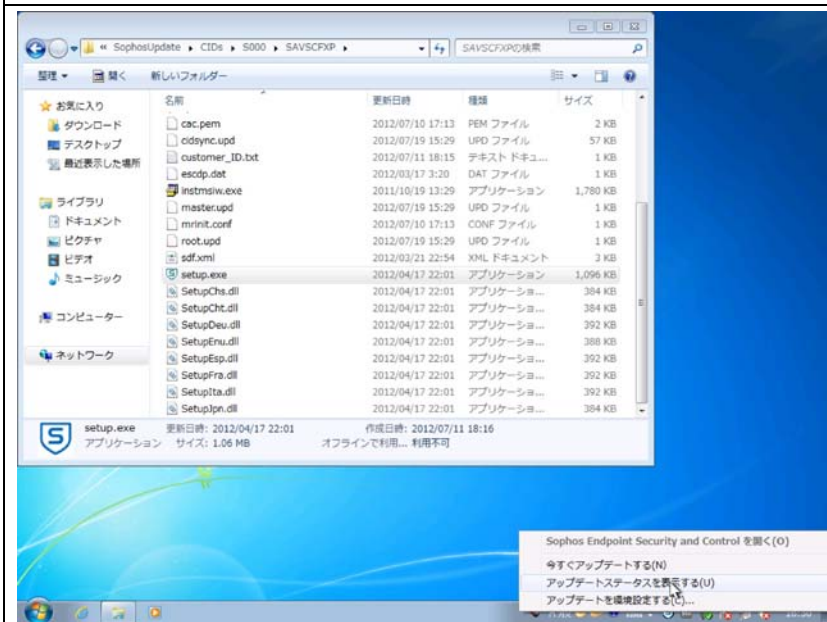
インストールが実行されるので、しばらく待ちます。

暫くすると、画面右下のタスクトレイに「setup.exe」と同様の「S」マークの付いたアイコンが表示されます。



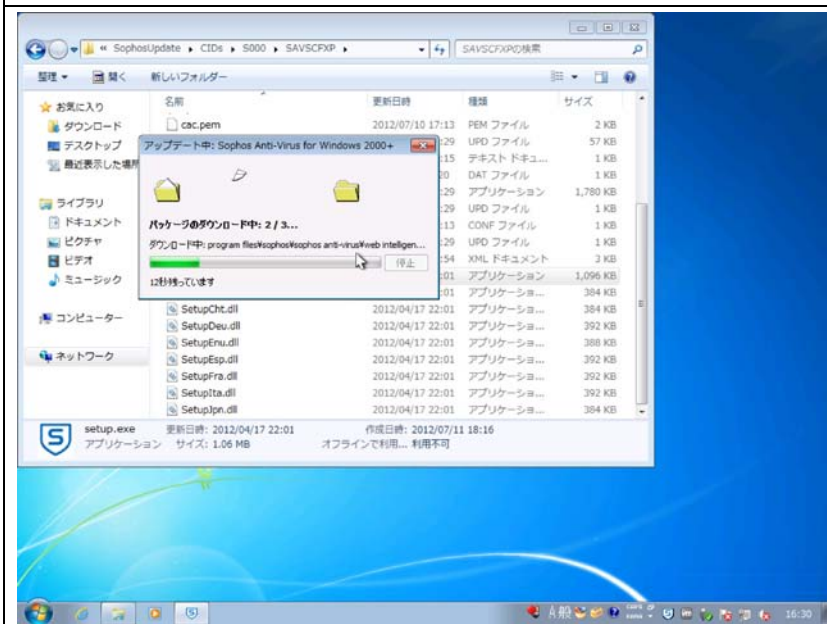
タスクトレイのアイコンを右クリックし、「アップデートステータスを表示する」を選択します。

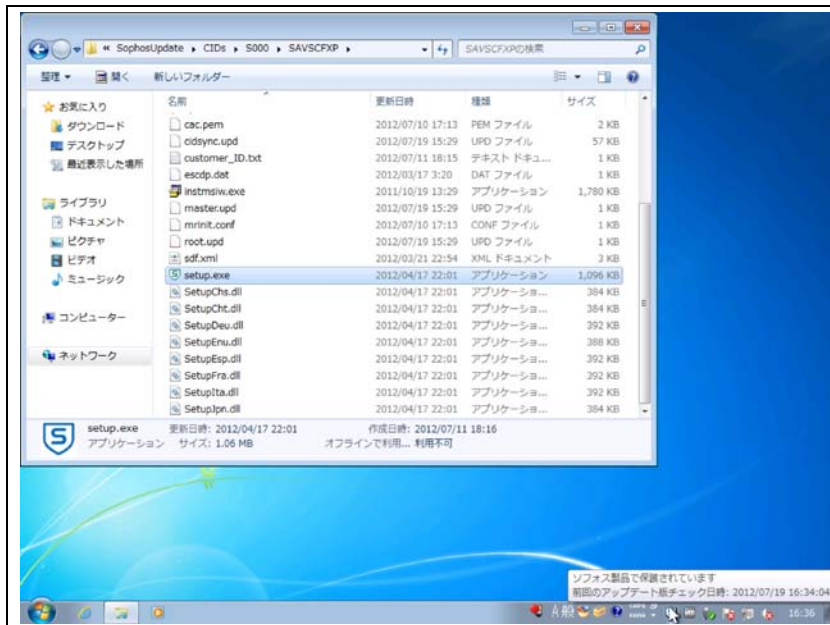
※インストールが完全に終了すると、この選択肢は表示されなくなりますが、確認を行うだけですので表示し損なっても問題はありません。



ダウンロード・セットアップ状況が表示されます。

※ここでタスクトレイのアイコンに「x」マークが付いてしまう場合、共有フォルダにアクセスしているユーザアカウント情報が正しくない場合があります。





アップデートステータスが表示されなくなったら、カーソルをタスクトレイのアイコンに重ねます。

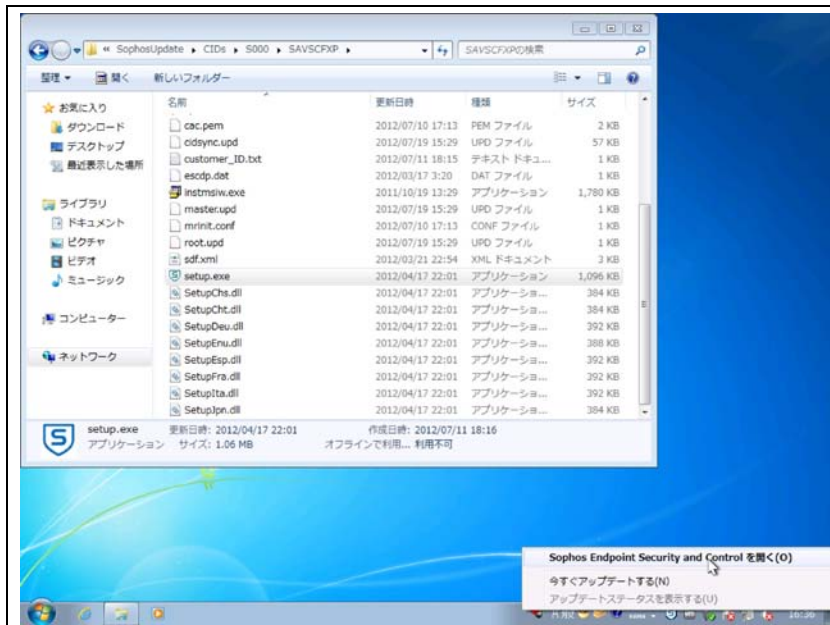
「Sophos 製品で保護されています」と表示されたら、インストール作業は完了です。

※引き続き、管理サーバでの登録作業が必要となります。

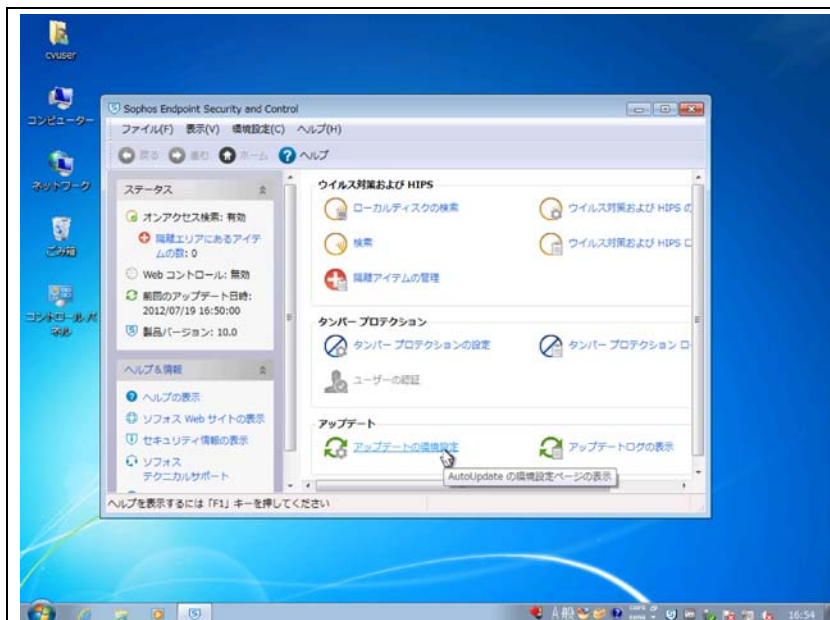
5.2.2. Sophos Endpoint Security and Control (Windows版アンチウイルス) の管理登録

- ・ 管理サーバで生成したクライアントは、管理サーバ側でのみ設定変更を行うため、一部の項目がロックされています。
- ・ 本項目では、クライアントの管理サーバへの登録と確認を行います。
- ・ 確認作業を除いて、管理サーバの作業となります。

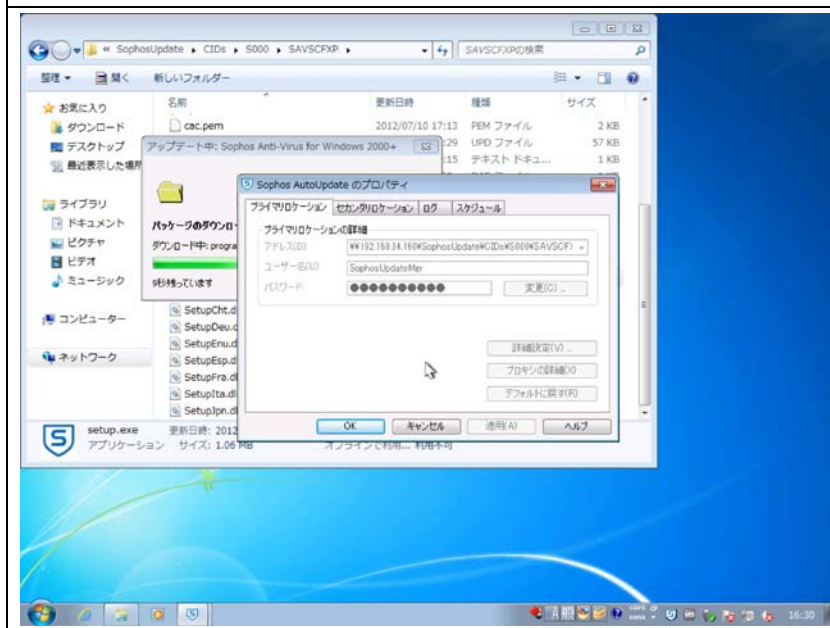
■クライアント側作業



クライアント側でタスクトレイのアイコンを右クリックし、「Sophos Endpoint Security and Control を開く」をクリックします。



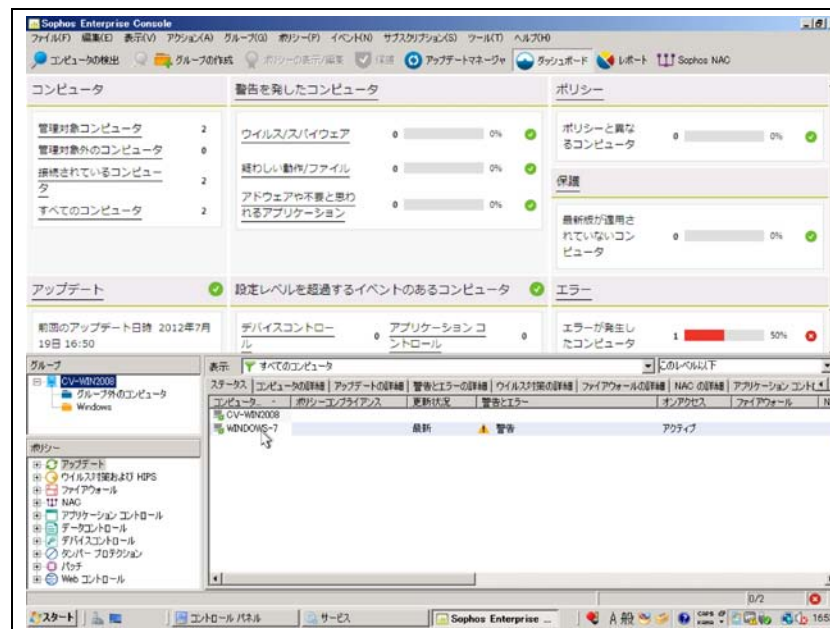
クライアント画面が開きますので「アップデート環境設定」をクリックします。



現時点では、最初に入力した共有フォルダのアドレスが表示されていることを確認します。

確認が終わったら「キャンセル」をクリックしてプロパティを閉じます。

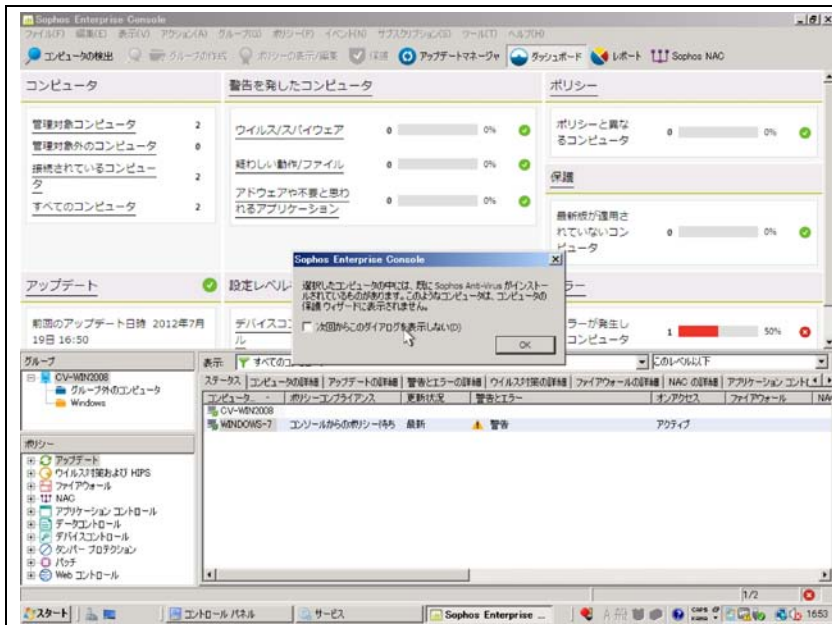
■管理サーバ側作業



続いて管理サーバで Enterprise Console を起動します。

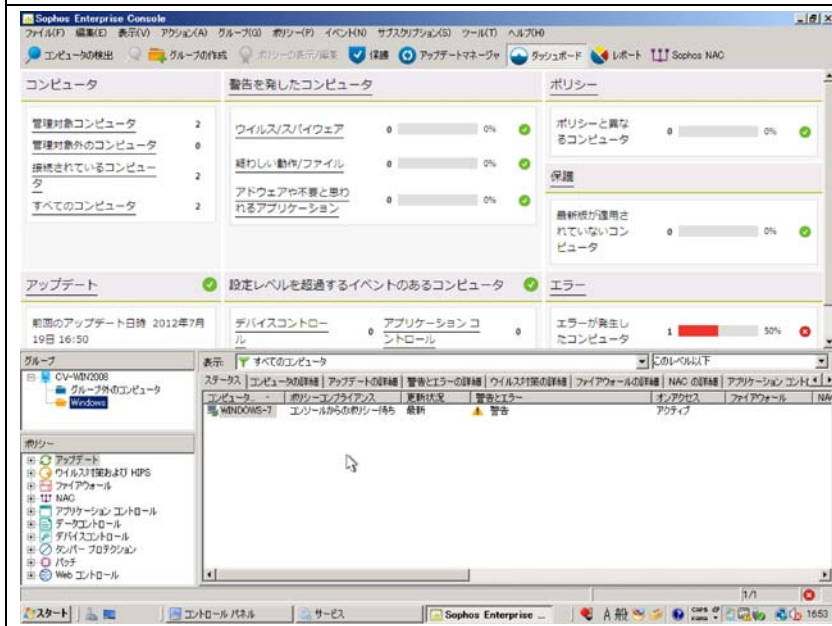
「グループ」→「管理サーバのホスト名」を選択した際に、ホスト一覧に先ほど追加されたクライアントが存在することを確認します。

※複数 NIC を持つサーバの場合、最大 15 分程度かかる場合があります。この場合、一時的に Sophos で使用しない NIC を無効化（抜線ではなく）することで認識される場合があります。



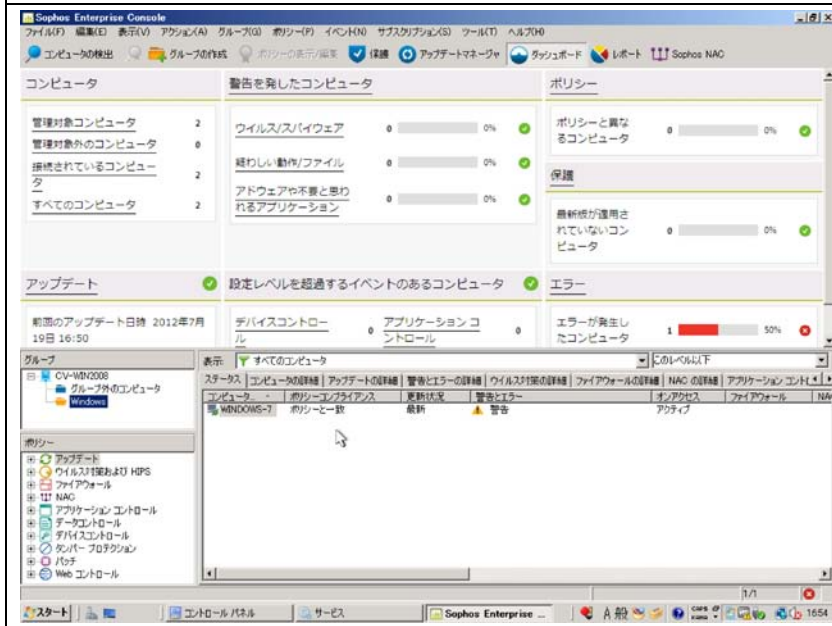
クライアントのホスト名を「グループ」内に作成しているグループフォルダ（この場合、Windows）へドラッグ&ドロップします。

Sophos インストール済みとの確認ダイアログが表示されますので、「OK」をクリックします。



先ほどドラッグ&ドロップしたグループフォルダをクリックします。所属しているクライアントが表示されることを確認します。

「ポリシーコンプライアンス」が「コンソールからのポリシー待ち」となっていることを確認します。

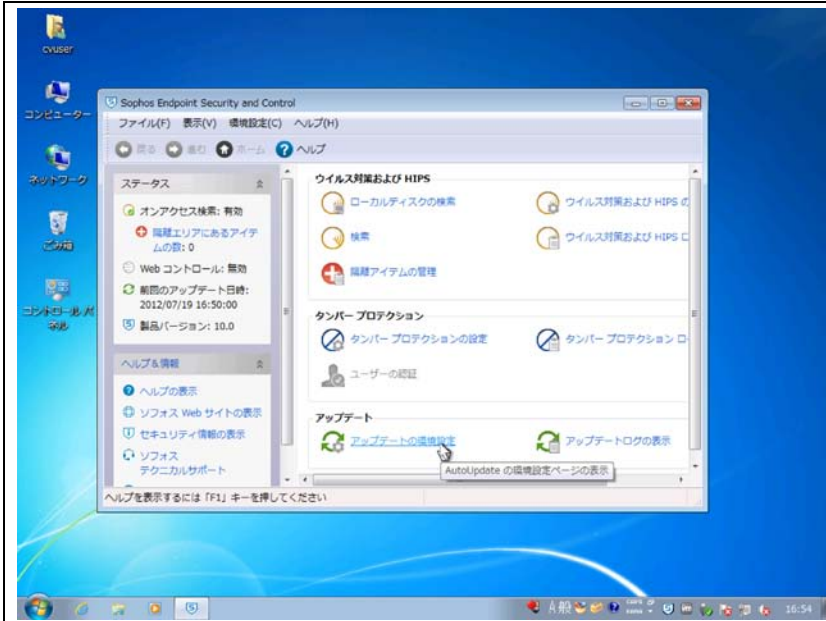


暫くすると、「ポリシーコンプライアンス」が「ポリシーと一致」に変化することを確認します。

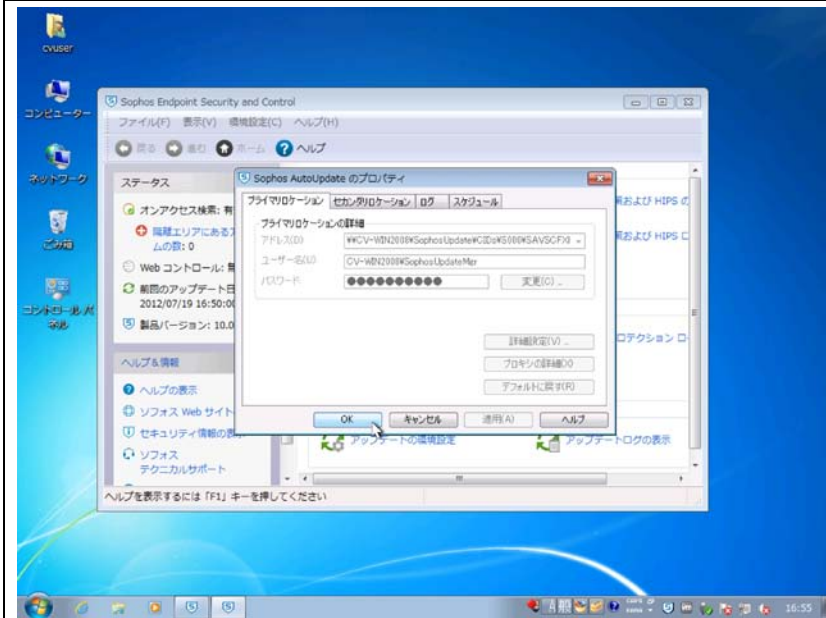
以上で管理サーバ側の作業は完了です。クライアント側で最終確認を行って下さい。

※この際、初回インストールの Windows クライアントは警告が表示されることがありますが、これは後述する再起動を要求するものですので確認して下さい。

■クライアント側作業

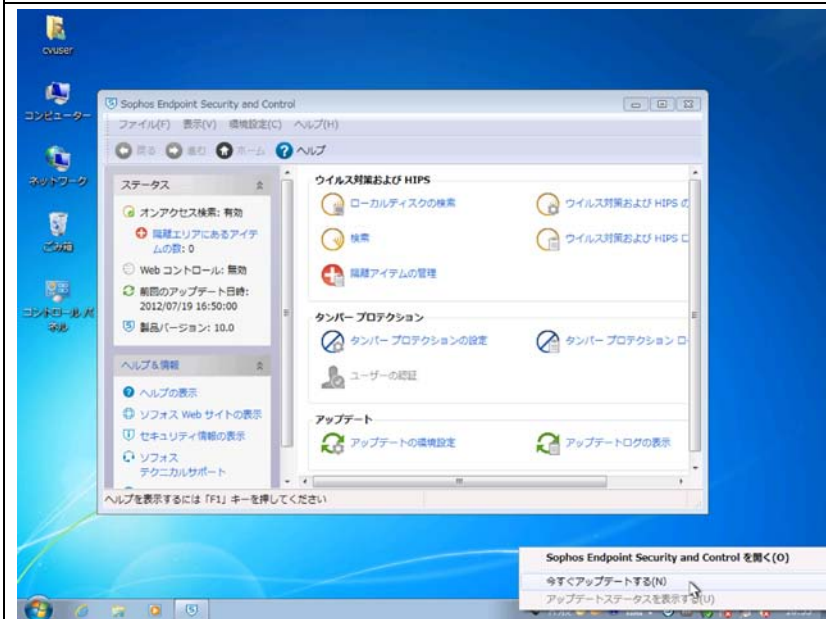


クライアント側で再度「アップデートの環境設定」を開きます。

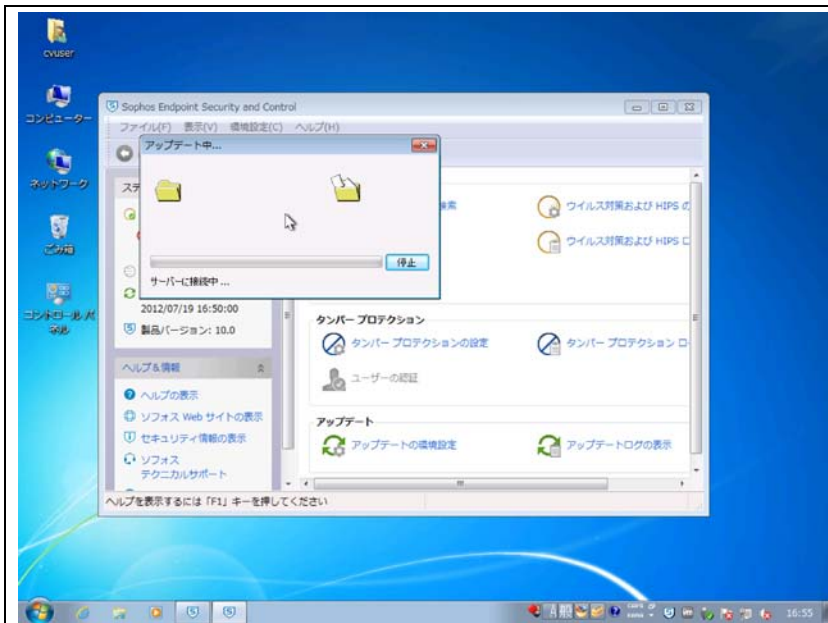


当初、インストール時に入力した共有フォルダとなっていたアドレスが、アップデートポリシーで設定している内容に置換されていることを確認します。

確認が終了したら「OK」をクリックして閉じます。

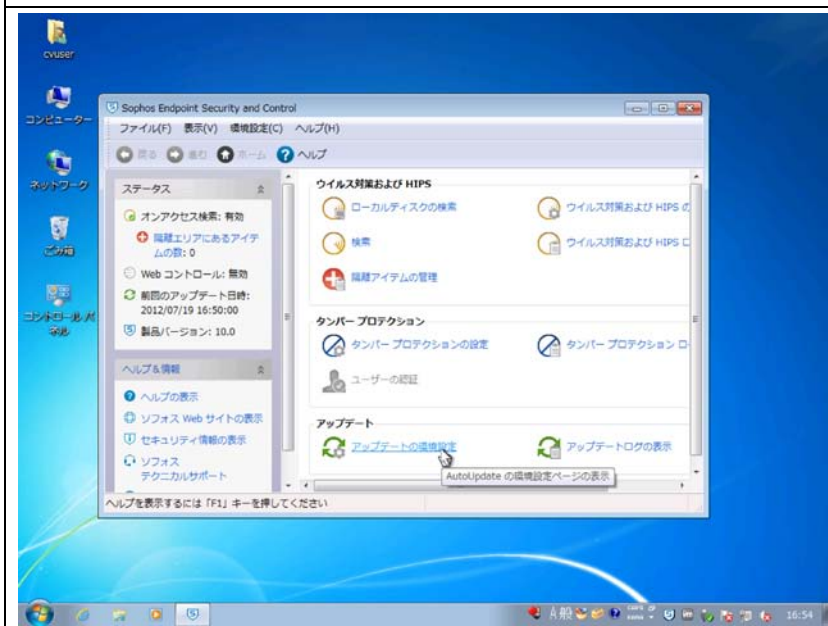


タスクトレイのアイコンを右クリックし、「今すぐアップデートする」をクリックします。

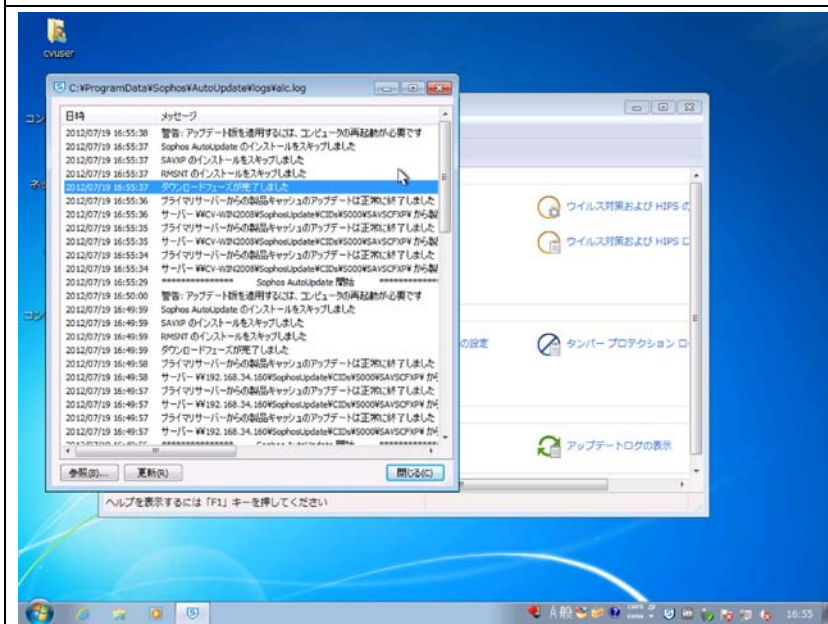


アップデートダイアログが表示されます。正しく設定されている場合、アップデート画面は自動的に閉じます。

※ここで「アップデート中」→「サーバに接続できません」と表示される場合、管理サーバのアップデートポリシーを見なおして、再度ポリシーの適用を行って下さい。



続いて「アップデートログの表示」をクリックします。



ここで直近のアップデートにエラーが表示されていないことを確認します。

また、「警告: アップデート版を適用するには、コンピュータの再起動が必要です」と表示されている場合には、再起動を行って下さい。

再起動後、暫くすると Enterprise Console 上の警告マークもクリアされます。

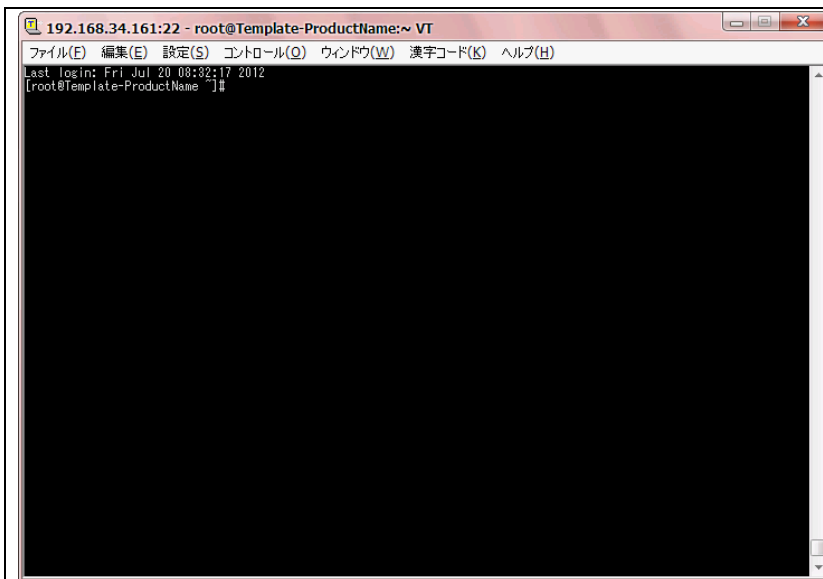
以上でインストール作業は終了です。

5.3. クライアントのインストール (Linux)

5.3.1. Sophos Anti-Virus 7.x (Linux版) のインストール

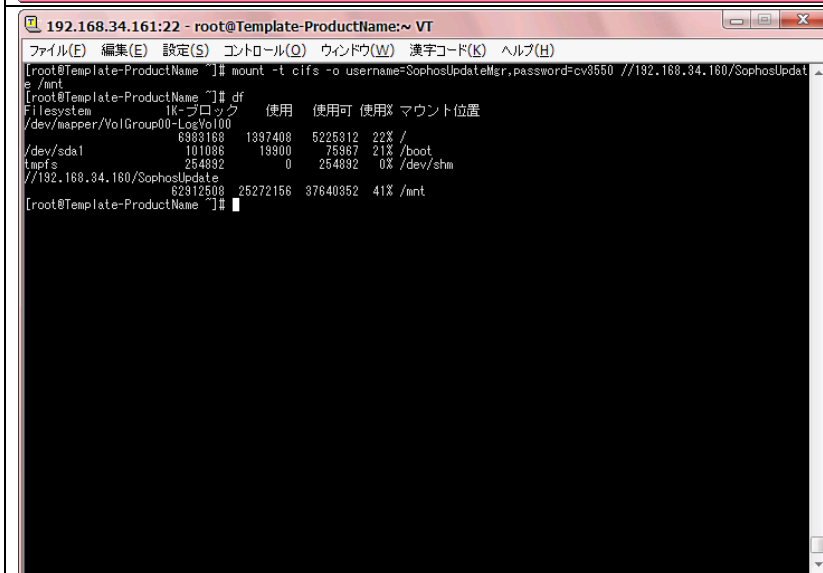
- ・ クライアント側からの操作になります。
- ・ Windows 版と異なりインストールフォルダを圧縮し、クライアントで展開して導入できます。
- ・ Linux 版と UNIX 版はほぼ同じ手順で導入できますが、一部名称や手順が異なります。
- ・ UNIX、サポート外の Linux ディストリビューションではオンアクセス検索が無効になります。
- ・ Sophos サイトで配布しているスタンドアロン版とは別になります。(要再インストール)

■ クライアント側作業



```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName:~ VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
Last login: Fri Jul 20 08:32:17 2012
[root@Template-ProductName ~]#
```

コンソールに root ユーザでログインします。



```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName:~ VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
[root@Template-ProductName ~]# mount -t cifs -o username=SophosUpdateMgr,password=cv3550 //192.168.34.160/SophosUpdateMgr /mnt
[root@Template-ProductName ~]# df
Filesystem            1K-ブロック   使用   使用可   使用%   マウント位置
/dev/mapper/VoLGroup00-LosYo100 6983168    1397408    5225312    22%   /
/dev/sda1              101088     19900     75987    21%   /boot
tmpfs                  254892      0     254892     0%   /dev/shm
//192.168.34.160/SophosUpdateMgr 62912508  25272156  37640352  41%   /mnt
[root@Template-ProductName ~]#
```

下記のコマンドで SophosUpdateMgr ユーザを使い、cifs 領域をマウントします。df コマンドなどでマウントできていることを確認します。

```
# mount -t cifs ¥
-o username=SophosUpdateMgr,¥
password=cv3550 ¥
//192.168.34.160/SophosUpdate /mnt
```

※¥を利用せずに 1 行で OK です。


```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName:~ VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
[root@Template-ProductName ~]# cd /mnt/
CIDs/
  Warehouse/
[root@Template-ProductName ~]# cd /mnt/CIDs/S000/savlinux
```

次のコマンドを実行し、インストーラのディレクトリに移動します。

```
# cd /mnt/CIDs/S000/savlinux
```

※サブスクリプションでLinuxを選択していない場合、ディレクトリが存在しないので注意して下さい。

※UNIX版の場合、unixinst という名前になり、更にアーキテクチャ名(intel/sparc)のフォルダ以下となります。

```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName:/mnt/CIDs/S000/savlinux VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
[root@Template-ProductName savlinux]# ls
addfile.sh  customer_lb.txt  manifest.dat  root_upd      savVersion    talpa        version
addlbo.sh  doc               master.upd    root_manifest.dat  save         talpa.dat
cac.pem    fullVersion      mkinstpkg.sh sav-linux     sdf.xml       talpaVersion
cidsync.upd  install.sh      ninit.conf   sav.dat      supported_kernels.txt  uncdownload
[root@Template-ProductName savlinux]# sh install.sh
```

次のコマンドを実行して、インストーラを起動します。

```
# sh install.sh
```

※共有フォルダ上でも構いませんが、Linux/UNIXの場合はこのディレクトリをアーカイブして配布してもインストールすることが出来ます。

```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName:/mnt/CIDs/S000/savlinux VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
[root@Template-ProductName savlinux]# ls
addfile.sh  customer_lb.txt  manifest.dat  root_upd      savVersion    talpa        version
addlbo.sh  doc               master.upd    root_manifest.dat  save         talpa.dat
cac.pem    fullVersion      mkinstpkg.sh sav-linux     sdf.xml       talpaVersion
cidsync.upd  install.sh      ninit.conf   sav.dat      supported_kernels.txt  uncdownload
[root@Template-ProductName savlinux]# sh install.sh

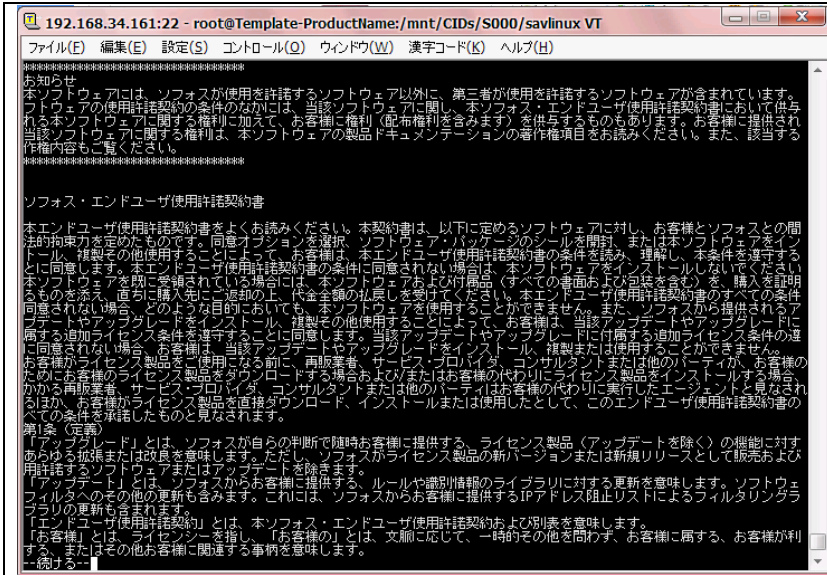
Sophos Anti-Virus
=====
Copyright (c) 1989-2012 Sophos Group. All rights reserved.

Sophos Anti-Virus インストーラへようこそ。Sophos Anti-Virus には、オンアクセスキャナ、オンデマンドコマンドラインスキャナ、Sophos Anti-Virus デーモン、および Sophos Anti-Virus GUI があります。

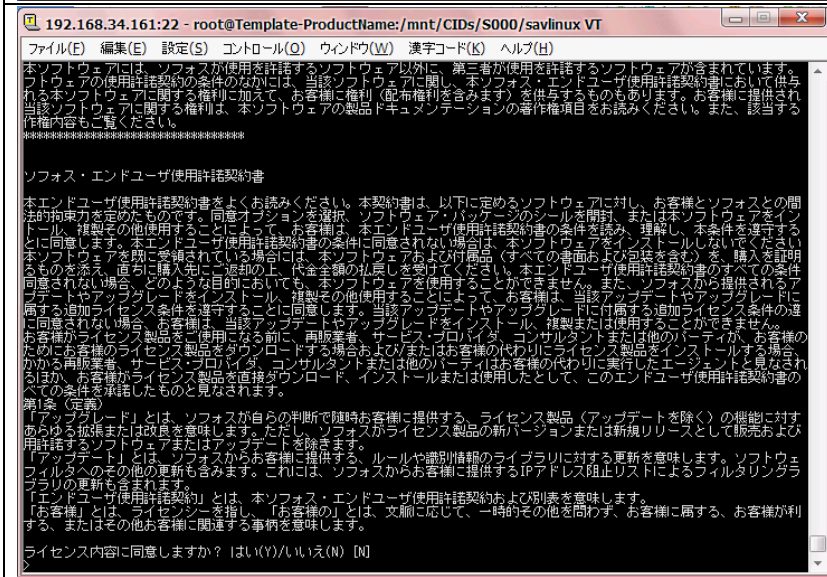
オンアクセスキャナ      ファイルがアクセスされると検索し、未感染の場合のみアクセスを許可
オンデマンドスキャナ     コンピュータの全体または一部を直ちに検索
Sophos Anti-Virus デーモン  Sophos Anti-Virus にコントロール、ログ、メール警告機能を提供するバックグラウンドプロセス
Sophos Anti-Virus GUI     Web ブラウザ経由でアクセスするユーザーインターフェース

「Enter」キーを押して、使用許諾契約書を表示してください。そして、<spc> を押してスクロールダウンしてください。
```

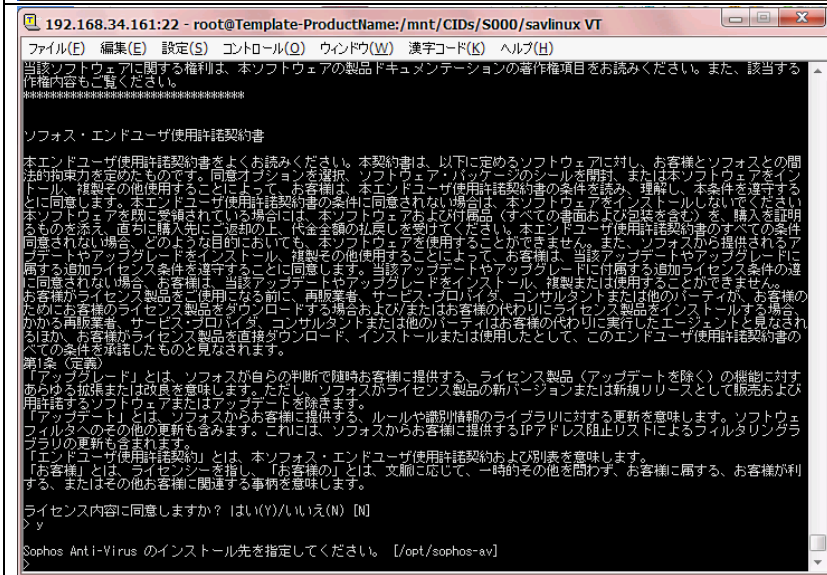
Enter キーを入力して利用規約を表示します。



スペースキーで最後まで表示するか、「q」キーを入力してスキップします。



「ライセンス内容に同意しますか? はい(Y)/いいえ(N) [N]」に対して、「Y」を入力して Enter を入力します。

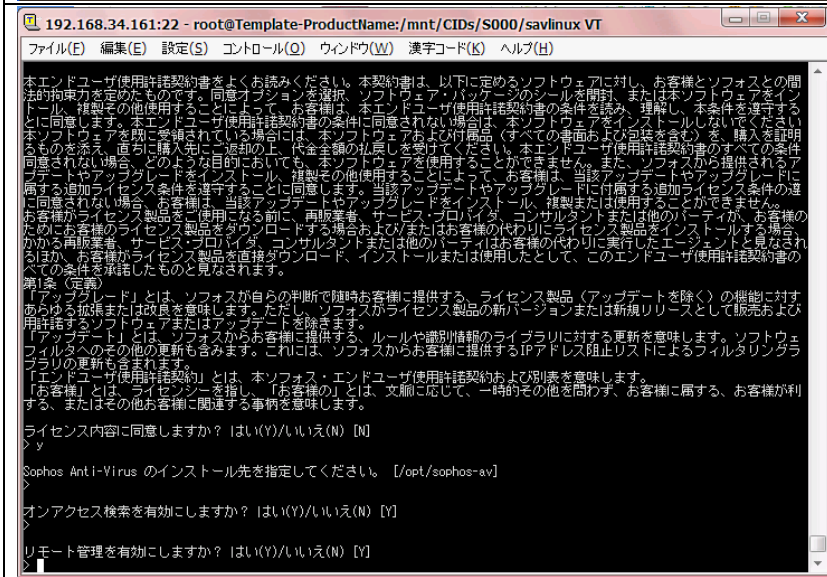


「Sophos Anti-Virus のインストール先を指定してください。 [/opt/sophos-av]」に対し、そのまま Enter キーを入力します。



オンアクセス検索が利用可能なインストーラの場合、「オンアクセス検索を有効にしますか? はい(Y)/いいえ(N) [Y]」と表示されるので、通常の場合はそのまま Enter を入力します。

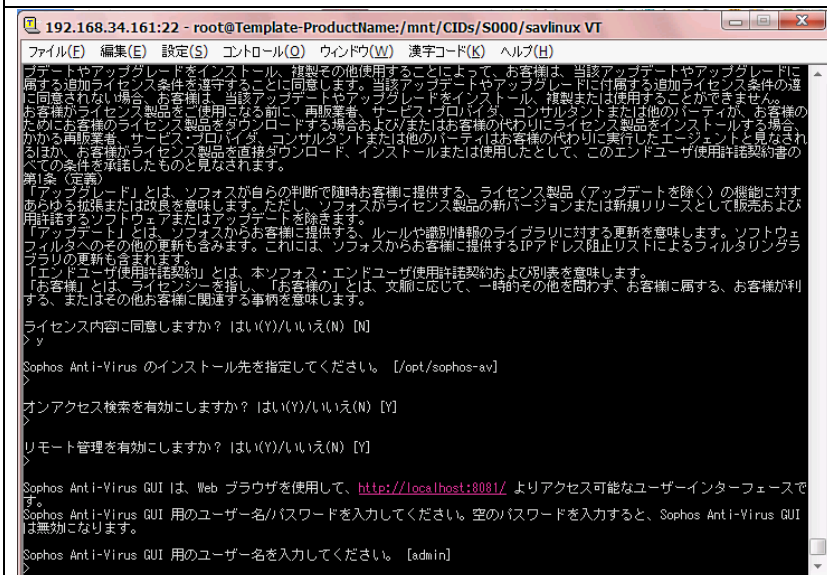
※この項目は後から変更することが可能です。パラメータシートに従って有効無効を設定して下さい。



「リモート管理を有効にしますか? はい(Y)/いいえ(N) [Y]」と表示されるので、通常の場合「Y」を入力します。

※この項目はスタンドアロンインストーラには表示されません。スタンドアロン版は SEC をアップデート元にする自動的に管理されるので注意して下さい。

※SEC 環境でスタンドアロンにするには、SEC が生成したインストーラで本項目を「N」とする必要があります。



Linux 版の場合、WEB-GUI の有効無効を設定することが出来ます。

ユーザ名を入力し、Enter を入力します。

※ユーザ名は利用しない場合でも設定する必要があります。

※WEB-GUI ポートの変更は、インストーラ後に savsetup コマンドで行うことが出来ます。

```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName:/mnt/CIDs/S000/savlinux VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
知るか、お客様がライセンス製品を直接ダウンロード、インストールまたは使用したとして、このエンドユーザ使用許諾契約書の
すべての条件を承諾したものと見なされます。
第1条 (定義)
「アップグレード」とは、ソフォスから自らの判断で随時お客様に提供する、ライセンス製品（アップデートを除く）の機能に対す
あらゆる拡張または改良を意味します。ただし、ソフォスがライセンス製品の新しいバージョンまたは新規リリースとして販売および
用許諾するソフトウェアまたはアップデートを除きます。
「アップデート」とは、ソフォスからお客様に提供する、ルールや識別情報のライブラリに対する更新を意味します。ソフトウェア
ファイルのその他の更新も含まれます。これには、ソフォスからお客様に提供するIPアドレス阻止リストによるフィルタリングラ
イブラリの更新も含まれます。
「エンドユーザ使用許諾契約」とは、本ソフォス・エンドユーザ使用許諾契約および別表を意味します。
「お客様」とは、ライセンスを指し、「お客様の」とは、文脈に応じて、一時的その他を問わず、お客様に属する、お客様が利
する、またはその他お客様に関連する事柄を意味します。
ライセンス内容に同意しますか？ はい(Y)/いいえ(N) [N]
> y
Sophos Anti-Virus のインストール先を指定してください。 [/opt/sophos-av]
>
オンアクセス検索を有効にしますか？ はい(Y)/いいえ(N) [Y]
>
リモート管理を有効にしますか？ はい(Y)/いいえ(N) [Y]
>
Sophos Anti-Virus GUI は、Web ブラウザを使用して、http://localhost:8081/ よりアクセス可能なユーザーインターフェースで
です。
Sophos Anti-Virus GUI 用のユーザー名/パスワードを入力してください。空のパスワードを入力すると、Sophos Anti-Virus GUI
は無効になります。
Sophos Anti-Virus GUI 用のユーザー名を入力してください。 [admin]
>
Sophos Anti-Virus GUI 用のパスワードを入力してください。
>
空のパスワードを入力すると、Sophos Anti-Virus GUI は無効になります。
Sophos Anti-Virus GUI 用のパスワードを入力してください:
```

パスワードを入力します。
ここでパスワードを設定せずに **Enter** キー
を入力した場合、GUI デーモンは起動しま
せん。

※ここで無効とした場合でも、インストー
ル後に有効化することが出来ます。

```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName:/mnt/CIDs/S000/savlinux VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
用許諾するソフトウェアまたはアップデートを除きます。
「アップグレード」とは、ソフォスからお客様に提供する、ルールや識別情報のライブラリに対する更新を意味します。ソフトウェ
ファイルのその他の更新も含まれます。これには、ソフォスからお客様に提供するIPアドレス阻止リストによるフィルタリングラ
イブラリの更新も含まれます。
「エンドユーザ使用許諾契約」とは、本ソフォス・エンドユーザ使用許諾契約および別表を意味します。
「お客様」とは、ライセンスを指し、「お客様の」とは、文脈に応じて、一時的その他を問わず、お客様に属する、お客様が利
する、またはその他お客様に関連する事柄を意味します。
ライセンス内容に同意しますか？ はい(Y)/いいえ(N) [N]
> y
Sophos Anti-Virus のインストール先を指定してください。 [/opt/sophos-av]
>
オンアクセス検索を有効にしますか？ はい(Y)/いいえ(N) [Y]
>
リモート管理を有効にしますか？ はい(Y)/いいえ(N) [Y]
>
Sophos Anti-Virus GUI は、Web ブラウザを使用して、http://localhost:8081/ よりアクセス可能なユーザーインターフェースで
です。
Sophos Anti-Virus GUI 用のユーザー名/パスワードを入力してください。空のパスワードを入力すると、Sophos Anti-Virus GUI
は無効になります。
Sophos Anti-Virus GUI 用のユーザー名を入力してください。 [admin]
>
Sophos Anti-Virus GUI 用のパスワードを入力してください。
>
空のパスワードを入力すると、Sophos Anti-Virus GUI は無効になります。
Sophos Anti-Virus GUI 用のパスワードを入力してください:
パスワードが入力されなかったため、Sophos Anti-Virus GUI を無効にしています。有効にするには、/opt/sophos-av/bin/savset
up を実行してください。
Sophos Anti-Virus をインストールしています...
適切なカーネルサポートを選択しています...
```

インストールが開始されます。

※最新版の CID が取得出来ていない場合、
ここでカーネルサポートの選択に失敗する
場合があります。

※サポート外のディストリビューションの
場合も同様にカーネルサポートの選択に失
敗する場合があります。

```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName:/mnt/CIDs/S000/savlinux VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
「エンドユーザ使用許諾契約」とは、本ソフォス・エンドユーザ使用許諾契約および別表を意味します。
「お客様」とは、ライセンスを指し、「お客様の」とは、文脈に応じて、一時的その他を問わず、お客様に属する、お客様が利
する、またはその他お客様に関連する事柄を意味します。
ライセンス内容に同意しますか？ はい(Y)/いいえ(N) [N]
> y
Sophos Anti-Virus のインストール先を指定してください。 [/opt/sophos-av]
>
オンアクセス検索を有効にしますか？ はい(Y)/いいえ(N) [Y]
>
リモート管理を有効にしますか？ はい(Y)/いいえ(N) [Y]
>
Sophos Anti-Virus GUI は、Web ブラウザを使用して、http://localhost:8081/ よりアクセス可能なユーザーインターフェースで
です。
Sophos Anti-Virus GUI 用のユーザー名/パスワードを入力してください。空のパスワードを入力すると、Sophos Anti-Virus GUI
は無効になります。
Sophos Anti-Virus GUI 用のユーザー名を入力してください。 [admin]
>
Sophos Anti-Virus GUI 用のパスワードを入力してください。
>
空のパスワードを入力すると、Sophos Anti-Virus GUI は無効になります。
Sophos Anti-Virus GUI 用のパスワードを入力してください:
パスワードが入力されなかったため、Sophos Anti-Virus GUI を無効にしています。有効にするには、/opt/sophos-av/bin/savset
up を実行してください。
Sophos Anti-Virus をインストールしています...
適切なカーネルサポートを選択しています...
Starting Sophos Anti-Virus daemon: No TBP available, running savupdate:
Starting Sophos Management Agent:
インストールが完了しました。
```

インストールが完了したことを確認しま
す。

※この時点では未だ管理されていません。

```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName: /opt/sophos-av/bin VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
[root@Template-ProductName savlinux]# cd /opt/sophos-av/bin/
[root@Template-ProductName bin]# ls
savconfig savdctl savdstatus savlog savscan savsetup savupdate
[root@Template-ProductName bin]#
```

下記コマンドで Sophos のコマンドディレクトリへ移動します。

```
# cd /opt/sophos-av/bin/
```

```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName: /opt/sophos-av/bin VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
[root@Template-ProductName bin]# ls
savconfig savdctl savdstatus savlog savscan savsetup savupdate
[root@Template-ProductName bin]# ./savsetup
Sophos Anti-Virus 対話型 環境設定へようこそ

[1] 自動アップデートの環境設定
[2] Sophos Anti-Virus GUI 環境設定
[q] 終了
実行する操作を選択してください。 [1]
>
```

次のコマンドで、現在のアップデート先を確認します。

```
# ./savsetup
```

```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName: /opt/sophos-av/bin VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
Sophos Anti-Virus 対話型 環境設定へようこそ

[1] 自動アップデートの環境設定
[2] Sophos Anti-Virus GUI 環境設定
[q] 終了
実行する操作を選択してください。 [1]
> 1

[1] アップデートの環境設定を表示する
プライマリアップデート元を環境設定する:
[2] ソフォスから
[3] 自社サーバーから

セカンダリアップデート元を環境設定する:
[4] ソフォスから
[5] 自社サーバーから

[q] 終了
実行する操作を選択してください。 [1]
> 1

Sophos Anti-Virus はアップデートするよう設定されていません。

[1] アップデートの環境設定を表示する
プライマリアップデート元を環境設定する:
[2] ソフォスから
[3] 自社サーバーから

セカンダリアップデート元を環境設定する:
[4] ソフォスから
[5] 自社サーバーから

[q] 終了
実行する操作を選択してください。 [1]
>
```

応答に対して、次の順で回答します。

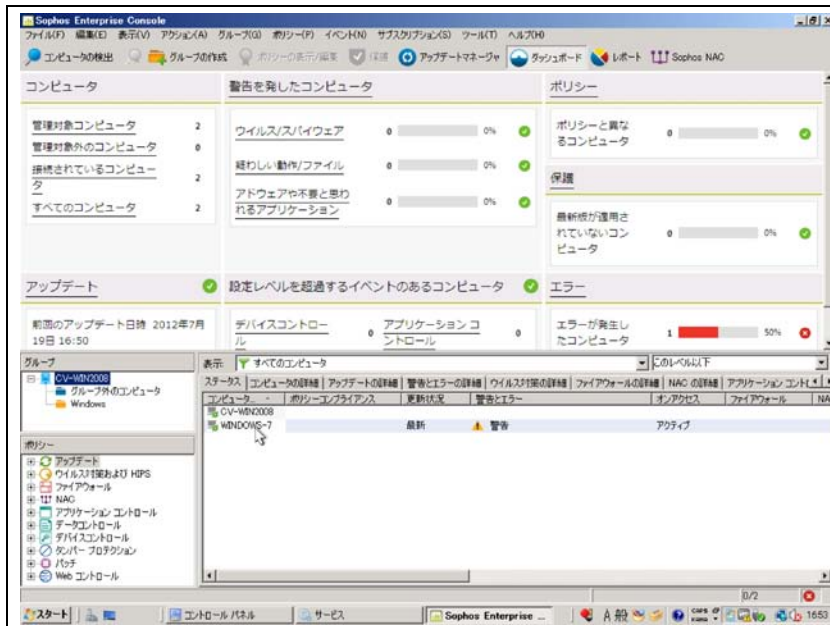
- [1] 自動アップデートの環境設定
- [1] アップデートの環境設定を表示する

「Sophos Anti-Virus はアップデートするよう設定されていません。」と回答されることを確認し、「q」を入力して Enter を入力し、対話を終了します。

5.3.2. Sophos Anti-Virus (Linux版アンチウイルス) の管理登録

- ・ 管理サーバで生成したクライアントは、管理サーバ側でのみ設定変更を行うため、一部の項目がロックされています。
- ・ 本項目では、クライアントの管理サーバへの登録と確認を行います。
- ・ 確認作業を除いて、管理サーバの作業となります。

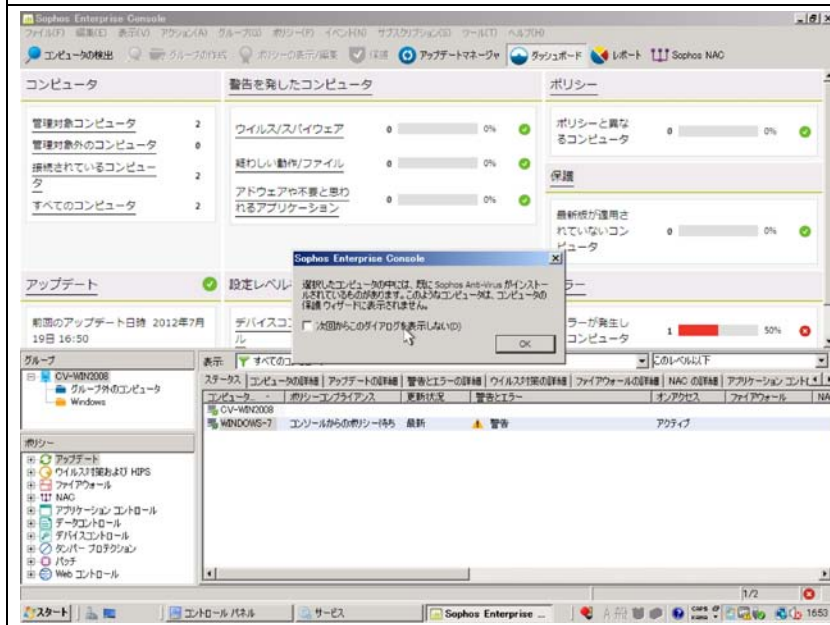
■管理サーバ側作業



続いて管理サーバで Enterprise Console を起動します。

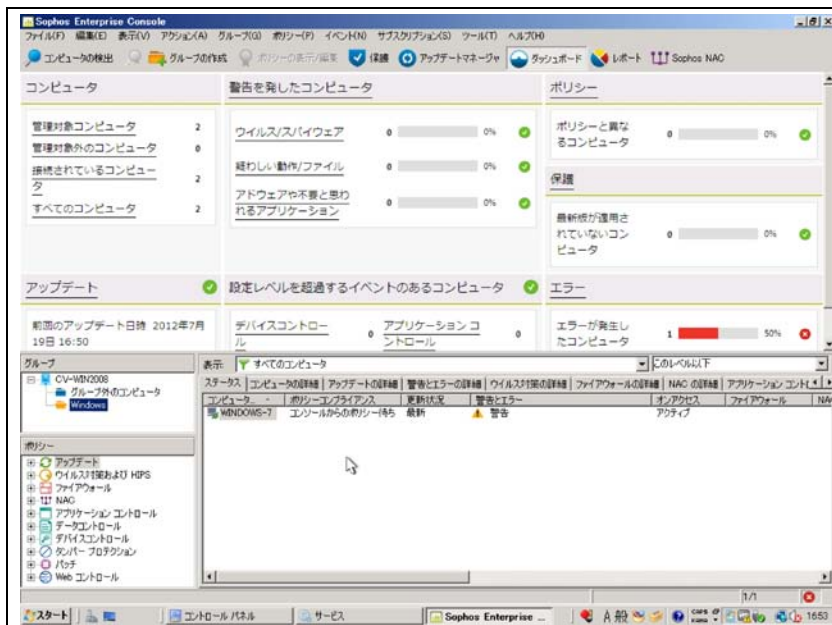
「グループ」→「管理サーバのホスト名」を選択した際に、ホスト一覧に先ほど追加されたクライアントが存在することを確認します。

※複数 NIC を持つサーバの場合、最大 15 分程度かかる場合があります。この場合、一時的に Sophos で使用しない NIC を無効化（抜線ではなく）することで認識される場合があります。



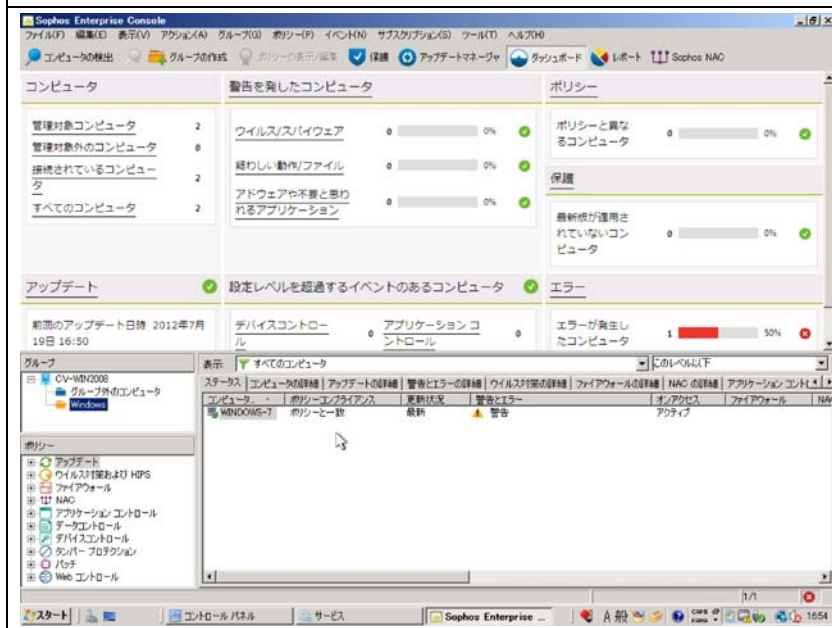
クライアントのホスト名を「グループ」内に作成しているグループフォルダ（この場合、Windows）へドラッグ&ドロップします。

Sophos インストール済みとの確認ダイアログが表示されますので、「OK」をクリックします。



先ほどドラッグ&ドロップしたグループフォルダをクリックします。所属しているクライアントが表示されることを確認します。

「ポリシーコンプライアンス」が「コンソールからのポリシー待ち」となっていることを確認します。

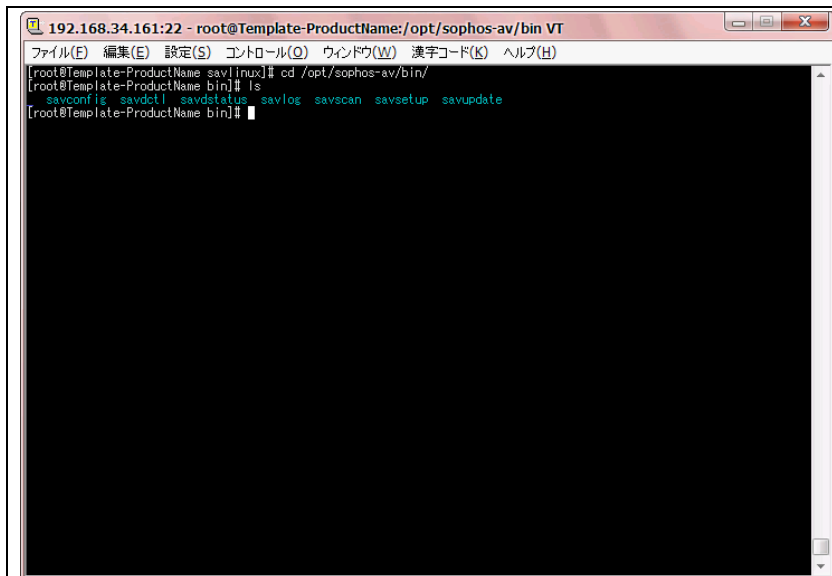


暫くすると、「ポリシーコンプライアンス」が「ポリシーと一致」に変化することを確認します。

以上で管理サーバ側の作業は完了です。クライアント側で最終確認を行って下さい。

※この際、初回インストールの Windows クライアントは警告が表示されることがありますが、これは後述する再起動を要求するものですので確認して下さい。

■ クライアント側作業



下記コマンドで Sophos のコマンドディレクトリへ移動します。

```
# cd /opt/sophos-av/bin/
```

```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName:/opt/sophos-av/bin VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
[root@Template-ProductName bin]# ls
saveconf is savedetl savdstatus savlog savscan savsetup savupdate
[root@Template-ProductName bin]# ./savsetup
Sophos Anti-Virus 対話型 環境設定へようこそ

[1] 自動アップデートの環境設定
[2] Sophos Anti-Virus GUI 環境設定
[q] 終了
実行する操作を選択してください。 [1]
>
```

次のコマンドで、現在のアップデート先を確認します。

```
# ./savsetup
```

```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName:/opt/sophos-av/bin VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
[2] Sophos Anti-Virus GUI 環境設定
[q] 終了
実行する操作を選択してください。 [1]
>
[1] アップデートの環境設定を表示する

プライマリアップデート元を環境設定する:
[2] ソフトウェアから
[3] 自社サーバーから

セカンダリアップデート元を環境設定する:
[4] ソフトウェアから
[5] 自社サーバーから

[q] 終了
実行する操作を選択してください。 [1]
>
プライマリアップデート元アドレス = #CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux
プライマリアップデート元キャッシュへのパス = /opt/sophos-av/update/cache/Primary
プライマリアップデート元用ユーザー名 = CV-WIN2008*SophosUpdateMer
プライマリ アップデート元用パスワード = *****
アップデート頻度 (分) = 10

[1] アップデートの環境設定を表示する

プライマリアップデート元を環境設定する:
[2] ソフトウェアから
[3] 自社サーバーから

セカンダリアップデート元を環境設定する:
[4] ソフトウェアから
[5] 自社サーバーから

[q] 終了
実行する操作を選択してください。 [1]
>
```

応答に対して、次の順で回答します。

- [1] 自動アップデートの環境設定
- [1] アップデートの環境設定を表示する

アップデートポリシーで設定されている内容が回答されることを確認し、「q」を入力して Enter を入力し、対話を終了します。

```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName:/opt/sophos-av/bin VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)
[root@Template-ProductName bin]# ./savupdate -v 5
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux からアップデートしています
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux/server.inf を読み込んでいます
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux/server.inf を読み込んでいます
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux/savlinux/cidsync.upd を読み込んでいます
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux/cidsync.upd を読み込んでいます
/opt/sophos-av/update/cache/Primary/cidsync.upd を読み込んでいます
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux からアップデートはありません
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux/config/index.spec を読み込んでいます
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux/ta/lpa-custom/index.spec を読み込んでいます
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux/cac.pem を読み込んでいます
/opt/sophos-av/update/cache/Primary/cac.pem を読み込んでいます
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux/mrinit.custom を読み込んでいます
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux/mrinit.custom を読み込んでいます
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux/mrinit.conf を読み込んでいます
/opt/sophos-av/update/cache/Primary/mrinit.conf を読み込んでいます
##CV-WIN2008*SophosUpdate#CIDs#S000*savlinux/master.upd を読み込んでいます
/opt/sophos-av/update/cache/Primary/master.upd を読み込んでいます
リクエスティング /opt/sophos-av/update/cache/Primary/ のコンテンツを認証しています...
Path to signed file = [/opt/sophos-av/update/cache/Primary/sav.dat]
Path to certificates-file = [/opt/sophos-av/update/certificates/rootca.crt]
Path to crl-file = [/opt/sophos-av/update/certificates/root.crl]
Path to data directory = [/opt/sophos-av/update/cache/Primary]
```

次のコマンドを入力し、詳細な進捗を表示するアップデートを行います。

```
# ./savupdate -v 5
```



```
192.168.34.161:22 - root@Template-ProductName:/opt/sophos-av/bin VT
ファイル(E) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 選択コード(K) ヘルプ(H)
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux/server.inf を読み込んでいます
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux/savlinux/server.inf を読み込んでいます
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux/savlinux/cidsync.upd を読み込んでいます
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux/cidsync.upd を読み込んでいます
/opt/sophos-av/update/cache/Primary/cidsync.upd を読み込んでいます
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux からのアップデートはありません
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux/conf/ta/custom/index.spec を読み込んでいます
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux/ta/ta-custom/index.spec を読み込んでいます
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux/cac.pem を読み込んでいます
/opt/sophos-av/update/cache/Primary/cac.pem を読み込んでいます
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux/mrinit.custom を読み込んでいます
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux/MRInit.custom を読み込んでいます
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux/mrinit.conf を読み込んでいます
/opt/sophos-av/update/cache/Primary/MRInit.conf を読み込んでいます
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux/master.upd を読み込んでいます
/opt/sophos-av/update/cache/Primary/master.upd を読み込んでいます
パッケージディレクトリ '/opt/sophos-av/update/cache/Primary' のコンテンツを認証しています...
Path to signed-file = [/opt/sophos-av/update/cache/Primary/sav.dat]
Path to certificates-file = [/opt/sophos-av/update/cache/Primary/rootca.crt]
Path to crl-file = [/opt/sophos-av/update/cache/Primary/root.crl]
Path to data directory = [/opt/sophos-av/update/cache/Primary]
data files verified ok
File signed OK
Path to signed-file = [/opt/sophos-av/update/cache/Primary/ta/ta.dat]
Path to certificates-file = [/opt/sophos-av/update/cache/Primary/rootca.crt]
Path to crl-file = [/opt/sophos-av/update/cache/Primary/root.crl]
Path to data directory = [/opt/sophos-av/update/cache/Primary]
data files verified ok
File signed OK
パッケージディレクトリ '/opt/sophos-av/update/cache/Primary' のコンテンツを認証しました
Sophos Anti-Virus を /opt/sophos-av/update/cache/Primary からアップデートしています
アップデートはありません。
##CV-WIN2008#SophosUpdate#CID#S000#savlinux からのSophos Anti-Virus のアップデートに成功しました
[root@Template-ProductName bin]
```

アップデートポリシーに基づいたアップデートが正常に行われることを確認します。

以上でクライアントの管理設定は完了です。